

平成 30 年度

セカンドスクール・プレセカンドスクール

実施報告書

平成 31 年 3 月

武蔵野市教育委員会



GOOD DESIGN AWARD
2015 年度受賞

【表紙写真】 第一小学校セカンドスクール（新潟県魚沼市）

も く じ

セカンドスクール・プレセカンドスクール実施に関する経緯	2
セカンドスクール実施要綱	5
プレセカンドスクール実施要綱	7
セカンドスクール実施地・泊数の変遷	9
プレセカンドスクール実施地・泊数の変遷	12
平成 30 年度セカンドスクール・プレセカンドスクール日程表	14
各小中学校の日程及び主な活動内容	
<小学校セカンドスクール>	
第一小学校	16
第二小学校	21
第三小学校	26
第四小学校	31
第五小学校	36
大野田小学校	41
境南小学校	46
本宿小学校	51
千川小学校	56
井之頭小学校	61
関前南小学校	66
桜野小学校	71
<中学校セカンドスクール>	
第一中学校	78
第二中学校	82
第三中学校	86
第四中学校	90
第五中学校	94
第六中学校	98
<プレセカンドスクール>	
第一小学校	104
第二小学校	108
第三小学校	112
第四小学校	116
第五小学校	120
大野田小学校	124
境南小学校	128
本宿小学校	132
千川小学校	136
井之頭小学校	140
関前南小学校	144
桜野小学校	148

セカンドスクール・プレセカンドスクール実施に関する経緯

- 平成元年度 ・武蔵野市学校経営検討委員会「生き生きとした子どもの育成を目指し、地域と一体となって進める特色ある学校づくり」(報告書)でセカンドスクールを提言。
 - ・武蔵野市セカンドスクール構想委員会発足。
- 平成2年度 ・セカンドスクール構想委員会「武蔵野市セカンドスクール構想報告書」で基本的な構想と予想される問題等についてまとめる。
- 平成3年度 ・武蔵野市セカンドスクール構想策定委員会発足。
- 平成4年度 ・「夏季山村生活体験学習」(セカンドスクール試行期間中の名称)として、長野県八坂村にて夏季休業中に6泊7日で試行。小学校6年生と中学校1年生を対象に募集し、30名が参加して行われる。
 - ・武蔵野市セカンドスクール構想策定委員会「武蔵野市・セカンドスクールの実施に向けて」(報告書)で具体的な活動内容・方法等についてまとめる。
- 平成5年度 ・対象学年・活動内容・宿泊日数等を検討するため、セカンドスクール構想による「山村生活体験教室」(セカンドスクール試行期間中の名称)として、岩手県遠野市にて夏季休業中に12泊13日で試行。小学校4年生から中学校2年生を対象に募集し、100名が参加して行われる。
 - ・対象学年を小学校5年生、中学校1年生が適当であるとの結論を出す。
- 平成6年度 ・市内小中学校教員から構成される「セカンドスクール推進委員会」を設置し、教育課程に位置付ける要件等の検討を行うとともに、教材テキスト等を作成。
 - ・小学校5年生と中学校1年生の教育課程に位置付けるために必要な要件を検討するため、岩手県遠野市にて、前年度と同様に試行。
- 平成7年度 ・小学校全13校が学期中に岩手県遠野市、長野県高遠町、富山県利賀村、新潟県小国町、山梨県中富町・高根町の6か所で、3泊4日～7泊8日で実施。
 - ・中学校は全6校の1年生から希望者(70名)を募り、合同で夏季休業中に長野県豊科町において、6泊7日で実施。
- 平成8年度 ・小中学校全18校が学期中に実施。
 - ・「セカンドスクール教材開発委員会」を設置し、提言されている総合学習に趣旨が生かされるように教材開発を行い、「セカンドスクール教材・事例集」を作成。
- 平成9年度 ・「セカンドスクール教材・事例集」を参考に、各学校が年間指導計画の作成、学習内容の変更などの工夫を図り、実施場所の特性を生かした活動内容を模索した。
- 平成10年度 ・各学校が、平成14年度から創設される「総合的な学習の時間」を見据えた活動内容を模索し、創意工夫した実践を試みた。

- 平成14年度
 - ・「武蔵野市セカンドスクール充実検討委員会」を設置。さらなる充実・発展に向けて検討し、「報告書」にまとめる。
- 平成15年度
 - ・小学校4年生を対象としたプレセカンドスクール*を4校にて試行。
*プレセカンドスクール…セカンドスクールでの学習効果を更に高めることを目的とした、小学校4年生を対象として行う短期宿泊体験学習。
 - ・武蔵野市のセカンドスクールが、「第1回オーライ！ニッポン大賞」に選定される。
- 平成16年度
 - ・プレセカンドスクールを10校にて試行。
 - ・「セカンドスクール10周年記念フォーラム」を武蔵野公会堂にて開催。
- 平成17年度
 - ・プレセカンドスクールを小学校全12校にて実施。
 - ・「体験活動検討委員会」を設置。
- 平成19年度
 - ・教育を取り巻く国の動きや社会の変化に適応するための課題を整理・検討し、「武蔵野市体験活動検討委員会報告書」にまとめる。
- 平成20年度
 - ・文部科学省、農林水産省、総務省の3省合同による「子ども農山漁村交流プロジェクト」が実施され、「豊かな体験活動推進事業」の委託校として、第三小学校、第四小学校、本宿小学校、千川小学校、桜野小学校、第一中学校が対象となった。
 - ・学習指導要領改訂を踏まえ、教育課程検討委員会において、セカンドスクール等の教育課程への位置付けに関する見直しを行った。
- 平成21年度
 - ・新型インフルエンザ流行により、小学校2校でセカンドスクール（桜野小学校）、プレセカンドスクール（境南小学校）の日程を変更し、実施日数、活動内容を変更して行った。
 - ・昨年に引き続き、文部科学省、農林水産省、総務省の3省合同による「子ども農山漁村交流プロジェクト」が実施され、「豊かな体験活動推進事業」の委託校として、第一小学校、第二小学校、第五小学校、大野田小学校、境南小学校、本宿小学校、井之頭小学校が対象となった。
- 平成22年度
 - ・麻しんの影響で第三中学校が日程を変更した。
 - ・昨年に引き続き、文部科学省、農林水産省、総務省の3省合同による「子ども農山漁村交流プロジェクト」が実施され、「豊かな体験活動推進事業」の委託校として、第一小学校、境南小学校、千川小学校が対象となった。
 - ・東京都の「小学校における自然体験活動プログラム開発支援事業」が実施され、委託校として、関前南小学校が対象となった。
 - ・セカンドスクールの効果検証のため、「セカンドスクールにおける体験活動の教育的な効果の調査」を実施した。
 - ・小学校の新学習指導要領への対応や、各校の体験活動の共有のため、「セカンドスクール実践報告会」を実施した。また、活動の実践事例集を作成した（～平成24年度）
- 平成23年度
 - ・東日本大震災の影響により、セカンドスクールでは第五小学校、千川小学校、関前南小学校、桜野小学校、プレセカンドスクールでは第一小学校、第二小学校、大野田小学校、桜野小学校が実施地を変更した。第五小学校、関前南小学校、桜野小学校のセカンドスクールは、泊数も変更した。
 - ・強い余震の発生に備え、衛星携帯電話の貸与、飲料水ペットボトル・防災食品の配布等の対応をした。また、プレセカンドスクールでは、全期間バスの借上げを行った。

- 平成25年度
 - ・第8回むさしの教育フォーラムにて「セカンドスクールで学び合う子どもたち」をテーマに第五小学校、第一中学校が特色ある体験活動や実践事例を紹介。生きる力の育成について、取り組みを共有した。
- 平成26年度
 - ・「セカンドスクール実践報告会」を実施。
 - ・文部科学省、農林水産省、総務省、環境省および国会議員による視察が行われた（長野県飯山市）。
- 平成27年度
 - ・実施20年目を迎えたセカンドスクールの取り組みが、公益財団法人日本デザイン振興会が主催する「2015年度グッドデザイン賞」を受賞。審査では「内容もこれまでの経験が集約されていて、子どもたちにとっては貴重な体験になっていると想像しています。」との評価をいただいた。
 - ・市立全小中学校で小・中学校合同セカンドスクール報告会を実施。
 - ・「セカンドスクールにおける体験活動の教育的効果の調査」を実施した。
 - ・セカンドスクールの取組を紹介するDVD、パンフレットを作成した。
 - ・「季刊むさしの」（2015冬号）、「市報1面」（平成27年12月15日号）、「きょういく武蔵野」1面（平成27年12月15日号）にセカンドスクール特集として掲載された。
 - ・全国教育長会（厚木市）で、教育長によるセカンドスクールの発表を行った。
- 平成28年度
 - ・「セカンドスクール実践報告会」を実施。
 - ・「教育委員会月報」（平成28年7月号、文部科学省発行）に、特色ある取組としてセカンドスクールについて掲載された。
 - ・一般財団法人都市農山漁村交流活性化機構による「長期宿泊体験に関する調査研究」（文部科学省委託事業）に協力した。
- 平成29年度
 - ・小中学校のセカンドスクールの連携と事例の共有を図るため「セカンドスクール担当者連絡会」を実施。
 - ・「初等教育資料」（2017年8月号、文部科学省発行）に、特色ある教育事業としてセカンドスクールについて掲載された。
 - ・文部科学省の「学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助金」を中学校6校について申請し、「健全育成のための体験活動推進事業」として認められた。
- 平成30年度
 - ・「セカンドスクール担当者連絡会」を実施。
 - ・井之頭小学校がプレセカンドスクールの実施地を群馬県片品村から東京都奥多摩町へ変更した。
 - ・文部科学省の「学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助金」を小学校6校、中学校6校について申請し、「健全育成のための体験活動推進事業」として認められた。

武蔵野市立小中学校セカンドスクール実施要綱

(目的)

第1条 この要綱は、武蔵野市立小中学校に在籍する児童及び生徒が、授業の一部を自然に恵まれた農山漁村に長期間滞在して行い、普段の学校生活（以下「ファーストスクール」という。）では体験し難い総合的な体験学習活動を行うセカンドスクールを実施することにより、次に掲げるねらいを達成することを目的とする。

- (1) 自然との触れ合いを通して、子どもたちの豊かな情操や感性をはぐくむとともに、子どもたちの知的好奇心や探究心を喚起し、課題解決への意欲や態度を培う。
- (2) 長期にわたる宿泊体験を通し、生活自立に必要な知識や技能を身に付けるとともに、子どもたちの豊かな人間関係を育てる。
- (3) 子ども同士の協働により、自主性や協調性を育てるとともに、現地の方々との交流を通じて、進んで他者とのかかわる力を培う。

(実施学年)

第2条 実施学年は、小学校においては第5学年、中学校においては第1学年とする。

(活動内容)

第3条 セカンドスクールで実施する指導内容は、それぞれの実施学年の総合的な学習の時間、教科、特別活動及び道徳とし、各学校が創意をもって学習活動を計画し、実施するものとする。

- 2 武蔵野市立学校の管理運営に関する規則（昭和50年6月武蔵野市教育委員会規則第2号）第17条の規定により、校長は、セカンドスクールの教育課程への位置付けを武蔵野市教育委員会（以下「委員会」という。）に届け出なければならない。

(実施場所)

第4条 校長は、セカンドスクールの実施場所について、児童及び生徒にとって多様で魅力的な活動が可能であり、かつ、地域社会から協力が得られる場所を選定するものとし、委員会がこれを承認するものとする。

(指導者等)

第5条 セカンドスクールの引率及び指導には、実施学年の学級担任があたるものとし、その他の教員もファーストスクールの教育活動に支障のない範囲で引率及び指導を行うものとする。

- 2 教員の指導補助として学習指導員又は生活指導員を配置するものとする。
- 3 学習指導員は、教員の指示を受け、教材の作成、指導の補助、指導記録の整理等にあたるものとする。
- 4 生活指導員は、宿舎内外における児童及び生徒の健康、安全等生活にかかわる援助及び必要に応じた指導にあたるものとする。
- 5 セカンドスクールには、看護師を各学校1人同行させるものとし、児童及び生徒の健

健康管理にあたるものとする。

(費用)

第6条 児童及び生徒は、食費の額を考慮して教育長が別に定める費用を負担するものとする。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか必要な事項については、教育長が別に定める。

付 則

この要綱は、平成14年11月1日から施行する。

付 則

この要綱は、平成18年4月1日から適用する。

付 則

この要綱は、平成20年4月1日から施行する。

付 則

この要綱は、平成29年4月1日から施行する。

武蔵野市立小学校プレセカンドスクール実施要綱

(目的)

第1条 この要綱は、武蔵野市立小学校がセカンドスクール（武蔵野市立小中学校セカンドスクール実施要綱（平成14年11月1日施行）に規定するセカンドスクールのうち小学校第5学年で実施するものをいう。以下同じ。）を実施するにあたり、同要綱第1条に掲げるねらいの達成に寄与するため、プレセカンドスクールを実施することにより、次に掲げるねらいを達成することを目的とする。

- (1) 自然との触れ合いを通して、子どもたちの豊かな情操や感性をはぐくむとともに、子どもたちの知的好奇心や探究心を喚起し、課題解決への意欲や態度を培う。
- (2) 短期の宿泊体験を通じて、集団生活の基礎を身に付けるとともに、子どもたちの豊かな人間関係を育てる。
- (3) 子ども同士の協働により、自主性や協調性を育てるとともに、現地の人々との交流を通じて、進んで他者とのかかわる力を培う。
- (4) 学年ごとの発達段階や子どもたちの実態を踏まえ、セカンドスクールの内容との関連を考慮し、学習効果及び学習意欲を高める。

(実施学年)

第2条 実施学年は、小学校第4学年とする。

(活動内容)

第3条 プレセカンドスクールで実施する指導内容は、総合的な学習の時間、教科、特別活動及び道徳とし、各学校が創意をもって学習活動を計画し、実施するものとする。

- 2 武蔵野市立学校の管理運営に関する規則（昭和50年6月武蔵野市教育委員会規則第2号）第17条の規定により、校長は、プレセカンドスクールの教育課程への位置付けを武蔵野市教育委員会（以下「委員会」という。）に届け出なければならない。

(実施場所)

第4条 校長は、プレセカンドスクールの実施場所について、児童にとって多様で魅力的な活動が可能であり、かつ、地域社会から協力が得られる場所を選定するものとし、委員会がこれを承認するものとする。

(指導者等)

第5条 プレセカンドスクールの引率及び指導には、実施学年の学級担任があたるものとし、その他の教員もファーストスクールの教育活動に支障のない範囲で引率及び指導を行うものとする。

- 2 教員の指導補助として学習指導員又は生活指導員を配置するものとする。
- 3 学習指導員は、教員の指示を受け、教材の作成、指導の補助、指導記録の整理等にあたるものとする。
- 4 生活指導員は、宿舎内外における児童の健康、安全等生活にかかわる援助及び必要に応じた指導にあたるものとする。

5 プレセカンドスクールには、各校につき看護師1人を同行させるものとし、当該看護師は児童の健康管理にあたるものとする。

(費用)

第6条 児童は、食費の額を考慮して教育長が別に定める費用を負担するものとする。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか必要な事項については、教育長が別に定める。

付 則

この要綱は、平成17年4月1日から適用する。

付 則

この要綱は、平成18年4月1日から適用する。

付 則

この要綱は、平成20年4月1日から施行する。

付 則

この要綱は、平成29年4月1日から施行する。

セカンドスクール実施地・泊数の変遷①(～平成14年度)

	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度
第一小学校	山梨県高根町 (6泊7日)					長野県飯山市 信濃平		(7泊8日)
第二小学校	長野県高遠町 (6泊7日)			富山県利賀村				(7泊8日)
第三小学校	岩手県遠野市 (6泊7日)		長野県飯山市 信濃平		(7泊8日)			(8泊9日)
第四小学校	長野県高遠町 (3泊4日)	(5泊6日)	(6泊7日)	長野県飯山市 戸狩				(7泊8日)
第五小学校	岩手県遠野市 (7泊8日)		山形県酒田市 ・羽黒町					
大野田小学校	新潟県小国町 (3泊4日)	(5泊6日)	(6泊7日)			長野県飯山市 戸狩		
境南小学校	長野県高遠町 (6泊7日)		長野県飯山市 戸狩					
本宿小学校	山梨県中富町 (3泊4日)	(5泊6日)	長野県飯山市 信濃平 (6泊7日)					(7泊8日)
千川小学校	山梨県中富町 (5泊6日)		(6泊7日)					千葉県銚子市 (7泊8日)
井之頭小学校	山梨県中富町 (3泊4日)	静岡県富士宮市 (5泊6日)	(6泊7日)			長野県飯山市 信濃平		(7泊8日)
関前南小学校	山梨県中富町 (6泊7日)		山形県遊佐町	(7泊8日)	(8泊9日)			(9泊10日)
桜野小学校 (※1)	富山県利賀村 (5泊6日)		(6泊7日)					
第一中学校		東京都大島町 (3泊4日)	群馬県嬬恋村 (4泊5日)		山梨県 足和田村			
第二中学校		長野県志賀高原 (3泊4日)	長野県飯山市 斑尾高原	長野県飯山市 北竜湖 (4泊5日)	新潟県 松之山町			
第三中学校		長野県高遠町 (3泊4日)	静岡県富士宮市	(4泊5日)	長野県高遠町	長野県大町市		
第四中学校		長野県志賀高原 (3泊4日)	静岡県富士市	静岡県 御殿場市 (4泊5日)			長野県飯田市	
第五中学校		長野県志賀高原 (3泊4日)	福島県猪苗代町	群馬県高山村 (4泊5日)				長野県豊科町
第六中学校		長野県志賀高原 (3泊4日)	長野県豊科町		(4泊5日)			

※1 平成8年4月に境北小と桜堤小が統合し、桜野小となる。平成7年度は両校合同実施。

※2 平成4年 ……長野県八坂村にて試行実施(6泊7日)

※3 平成5～6年……岩手県遠野市にて試行実施(12泊13日)

セカンドスクール実施地・泊数の変遷②(平成15年度～)

	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
第一小学校						新潟県魚沼市		(6泊7日)
第二小学校		平成16年11月1日 南砺市へ新設合併						
第三小学校				群馬県片品村			(7泊8日)	
第四小学校								(6泊7日)
第五小学校	群馬県川場村							
大野田小学校								
境南小学校	(7泊8日)							(6泊7日)
本宿小学校								
千川小学校					山形県鶴岡市			(6泊7日)
井之頭小学校						長野県飯山市 戸狩		
関前南小学校							(8泊9日)	(7泊8日)
桜野小学校	山形県遊佐町 (7泊8日)						(5泊6日)	(7泊8日)
第一中学校	長野県北安曇郡 白馬村							
第二中学校			平成17年4月1日 十日町市へ 新設合併					
第三中学校								
第四中学校								
第五中学校			平成17年10月1日 安曇野市へ 新設合併					
第六中学校			平成17年10月1日 安曇野市へ 新設合併					

プレセカンドスクール実施地・泊数の変遷

	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
第一小学校		山梨県 大和村 (2泊3日)	(平成17年11月1日) 甲州市へ新設合併					千葉県 館山市
第二小学校		山梨県 大和村 (2泊3日)	千葉県 館山市					
第三小学校	静岡県 富士宮市 (2泊3日)		群馬県 片品村	山梨県富士 河口湖町				新潟県 南魚沼市
第四小学校	群馬県 片品村 (2泊3日)							
第五小学校		群馬県 川場村 (2泊3日)						
大野田小学校		千葉県 館山市 (2泊3日)						
境南小学校		静岡県 富士宮市 (2泊3日)					山梨県 富士河口湖町 (1泊2日)	(2泊3日)
本宿小学校	長野県飯山市 信濃平 (2泊3日)						新潟県 南魚沼市	
千川小学校			千葉県 小見川町 (2泊3日)	(平成18年3月27日) 香取市へ新設合併	東京都檜原村			
井之頭小学校		静岡県 富士宮市 (2泊3日)	群馬県 片品村					
関前南小学校	東京都 檜原村 (2泊3日)							
桜野小学校			千葉県 館山市 (2泊3日)					

23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
東京都 檜原村	→	山梨県 富士河口湖町					
山梨県 富士河口湖町							
山梨県 山中湖村							
山梨県 北杜市			→	山梨県 山中湖村			
					→	山梨県 山中湖村	
			→	山梨県 富士河口湖町			
						→	東京都 奥多摩町
山梨県 富士河口湖町	山梨県 山中湖村						

平成 30 年度セカンドスクール・プレセカンドスクール日程表

(平成30年5月現在)

種別	学校名	実施日	実施場所	現地宿舎	
小学校セカンドスクール	第一小学校	9月26日(水)～10月2日(火)	6泊7日	新潟県魚沼市	民宿
	第二小学校	9月23日(日)～9月30日(日)	7泊8日	富山県南砺市利賀村	民宿
	第三小学校	9月25日(火)～10月1日(月)	6泊7日	群馬県利根郡片品村	民宿
	第四小学校	5月31日(木)～6月6日(水)	6泊7日	長野県飯山市	民宿
	第五小学校	9月13日(木)～9月19日(水)	6泊7日	新潟県南魚沼市	民宿
	大野田小学校	9月20日(木)～9月26日(水)	6泊7日	長野県飯山市	民宿
	境南小学校	9月19日(水)～9月25日(火)	6泊7日	長野県飯山市	民宿
	本宿小学校	9月25日(火)～10月1日(月)	6泊7日	新潟県南魚沼市	民宿
	千川小学校	9月20日(木)～9月26日(水)	6泊7日	新潟県南魚沼市	民宿
	井之頭小学校	9月26日(水)～10月2日(水)	6泊7日	長野県飯山市	民宿
	関前南小学校	9月28日(金)～10月4日(木)	6泊7日	長野県飯山市	民宿
	桜野小学校	9月23日(日)～9月29日(土)	6泊7日	長野県飯山市	民宿
中学校セカンドスクール	第一中学校	9月27日(木)～10月1日(月)	4泊5日	長野県北安曇郡白馬村	民宿3泊、 ホテル1泊
	第二中学校	5月22日(火)～5月26日(土)	4泊5日	新潟県十日町市	農家2泊、旅館2泊
	第三中学校	10月1日(月)～10月5日(金)	4泊5日	長野県北安曇郡白馬村	民宿
	第四中学校	9月26日(水)～9月30日(日)	4泊5日	長野県飯田市	キャンプ1泊、農家1泊、旅館2泊
	第五中学校	9月18日(火)～9月22日(土)	4泊5日	長野県北安曇郡白馬村	民宿3泊、 ホテル1泊
	第六中学校	9月5日(水)～9月9日(日)	4泊5日	長野県安曇野市	農家1泊、 公営宿泊施設3泊
小学校プレセカンドスクール	第一小学校	9月19日(水)～9月21日(金)	2泊3日	山梨県南都留郡富士河口湖町	ホテル
	第二小学校	10月10日(水)～10月12日(金)	2泊3日	山梨県南都留郡富士河口湖町	ホテル
	第三小学校	6月6日(水)～6月8日(金)	2泊3日	新潟県南魚沼市	民宿
	第四小学校	9月12日(水)～9月14日(金)	2泊3日	群馬県利根郡片品村	民宿
	第五小学校	9月26日(水)～9月28日(金)	2泊3日	山梨県南都留郡山中湖村	ホテル
	大野田小学校	6月20日(水)～6月22日(金)	2泊3日	山梨県南都留郡山中湖村	ホテル
	境南小学校	10月3日(水)～10月5日(金)	2泊3日	山梨県南都留郡富士河口湖町	ホテル
	本宿小学校	10月3日(水)～10月5日(金)	2泊3日	山梨県南都留郡山中湖村	ホテル
	千川小学校	10月1日(月)～10月3日(金)	2泊3日	山梨県南都留郡富士河口湖町	ホテル
	井之頭小学校	10月10日(水)～10月12日(水)	2泊3日	東京都西多摩郡奥多摩町	民宿
	関前南小学校	9月12日(水)～9月14日(金)	2泊3日	東京都西多摩郡檜原村	民宿
	桜野小学校	9月13日(木)～9月15日(土)	2泊3日	山梨県南都留郡山中湖村	ホテル

小学校セカンドスクール



第一小学校

新潟県魚沼市

9月26日～10月2日(6泊7日)

参加人数 男子35名 女子29名
計 64名

○セカンドスクールのねらい

- ・自然の中での体験を通して、自然と人間との共生や環境保全の必要性について思考したり、自然に対して畏敬の念を抱いたりして、自然を大切にしようとする態度を育てる。
- ・自然や地域の特性、興味・関心から課題を見付け、課題を追究する学習を通して、探究的な学習のよさを理解できるようにする。
- ・長期宿泊体験を通して正しい生活習慣を身に付けさせ、一人一人の児童の創意を喚起し、個性の尊重を図る。また、自主的な集団生活を通して児童理解や協力し合う態度を育成する。
- ・地域の大人や指導員等、関わる人々との交流を深め、それらの人々や保護者に対する感謝の念を育てる。

○日程表

9月26日(水)		9月27日(木)		9月28日(金)		9月29日(土)	
7:30	学校集合・出発式	6:30	起床 朝食	6:30	起床	6:30	起床
8:00	出発	9:00	林業体験薪割り等	7:30	朝食	7:30	朝食
12:00	守門着・昼食(弁当)	12:00	昼食	9:00	農業体験 稲刈り	10:00	駒見山ハイキング
13:30	開校式	13:00	林業体験 伐採	11:30	須原小訪問	12:30	昼食 教員交代
15:00	守門地区散策	16:15	班長会議	12:30	昼食	14:15	目黒邸見学
17:00	健康観察・入浴	17:00	健康観察・入浴	13:30	農業体験	15:15	昔話を聞く会
18:00	夕食	18:00	夕食	16:30	健康観察・入浴	16:30	健康観察・入浴
19:00	はじめましての会	19:00	手紙書き	17:30	夕食	17:30	夕食
20:00	語らいの時間	20:00	語らいの時間	19:00	天体観測	19:00	語らいの時間
21:00	就寝準備	21:00	就寝準備	21:00	就寝準備	21:00	就寝準備
21:30	消灯・就寝	21:30	消灯・就寝	21:30	消灯・就寝	21:30	消灯・就寝
9月30日(日)		10月1日(月)		10月2日(火)			
6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床		
7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食		
9:00	課題別学習	9:00	わら細工作り	8:00	荷物整理・大掃除		
12:00	昼食	11:30	郷土食作り体験	9:30	セカンドスクールまとめ		
13:40	課題別学習	12:00	昼食	10:30	閉校式		
16:15	班長会議	13:30	宿別体験	11:00	守門発		
17:00	健康観察・入浴	15:30	セカンドのまとめ	12:40	昼食(赤城高原 S.A)		
18:00	夕食	17:00	健康観察・入浴	14:00	トイレ休憩		
20:00	語らいの時間	18:00	夕食 感謝の会	15:30	学校到着		
21:00	就寝準備	20:30	語らいの時間		帰校式		
21:30	消灯・就寝	21:30	消灯・就寝	16:00	解散		

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・1学期の社会科の学習で、日本の農業の米作りについて学習した。
- ・5月に魚沼から送っていただいた苗を水田に植え、米作りの過程や米作りの難しさなどを体験的に学んだ。また総合的な学習の時間では、「学ぼう、日本の米」というテーマを設定し、米に関して興味・関心のある内容を調べ、紙面にまとめた。
- ・1学期後半に魚沼に関する情報を集め、各自が特に深めたい内容を課題に設定した。夏休みには各自の課題についての資料を集めた。夏休み後に、グループごとに資料をもとに調べたり、現地で質問したりし、見て確かめたいことについての意見交換を行った。
- ・社会科で林業について学び、林業体験で行うことの具体的なイメージをもてるようにした。

2 事後の学習内容

- ・セカンドスクールの7日間の体験内容、セカンドスクールを通しての学びや成長を4年生に向けて発表する機会を設定した。また、課題別学習については、魚沼市と武蔵野市との比較を通して、今後武蔵野市に貢献できそうなことを出し合ったり、また魚沼市に提案できることを考えたりして、それらを発表した。
- ・国語の学習で、7日間を通して自分が一番努力したことや成長したことを考え、文章にまとめた。また体験活動について、計画や内容といった事実と、活動して思ったこと等の考えを区別しながら活動報告書を書いた。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 ハイキング

3グループに分かれ、現地ガイドの説明を受けながら、小出スキー場の駒見山の頂上を目指してハイキングをした。見かけた植物の名前の由来や、昆虫の種類などを説明していただき、またトチの実の笛や朴の葉のお面等を作っていただくなど、自然の中での遊びを教わった。新たな知識を得て、自然の楽しみ方も実感することができた。



【植物について教わっている様子】

2 星空観察

須原スキー場の駐車場に夜7時に集合し、秋の星空の説明を聞きながら実際に観察する体験学習を設定した。天候に左右されやすい活動なので、3日目に設定し、以降5日目まで順延可能な内容を考えた。

当日は天候もよく、満点の星空の下、多くの星や天の川を観察することができた。4年生の理科で学習した内容の復習だけでなく、火星や土星等の惑星や月についても学習することができた。今後の学年の学習にもつながる発展的な内容にも触れ、星座や宇宙への興味・関心が一

層深まった。

<社会体験活動>

1 農業体験

農業に関する活動では、稲刈りや脱穀の体験、倉庫の見学、藁細工作成を行った。

魚沼農耕舎の方のご指導により、稲を刈る作業とはざ掛けを体験した。鎌の使い方、束ね方等を説明していただいた後、田んぼに移動し、実際に鎌を用いて稲刈りを行った。雨が降った後の田んぼでの作業は足場が不安定であり、刈ることに集中しづらい状況であったが、教わった内容を思い出しながら、友達と協力し、急がず丁寧に稲を刈ることができた。

脱穀は、足踏み式の脱穀機を用いて行った。脱穀機を回すスピードを足でコントロールすることが難しかったが、各宿の方に補助していただきながら、上手に作業することができた。昔の人の知恵について学びを深め、機械を活用する効率のよさを実感できた。

倉庫の見学では、運ばれてきた稲が玄米になる工程を見学し、低温の中で保存されている米の袋に関して説明を聞いた。見学を通して、米づくりに従事する人々の苦労や工夫を知ることができた。

藁細工では、農家は藁を活用して生活に役立つ物を作ることを教わり、宿の方に藁の編み方を教わりながら鍋敷きを作成し、自然と人間との共生について考えを深めることができた。

2 林業体験

福山森林体験の森で、炭焼き窯から炭をかき出す作業、丸太を斧や機械を使用して割り、薪にする作業を行った。炭焼き窯での作業では高温の中で仕事をする大変さを実感できた。また薪割り体験では、道具の正しい扱い方を学んだ。伐採体験では、木をのこぎりで短く切り分け、運び出す作業も行い、友達と協力して作業を行うことができた。



【福山森林の家 伐採体験】

3 課題別学習

魚沼市を知る学習として「観光」「産業」「雪国の暮らし1」「雪国の暮らし2」の4グループに分かれて学習した。事前に調べた資料から内容を厳選し、「観光」ではJR只見線乗車と西福寺開山堂の見学、「産業」では山菜加工工場・酒蔵の越後ゆきくら館の見学と魚沼そばパスタ商品開発の話、「雪国の暮らし1」では、塩沢で鈴木牧之記念館や雁木の街並みの見学、「雪国の暮らし2」ではスキー場や除雪車等の見学を行った。魚沼の特色である雪国の暮らしや観光、産業について、施設見学等を通して、武蔵野市と比較しながら実社会・実生活について考えることができた。



【JR只見線乗車】



【除雪車についてのお話】

4 須原小学校との交流体験

3日目には、魚沼市立須原小学校の5年生と交流をした。事前に自分の写真や紹介文を互いに送り合い、相手を知ること、当日実際に会えることを心待ちにしていた。

須原小の校長先生に須原小学校や武蔵野市との違いについて紹介していただいた後、お互いの学校や地域に関するクイズを出し合い、第一小からは「COSMOS」の歌を披露した。その後、全員で仲間集め等のレクリエーションを行い、昼食をグループごとにいただいた。

また、須原小の校庭で一緒に遊ぶ機会があった。いつも遊んでいる校庭の3倍もの大きさの広さに喜び、とても生き生きと遊ぶことができ、有意義な時間となった。



【須原小学校との交流会】



【合唱「COSMOS」】

<生活・文化体験活動>

1 郷土食作り

6日目の昼食は、各宿でお餅つきを行った。地元でとれたもち米を使って調理するという、地産地消の考え方の大切さを改めて実感した。また、家庭科で学んだ調理法や、社会科で学んだ食料生産に関わる内容について思い出し、振り返ることができた。

2 宿別体験

各宿の畑でさつまいもや野菜類の収穫体験をし、近くを散策して植物についてお話しいただいた。食材を自分の手で収穫し、食べることを体験し、食材を作り育てる人たちの工夫や苦勞、また食べ物のありがたさを改めて実感できる機会となった。

○児童の感想

- ・2日目の林業体験が思い出に残りました。伐採体験は、木がとても太く、一人では全然切れませんでした。けれど友達と協力するとたくさんの木を切ることができました。この体験では、友達と協力することが大切なんだということを知りました。
- ・私が一番心に残っている体験は、炭焼き体験です。この体験で、職人さんの大変さや炭焼きの難しさを学びました。炭焼き窯の前は暑かったけれど、「これまでやった人のなかで一番上手だったよ」と言われたのがうれしかったです。今でも窯の前に立った時の暑さを思い出します。
- ・セカンドスクールを通して、周りの風景・自然をよく見て自然と触れあってきました。新たに学んだことは、稲刈りの大変さです。簡単そうだと思っていたけれど、全然できなくて大

変だったし、稲を結ぶ時も稲が揺れて正確に結ぶことが困難でした。セカンドスクールでの成長は、自然を大切にすることです。自然を大切にすることは地球を大切にすることなので、とても大切な心だなと思いました。

- ・天体観測、始めは目が慣れなくて少ししか星が見えなかったが、だんだんたくさん見えるようになった。先生の説明で、どれがどの星か、すぐに分かった。田舎と都会で見る星は、全然ちがうもので、とても数えられないほどの星々と天の川がきれいに見えた。まるで、天井いっぱい星の絵をかいたようだった。
- ・私はずっと須原小学校の5年生と会えるのが楽しみでした。須原小のみんながとても優しく、ときどきしていた心が収まりました。須原小の出し物のクイズで魚沼のことが分かりました。最後はみんなと仲良くなれてよかったです。とても楽しみにしていた交流会が終わってしまったけど、それを生かして友達をもっとつくりたいです。
- ・宿の最後の日に「ありがとうの会」を行った。その時は「お世話になりました、ありがとうございました」という気持ちでいっぱいだった。だから最後の日は帰る時、悲しくなってしまった。ありがとうという感謝の気持ちと、さびしいという気持ちが入り混じっていたが、感謝の気持ちを精一杯伝えた。このセカンドスクールを通してありがとうという感謝の気持ちを伝えることがとても大切だということ学んだ。これからの生活にそのことを活かしたいと思った。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

- ・総合的な学習の時間で、5月に魚沼から送っていただいた苗を水田に植え、セカンドスクール後もその稲を育て収穫した。調理でお米を炊く実習を家庭科で行う際、実際に育てた米も一緒に炊いていただいた。米作りの過程や米作りの難しさなどを体験的に学ぶことができた。
- ・課題別学習に関しては、セカンドスクール後、現地で学んだ自然や地域の特性から興味・関心をもった事柄について追究し4年生や保護者に伝える活動を通して、魚沼市と武蔵野市の違いに気付いたり、武蔵野市の生活に繋げて考えたりすることができた。
- ・国語科では、セカンドスクールでの学びや体験について、活動報告書を書いた。目的や意図に応じて詳しく書いたり、表現の効果等について工夫しながら書いたりすることができた。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・課題別学習では、児童が課題意識をもつ内容と見学先が一致するよう、毎年場所の選定について検討を続けている。今回、観光、産業、雪国の暮らしをテーマにしたことで、児童にとって学習がしやすい体制をとることができた。今後も、児童の実態に合わせて柔軟に対応できるように、校内での申し送りを確実に行うほか、現地の方との連絡を密に行う必要がある。
- ・児童数が年々増加傾向にある一方で、魚沼の民宿の方々は高齢化傾向にある。今後も魚沼市を実施地としてセカンドスクールを続けていけるよう、現在の宿泊先が受け入れ可能な人数を把握したり、魚沼市内で新たな宿泊先を検討したりしていく等、対応していく必要がある。

第二小学校

富山県南砺市利賀村

9月23日～9月30日(7泊8日)

参加人数 男子 42名 女子36名
計78名

○セカンドスクールのねらい

- ・利賀村の自然や人々の生活などについて自ら課題をもち、主体的に追究する力を付ける。
- ・利賀村の人々と心の交流をし、自然の中で豊かな体験活動を通して、自然や利賀村の暮らしに対する興味関心を高める。
- ・日本の国土や森林の様子を知り、森林のはたらきをもとに環境と人とのかかわりについて様々な考え方を身に付ける。
- ・学習したことを工夫してまとめ、伝える力を付ける。
- ・体験を通して、健康・安全及び集団生活や公衆道徳のルールやマナーを学ぶ。

○日程表

9月23日(日)		9月24日(月)		9月25日(火)		9月26日(水)	
7:30	集合(武蔵境駅)	6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床
7:35	出発式	7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
8:02	武蔵境駅発	8:30	地域散策	9:00	縄ない	9:00	課題別学習
9:32	東京駅発	9:30	そば打ち体験	12:00	昼食	12:00	昼食
12:20	新高岡駅着	11:30	昼食	13:00	ハイキング	13:30	そばの郷資料館見学
13:40	新高岡駅発	13:00	稲刈り体験	15:00	そばの郷着	14:30	民宿別活動
14:30	利賀村着 開校式	16:00	民宿着	16:00	民宿着	17:00	入浴
15:30	民宿着 はし作り	17:00	入浴	17:00	入浴	18:00	夕食
17:00	入浴	18:00	夕食	18:00	夕食	20:00	ありがとうの会準備
18:00	夕食	20:00	民宿の方のお話	20:00	手紙書き(家族へ)	21:30	就寝
21:00	就寝	21:30	就寝	21:30	就寝		
9月27日(木)		9月28日(金)		9月29日(土)		9月30日(日)	
6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床
7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
10:00	朝会 林業体験	9:15	利賀小との交流	10:00	相倉合掌集落見学	9:00	閉校式
13:00	昼食	12:00	給食	12:30	民宿着 昼食	12:10	新高岡駅発 車内昼食
13:45	岩魚つかみ体験	13:35	そば刈り	13:30	民宿別活動	14:52	東京駅着
16:30	民宿着	15:45	民宿着	17:00	入浴	15:17	東京駅発
17:00	入浴	17:00	入浴	18:00	夕食	15:54	武蔵境着
18:00	夕食	18:00	夕食		ありがとうの会		解散式
20:00	民宿の方の話	20:00	ありがとうの会準備	21:30	就寝	16:20	解散
21:30	就寝	21:30	就寝				

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・総合的な学習の時間の年間を通した単元「利賀の森は地球を守る」
 - ① 「武蔵野の森を育てる会」の方を招いて、実際に樹木や森林の話をしていただく。
 - ② 森林について課題を設定し、社会科の学習につなげる。
 - ③ 利賀村について、自然や特産物、伝統、歴史などを調べる。
- ・1学期後半から2学期にかけて社会科で農業について学習し、米作りの工夫や仕事をしている人の思いを学ぶ。
- ・社会科の単元を入れ替え「森林とわたしたちの暮らし」の学習を2学期に行う。
 - ① 人工林や天然林のはたらきなどを調べ、その役割について学ぶ。
 - ② 林業について学習し、林業の仕事をしている人の工夫や思いを学ぶ。
 - ③ 土砂崩れを防いだり、雨水を蓄えたりする森林の役割や、私たちの生活との関わりについて学ぶ。

2 事後の学習内容

- ・セカンドスクールでの体験を作文や新聞にまとめる。
- ・お世話になった方々へ手紙を書き、感謝の思いを伝える。
- ・学習発表会「大切なもの」では、セカンドスクールで学んだことを劇形式で紹介する。また、保護者鑑賞日には、利賀村でお世話になった方をお招きし、学習発表会で富山県の伝統芸能である「麦屋節」を披露していただき、交流を深める。
- ・自分たちで刈ったお米を炊き、おにぎりパーティーをする。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 ハイキング

当日の午前中は雨天だったため、雨プログラム（縄なし）を行った。民宿でお世話になっている方や、現地の方に、縄ならしや、縄なしを習い、昔の方の苦労や、縄の利用法などを学ぶことができた。午後、天気が回復したため、短いルートであったが、現地のインストラクターの方に利賀の動植物についての話を聞きながらハイキングを行った。植物に触れながら、植物の名前やその特徴を学び、生活の中でどのように使われてきたのかについても知ることができた。社会で学習した人工林、天然林についても、森林の中を歩いたり実際に樹木に触れたりすることで、その違いについて理解を深めることができた。



【ハイキングの様子】

<社会体験活動>

1 稲刈り

鎌を使って稲を刈る、わらで稲を結ぶ、結んだ稲をはさにかける、という一連の流れを体験した。また、脱穀も体験したことで、昔の農作業の大変さを実感することができた。稲刈り後は、ライスセンターで稲の精米行程を見学した。学校での学習と、利賀での農作業体験、ライスセンター見学を通して、米が食卓に届くまでの人々の努力や苦労を実感することができた。

2 林業体験

木の伐採方法や枝打ちについて話を伺った後、一人一人のこぎりを使って「丸太玉切り体験」を行った。

今回は例年とは違い、民家の近くの木を伐採する様子を見学した。20mの高さの木を、実際にチェーンソーを使ってまわりの民家に注意しながら伐採することを知った。林業を営む人々の工夫や危険などを肌で感じるとともに、やみくもに伐採しているのではなく、必要に応じて切るべき木を切っているという話を聞き、林業に携わる人たちの苦労と努力について学習することができた。

3 利賀小学校との交流

今年度も利賀小学校との交流では、前半に、利賀小から初午の踊りを披露してもらったり、学校を案内してもらったりした。校庭では、ファーストスクールでは行うことができない、100m走を直線で走るという経験をすることができた。また、男子と女子に分かれ、麦屋節も教えてもらった。後半は、二小の学校紹介や、クイズ、今年の運動会でを行った踊りや団体演技を披露したり、「大切なもの」を歌ったりした。その後、利賀小の給食をいただき、午後のそばの刈り取りも一緒に行うことができ、交流を深めることができた。

<生活・文化体験活動>

1 岩魚つかみ

キャンプ場の百瀬川の浅瀬に二つの区切りをつくり、生きた岩魚をつかむ体験をした。児童は、苦戦しながらも、普段はできない活動に積極的に取り組んでいた。その後、つかまえた岩魚をさばき、内臓を取り除く作業を行った。一人一人が岩魚の命と向き合い、真剣に取り組むことができた。普段何気なく食べている食べ物も、すべて命をいただいていることを改めて実感し、「いただきます」の本当の意味を考えながら一口一口しっかりと味わって残さずにいただくことができた。

2 民宿での体験活動

10の班に分かれ、各民宿に分泊した。1週間の生活の中で、食事の準備や片付け、掃除、荷物の整理整頓など身の回りのことに一人一人が積極的に取り組むことができるようになった。同時に、友達と協力することの難しさを知り、自分の気持ちを言葉で伝えたり、相手の気持ちを考えて接したりすることの大切さを、身をもって感じることもできた。

さらに、民宿の方との温かい触れ合いを通して、民宿の方への感謝の気持ちはもちろん、普

段お世話になっている方々に対しても、自分がどのような場面でお世話になっているかということを考えることができた。民宿別活動では、野菜の収穫や選別する体験、裏庭の散策、五平餅づくりなど、各民宿の特色ある仕事や利賀の伝統的な活動を体験させていただいた。



【薪割り体験】



【野菜の収穫体験】

○児童の感想

- ・ 民宿の方や現地のたくさんの方々がセカンドスクールを支えてくれていると分かった。いろいろな人に感謝の気持ちをもってこれからの生活に生かしていきたい。
- ・ 生きたままの岩魚をさばくのは大変だった。命の大切さを学んだので、食べる時も残さないように気を付けて食べた。美味しくいただくことができた。
- ・ 2日目に稲刈りを体験させていただくことで、農家の人たちの苦労を実際に知ることができたり、農作業に興味を持ったりすることができた。
- ・ 7泊8日お世話になった民宿の方と別れるのはとても寂しかったが、7日目の夜に班のみんなまで感謝の気持ちをしっかり伝えることができてよかった。
- ・ 利賀村の自然に驚いた。武蔵野市とは違う生活の仕方をしていて、村の人のつながりの深さを感じた。協力して生きているということが伝わってきた。

○ファーストスクールの教育活動との関連

<総合的な学習の時間>

「利賀の森は地球を守る」

セカンドスクールでは、ハイキングや散策、林業体験において、学校で学習したことを実際に見たり体験したりすることができた。また、民宿の方にも利賀村の森林や自然についてのお話を伺うことで、より学習への理解を深めることができた。

セカンドスクール後は、児童一人一人が、民宿での活動や様々な活動を通して学んできたことを、新聞にまとめたり、今年度は学習発表会があったので、台本を作成し、劇の要素も取り入れ、学んできた成果を分かりやすく発表したりすることができた。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

<成果>

- ・今年度は天候が悪く、予定の変更や活動の短縮があったが、セカンドスクールに携わるたくさんの方や利賀村の方や指導員、看護師、引率教員で連携をとることで児童は混乱なく活動することができた。
- ・「協力・感謝」というテーマを設定し、自分が集団の中で何ができるかを常に意識させたことで、本番でも児童は友達と深く関わり、切磋琢磨しながら、様々なことを乗り越えることができた。

<課題>

- ・事前に学校側のねらいを明確に示し、内容の厳選や活動形態の工夫などにより、児童の活動時間を十分に確保し、活動の充実を図る。
- ・利賀の方々の高齢化などによる受け入れ民宿数の減少や、民宿によって受け入れ最大人数の違いもあるので、現地の方々と早めに打合せをし、要望を伝えていくことを心がけていく。

第三小学校

群馬県利根郡片品村

9月25日～10月1日(6泊7日)

参加人数 男子38名 女子29名
計 67名

○セカンドスクールのねらい

- ・自然とのふれ合いを通して、自然と人間との共生、環境保全の必要性、自然に対する畏敬の念などについて体験を基に考え、自然を大切にしようとする態度を育てる。
- ・自然や地域の特性を生かした教材開発や学習方法を工夫し、新たな興味・関心を喚起し、自らの問題をもち体験活動に基づいて問題を解決し、探究的な学習を進める。

○日程表

9月25日(火)		9月26日(水)		9月27日(木)		9月28日(金)	
8:00	学校集合・出発式	6:00	起床	6:30	起床	6:30	起床
8:30	出発	6:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
11:45	開校式	8:00	朝会	9:00	朝会	9:00	朝会
12:15	各民宿あいさつ		尾瀬ハイキング	9:00	上毛カルタ	9:30	稲刈り体験
13:00	昼食(弁当)		鳩町峠	12:00	昼食(各宿)	12:30	昼食(各宿)
14:00	周辺散策	12:00	昼食(弁当・牛首)	14:00	魚つかみ・さばき体験	14:00	焼き物体験
16:00	尾瀬高校交流会	14:30	鳩町峠出発	16:30	夕方の会	16:30	夕方の会
17:30	入浴	16:30	夕方の会	17:00	入浴	17:30	入浴
18:30	夕食	17:00	入浴	18:00	夕食	18:30	夕食
19:00	学習の記録	18:00	夕食	19:00	学習の記録	19:30	学習の記録
21:00	消灯	19:00	学習の記録	21:00	消灯	21:00	消灯
		21:00	消灯				
9月29日(土)		9月30日(日)		10月1日(月)			
6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床		
7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食		
9:00	朝会	8:00	食材準備	9:00	朝会		
9:30	武尊牧場自然体験	10:00	朝会(キャンプの森)	9:30	勤労体験活動		
12:00	昼食(牧場)	10:30	火おこし体験	11:00	昼食(各宿)		
13:00	牧場出発	12:00	昼食(キャンプの森)	12:00	閉校式		
14:00	リンゴ狩り体験	14:30	工芸体験	12:30	片品村出発		
16:30	夕方の会	17:00	入浴	15:30	学校着・帰校式		
17:00	入浴	18:00	夕食	15:45	解散		
18:00	夕食・学習の記録	19:00	感謝の会				
21:00	消灯	21:00	消灯				

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・オリエンテーションでは、セカンドスクールのめあてや出発までに行う調べ学習について、スライドショーをもとに活動について確認した。
- ・尾瀬ヶ原や片品村の自然や特産品、りんご、魚つかみなどセカンドスクールの活動の中から各々が課題を決め、図書資料やインターネットで情報を得て、課題解決をした。
- ・お世話になる民宿の方に向けて自己紹介カードを作成し、事前にそれを民宿へ送付した。
- ・班長、副班長、生活係、保健係、学習係、レクリエーション係の係ごとに、各式の司会、朝会の司会、部屋の整理整頓表などを考え、準備を行った。

2 事後の学習内容

- ・学校文集「ぶさんの子」で、セカンドスクールの思い出について作文を書いた。
- ・お世話になった宿の方々にお礼の手紙を書いて送付した。
- ・3学期には、4年生に向けてセカンドスクール報告会を行った。自分たちが体験したことや学んだことを伝えるとともに、4年生へセカンドスクールの意欲付けを行った。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 尾瀬高校交流会

1日目の尾瀬高校交流会では、2日目の尾瀬ハイキングでガイドをしてもらう尾瀬高校の生徒との顔合わせを兼ねて、交流会を行った。尾瀬高校にあるミニ尾瀬で、木道の歩き方のマナーや動植物についての説明を受けたり、環境棟にある動物の剥製についての説明を受けたりした。児童たちは真剣に話を聞き、尾瀬ハイキングへの意欲を高めていた。

2 尾瀬ハイキング

2日目の尾瀬のハイキングでは、尾瀬高校の生徒が班に2名付き、ハイキングを行った。山の歩き方のマナーや、尾瀬の歴史、植物の名前や由来、水中の生物、どのように尾瀬の自然を守っているのかなどのお話をしていただいた。時折、足を止めて植物を見ながら高校生の話を聞いたり質問したりして充実した尾瀬ハイキングを行うことができた。



【尾瀬高生の話を聞く児童】



【尾瀬ヶ原を歩く児童】

2 武尊牧場自然体験

5日目に武尊牧場でハイキングを行った。1班に1名のガイドがつき、その方に牧場内を案内していただいた。尾瀬で見た植物と色違いの植物、ヤドリギの木、白樺など武尊牧場にある植物についてくわしく学ぶことができた。また、片品村の自然について児童が質問をしても、丁寧に答えてくださるので積極的に学ぶことができた。



【武尊牧場で話を聞く児童】

<社会体験活動>

1 リンゴ収穫体験

5日目の午後はリンゴ収穫体験を行った。事前にリンゴ農園の方に、1年間の作業やリンゴの種類やもぎ方、おいしいリンゴの見分け方などを教えてもらった。児童からは1年間の出荷量やリンゴのおいしい時期等の質問が出た。真っ赤に熟したリンゴの中から、自分の気に入ったリンゴを2個もぎ取った。みんな、おいしそうなるリンゴを取ろうと悩みながら選んでいた。もいだりんごは、宿に持ち帰って食べた。児童たちは「おいしくてみずみずしい。」「甘い。」と嬉しそうに食べていた。リンゴが赤くなる理由や、おいしいリンゴの見分け方などについて学ぶことができた。

2 河原体験(火おこし体験)

6日目は天候が心配だったため、屋根のあるキャンプ場で火おこし体験を行った。朝のうちに、すいとんの材料である人参、大根、白菜、しいたけなどの野菜を包丁で切り、下準備を行った。キャンプ場では、マッチ5本と新聞紙1枚、拾っておいた杉の葉や細い枝、ダケカンバの皮、薪で火おこしをした。小さな火を大きくするために薪の組み方を試行錯誤しながら取り組んだが、すべての班が火を起こせた。沸騰したら、すいとんの種をスプーンですくって鍋に丁寧に入れてすいとんを作った。出来上がったすいとんは、昼食としていただいた。「おいしい。」と言いながらおかわりする児童がたくさんいた。小さな火が大きくなり、ものを燃やしたり温めたりすることができることを実感していた。

3 稲刈り体験

4日目は稲刈り体験を行った。最初に、稲刈りのポイントを学び、鎌の扱い方を知ってから稲刈りを行った。15束の稲を刈り、それをひもできつく結んだ。きつく結ぶのは、はざかけをしたときに稲が落ちないためだと知り、児童は農家の方の工夫を垣間見ることができた。また、稲刈りをした後の落ちている稲穂もきれいに拾い、束にまとめることができた。



【稲刈りの様子】

<生活・文化体験活動>

1 魚つかみ・さばき体験

魚つかみでは、川に放流したニジマスを手でつかみとり、腹をさばいてはらわたを除き、それを食べる体験をした。生きていた魚の命を人間はいただいているということ、食べ物を大切にすること、感謝の気持ちをもつことを体感することができた。



【魚をさばく児童】

2 勤労奉仕体験

最終日、お世話になった宿の方々に対して感謝の気持ちを込めて活動をした。お風呂や玄関の掃除をしたり、スリッパの整理やごみ出しの手伝いをしたりした。「ありがとう」と言葉に表す以外にも、感謝の気持ちを表すためには相手のことを考えて活動するとよいことを学ぶことができた。

3 工芸体験

宿舎周辺の散策を行い、片品村の自然を堪能しながら、武蔵野市との季節の違いを感じていた。花や葉を見付け、宿に持ち帰り、押し花にした。植物を紙やスポンジで挟んだ物を、さらに陶器に挟み、熱を加えて乾燥させた。デザインを楽しみながら、はがきサイズの画用紙の上に並べ、特製の和紙を載せ、アイロンで熱を加えることで作品が完成した。ピンセットを用いた繊細な作業だったが、配置や色合いを考え、楽しみながら活動を行った。片品村の自然に触れる、とても貴重な体験となった。

4 焼き物体験

焼き物体験ではろくろを使い、お皿や湯のみなど、一人一人自分で考えた作品を作った。作品のデザインを、事前に考えていたので、スムーズに作り始めることができた。乾きすぎないように何度も水をつけながら根気強く形を作っていた。形が変わりやすく、繊細な技術も必要だったが、粘土の感触を楽しみながら、夢中になって活動に取り組んでいた。形が出来上がると、近くに生えている植物の葉などで模様をつけていた。焼きあがった作品は、12月に学校に届いた。

5 上毛カルタ

3日目、雨天のため予定を変更して上毛カルタ体験を行った。群馬県の自然や歴史を題材にした上毛カルタは、群馬県内の学校内で毎年大会が開催されるほど群馬県に馴染みのあるカルタであるという説明を受け、群馬県の人が上の句も下の句も覚えていることに驚いていた。児童たちは絵札を真剣に取り合い、楽しんでいた。

○児童の感想

- ・尾瀬ヶ原や武尊牧場では、吉祥寺では見るできない自然の美しさに感動し、自然の偉大さや大切さに改めて気付くことができた。
- ・班での役割に責任をもち、活動することができ、自分自身の成長につながった。
- ・7日間友達と生活することで、協力することの大切さを学んだ。
- ・稲刈り体験を通して鎌の使い方やはざかけの方法を学んだ。農家の方々の苦勞を知ることができた。
- ・魚つかみ・さばき体験では、ニジマス命を奪うことで、悲しい気持ちになった。これからは、命をいただいていることに感謝して「いただきます」を言う。
- ・片品村の人々の親切心や宿のお父さん、お母さんの優しさに触れることができた。

○ファーストスクールの教育活動との関連

セカンドスクールでの体験を通して、ファーストスクールでは味わえない自然や人との触れ合い、環境保全の必要性や自然に対する畏敬の念を抱くことができた。また、長期間の宿泊により、自立に必要な知識・技能や生活習慣を身に付けたり、友達と協力したり、譲り合ったりすることなど、人との結びつきや生活力を学ぶことができた。これからの日常生活に生きることも貴重な体験となった。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・感謝の会は、リハーサルを行うことでより充実したものにする事ができた。
- ・2つの宿だけ離れていたため、教員が見回りをするのが大変である。来年度のプレセカンドスクールは近い宿でできるよう交渉中である。
- ・今年度はAEDを各体験場所に持って行ったが、尾瀬ハイキングでAEDを持って歩くのは大変だった。もう少し軽量化できないか。
- ・プログラムに余裕があり、室内での活動もあったので、天候を見ながら活動内容を入れ替えたり、便が出ていない子のためにトイレタイムをとったりすることができた。

第四小学校

長野県飯山市

5月31日～6月6日(6泊7日)

参加人数 男子37名 女子40名
計 77名

○セカンドスクールのねらい

- ・豊かな情操や感性を育む。
- ・知的好奇心や探究心を喚起し、課題解決への意欲や態度を培う。
- ・生活の自立に必要な知識や技能を身に付ける。
- ・豊かな人間関係を育てるとともに、自主性や協調性を育てる。
- ・学んだことや体験したことを学校に戻ってからの学習や生活に活かす。
- ・ふるさと武蔵野市や自然を愛する子どもに育てる。

○日程表

5月31日(木)		6月1日(金)		6月2日(土)		6月3日(日)	
8:00	学校集合・出発式	6:00	起床・健康観察	6:00	起床・健康観察	6:00	起床・健康観察
8:30	学校出発	7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食
11:30	昼食	9:00	田植え体験	9:00	とん平ハイキング	9:00	森林観察
13:30	戸狩到着・開校式	12:00	昼食	12:00	昼食	12:00	昼食
14:00	飯山について	13:30	雪国の暮らし	15:00	手すき和紙体験	13:30	料理名人に学ぶ
15:00	はし作り	15:00	遊び名人に学ぶ	16:30	手紙書き		
17:00	健康観察	17:00	健康観察	17:00	健康観察	17:00	健康観察
18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食
19:00	入浴	19:00	入浴	19:00	入浴	19:00	入浴
	語らいの時間	19:30	星空観察		語らいの時間		語らいの時間
	今日の収穫		語らいの時間		今日の収穫		今日の収穫
			今日の収穫				
21:30	就寝	21:30	就寝	21:30	就寝	21:30	就寝

6月4日（月）		6月5日（火）		6月6日（水）	
6:00	起床・健康観察	6:00	起床・健康観察	6:00	起床・健康観察
7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食
9:00	飯山市内見学	9:00	焼き板作り	8:00	荷物整理
12:00	昼食		笹ずし作り		部屋掃除
13:30	わらざうり作り	12:00	昼食	9:30	閉校式
16:30	健康観察	13:00	里山の暮らし体験	10:00	戸狩出発
17:30	夕食	14:00	セカンドスクールのまとめ	12:00	昼食
19:00	キャンプファイヤー	16:00	宿の方への手紙	15:00	学校到着・到着式
20:30	入浴	17:00	健康観察	15:30	解散
	語らいの時間	17:30	入浴		
	今日の収穫		お別れ夕食会		
		19:00	感謝の交流会		
			今日の収穫		
21:30	就寝	21:30	就寝		

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・本やインターネットなどを活用して自分の調べたい内容について情報収集し、目的である飯山についてのイメージを膨らませる。
- ・興味のあるテーマを選択し、ワークシートにまとめ、発表し、児童が互いに見合う。
- ・セカンドスクール全体を通しての課題を設定する。

2 事後の学習内容

- ・セカンドスクールの体験や課題についての学びをパンフレットにまとめ、発表する。
- ・お世話になった方々をお招きし、飯山で学んだことと感謝の気持ちを伝える交流会を企画、運営する。
- ・総合的な学習の時間や社会科の学習と関連させ、新たな課題について調べ学習を行う。
- ・4年生が有意義なセカンドスクールを実施できるよう、自分たちの経験からのアドバイスやイメージづくりのヒントになるようにセカンドスクール発表会を行う。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 とん平ハイキング

とん平高原のハイキングを通して、都会では見られない植物や生き物に触れ、自然に親しむ活動プログラムである。各宿の方々から飯山で見られる植物や生き物の説明をしていただき、

児童は都会との環境の違いに驚いた様子であった。草遊びも教えていただき、夢中になって遊んでいる場面もあった。途中のリフト乗り場では飯山市内を一望し、人々が昔から守り抜いてきた里山について話を聞くことができた。とん平の頂上では、盆地の様子を一望できた。山と川が長い年月をかけて創り出した地形の美しさに、児童も感動していた様子だった。

2 ブナ林観察

標高の高い地域で見られる「ブナ林」について理解を深めていくための体験活動である。「森の家」の施設内にある雑木林の中を散策し、宿の方から、ブナの木が果たす役割や伐採の歴史など詳しく説明していただき自然に親しんだ。ブナを漢字で書くと「榲」。人々は、以前ブナを「木では無い」といってたくさん伐採してしまったという話は、特に児童の印象に残ったようで、自然環境保護の大切さを改めて感じ取った様子であった。

<社会体験活動>

1 田植え体験

体験前に宿の方々からおいしい米を作るには冷たい水やよい土作りが必要であること、また天候によって水の量を変化させるなど毎日の世話が重要であることなどを教えていただいた。田植え体験では、初めは土の感触に驚き、声を上げたり、入ることに抵抗をみせたりする児童もいたが、しばらくすると「楽しい」「土が気持ちいい」と夢中で活動に取り組む姿が見られた。一つ一つの苗を一つずつ揃えて植えることや、意外と時間がかかったことから、活動の楽しさを感じながらも「おいしい米を作るためにこのような努力があったんだ」と感じ取った児童が多くいた。飯山の棚田の様子も、その下に大きく広がる信濃平の田んぼの様子も見ることができ、帰京後、社会科の農業の学習への理解も深まった。

2 手すき和紙体験

飯山市は、和紙作りに適した気候と、飯山和紙の原料となる「こうぞ」栽培が盛んな地域であり、和紙作りが盛んに行われていた。地域に伝わる伝統工芸に触れ、学んでほしいと考え、飯山市内でも数少ない製紙工房の一つである阿部製紙工房で、和紙作りの体験学習を行った。飯山和紙を折って染料で染める活動をするクラスと、実際に手すきで和紙を作るクラスに分かれて学習を行った。職人さんの和紙に対するこだわりがその場の雰囲気に出てきており、児童も緊張感をもって集中して作業をしていた。一つ一つのこだわりが伝統工芸を作り上げているということに対して、児童も理解を深めた様子であった。

<生活・文化体験活動>

1 はし作り

飯山市戸狩で宿の方々から歓迎を受けた開校式の後、児童が現地で初めて行う体験活動が「はし作り」である。セカンドスクール滞在中、毎日の食事で使用する



【7日間使う箸が完成（はし作り）】

箸なので、児童もよい箸を作ろうと真剣に竹を削っている姿が印象的であった。小刀を使うことが初めてで、難しさを感じ、作業が思うように進まない児童もいたが、宿の方々に教えていただきながら、全員が箸を完成させた。宿の方々に遠慮がちであった児童も、徐々に打ち解けていった様子であった。

2 わらぞうり作り

雪国の暮らしの中で発達したわら細工で「わらぞうり」を、手作業で作る体験活動である。わらぞうり一つを作るために多くの時間を費やすことを感じ取ってもらいたいと考え、この体験活動を取り入れている。宿の方々から事前講習を受けた指導員からアドバイスをもらい、児童は2時間以上座ったままわらぞうり作りに取り組んだ。根気のいる作業であった分、完成したときの喜びも大きかったようで、自分で作ったわらぞうりを履いて感触を確かめながら何度も地面を踏んでいた。



【昔の人の苦労話を聞く（わらぞうり作り）】

○児童の感想

- ・セカンドスクールを通して、前よりも成長したと実感しました。これまでは、あまり時間などを気にせず、生活していましたが、母親や先生に時間を言われる前に行動できるようになりました。それから、自分の事だけでなく、周りの事も考えて行動する大切さも学びました。この経験をこれからの生活にも生かしていきたいです。
- ・私はセカンドスクールに行く前から、飯山の伝統料理の笹ずしに興味をもって調べました。実際にセカンドスクールに行って、笹ずしを作るときに、「百聞は一見にしかず」とはこのことだなと思いました。聞いたり調べたりするだけでは、笹ずしを作る大変さなどが知れなかったけれど、体験するとよく分かりました。
- ・セカンドスクールへ行って学んだことは、自然の美しさです。宿の周りは木々や山に囲まれてとてもきれいでした。飯山は、春、夏、秋、冬がはっきり分かれている、春が遅く、秋が早いということを学びました。そして、日本では、数少ないブナの木がたくさんあるブナ林へも行けたことも楽しかったです。

○ファーストスクールの教育活動との関連

セカンドスクールを第5学年の総合的な学習の時間の中心的な単元として位置付けている。今年度は63時間の指導計画である。

実施時期	指導内容と単元名 (・は主な内容)
1 学期	<p>『出会い・ふれあい…セカンドスクール』4月～6月(40時間。うち現地での活動は27時間)</p> <p>「飯山ってどんなところ？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーションを行い、セカンドスクールについて知らせる。 ・調べ学習のテーマを選択し、インターネットを活用した調べ学習を行う。 ・調べ学習でまとめたことを、ノートにまとめ、情報交換を行う。 <hr/> <p>「セカンドスクール」6月上旬</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地での体験による課題の追求 ・自然や現地の方々との交流、新たな課題の発見 <hr/> <p>「セカンドスクールをまとめよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前学習や現地で学んだことをパンフレットで表現する。
2 学期	<p>『飯山からの贈り物①』10月～12月(11時間)</p> <p>「セカンドスクールを伝えよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セカンドスクールを振り返り、新たな課題を話し合う。 ・新たな課題について調べ、まとめる。 <p>「セカンドスクール交流会」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿の方たちへの感謝の気持ちを伝える。
3 学期	<p>『飯山からの贈り物②』(12時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セカンドスクール見付けた新たな課題である環境についての調べ学習 <p>「総合の学習のまとめをしよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セカンドスクールを中心とした1年間の総合まとめ ・4年生へ向けてセカンドスクールの発表を行う。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・ワークシートを用いて事前学習を行ったことで、調べたいテーマについて本やインターネットで調べたことを計画的に記録し、セカンドスクールでの学習や事後学習に生かすことができていた。
- ・飯山の自然に親しみ、宿の方々の温かさに触れ、武蔵野市ではできない体験をすることができた。現地の方々からの体験談や実際の物を目にした話は児童にとって生きた学びになっていた。
- ・昨年度の反省から、飯山市内見学で行う、飯山の歴史や産業についての学習を行っていったが、歴史的な背景も多く、児童の実態に合わせた解説をお願いした方がよかった。
- ・セカンドスクール指導員を1名しか配置できない宿があり、指導員と異性の児童への対応が難しかった。宿ごとに、男・女各1名の指導員を配置していただきたい。

第五小学校

新潟県南魚沼市

9月13日～9月19日(6泊7日)

参加人数 男子40名 女子33名
計 73名

○セカンドスクールのねらい

- ・自らすすんで活動したり学習したりしようとする態度を養う。
- ・自然と触れ合ったり、体験したりすることを通じて、自然の大切さを学ぶ。
- ・家庭を離れて、自分の力でできることを増やしたり、感謝の気持ちを伝えたりする中で、心の成長を図る。
- ・長期にわたる集団生活を通じて、一人一人の良さを認め合い、協力し合うことの大切さを学ぶ。
- ・日本の文化や歴史に触れ、日本の良さを引き継ぎ、伝えていこうとする心情を養う。
- ・食料生産や地域の食文化を理解し、郷土への関心を深めるようにする。

○日程表

9月13日(木)		9月14日(金)		9月15日(土)		9月16日(日)	
8:15	学校集合	6:45	起床	6:45	起床	6:45	起床
8:30	バス出発	7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
11:30	八海山到着	9:30	農業体験 稲刈り	9:00	塩沢宿見学	9:00	自然観察(上の原)
12:00	昼食	12:00	宿帰着・昼食	12:00	宿帰着・昼食	11:00	ぬか釜炊爨
13:00	八海山ロープウェイ						
14:30	開校式	14:00	雲洞庵 座禅体験	14:00	農業施設見学	14:30	郷土食(ちまき)作り
15:00	マイ箸づくり	16:00	民宿帰着	16:30	民宿帰着	16:30	洗濯・入浴
16:30	入浴	16:30	入浴	17:00	洗濯・入浴		
18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食
19:00	学習のまとめ	19:00	学習のまとめ	19:00	学習のまとめ	19:00	学習のまとめ
20:30	健康観察	20:30	健康観察	20:30	健康観察	20:30	健康観察
21:30	消灯	21:30	消灯	21:30	消灯	21:30	消灯

9月17日(月)		9月18日(火)		9月19日(水)	
6:45	起床	6:45	起床	6:45	起床
7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
9:30	自然観察(ブナ林)	9:30	五十沢小学校との交流	9:30	学習報告会
12:00	昼食	12:30	昼食(給食)	12:00	昼食(宿食)
13:30	しいたけパックセンター見学	13:30	五十沢小学校出発	13:00	閉校式
16:00	民宿帰着・入浴	15:30	民宿ごとの活動	16:30	学校着
18:00	夕食		夕食・感謝の会	16:40	帰校式
19:00	学習のまとめ	19:00	入浴		解散
			学習のまとめ		
20:30	健康観察	20:30	健康観察		
21:30	消灯	21:30	消灯		

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・12月の「六日町交流会」で、学習した成果を発表し在校生に「新潟の魅力を伝える」というねらいをもって、テーマごとの調べ学習をスタートした。内容としては、6つのテーマを挙げ、それぞれのテーマについて各自課題を設定し調べ学習を行った。さらに詳しく調べたいことや、実際に経験したい内容を明確にもち、セカンドスクールに臨めるように指導した。

2 事後の学習内容

- ・事前の学習に現地で学習した内容を付け加え、新聞にまとめた。まとめたものは掲示し、様々な学年に学習の成果を発表した。
- ・お世話になった六日町の方々をお迎えして交流会を開催した。感謝の気持ちを伝えたり、おにぎりパーティーを開催し交流を深めた。交流会では、4年生や、6年生、保護者、六日町の方々にセカンドスクールの学習成果を発表した。児童は宿ごとにテーマを設定し、ICT機器を用いながらプレゼンテーションを行った。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 八海山ロープウェイ

八海山展望台にのぼり、地形や気候についての学習を深める活動を行った。事前に学習した「米作りに適した地形」について実際に目にしたり、「標高と気温」について肌で感じたりする活動となった。



【八海山展望台より】

2 上の原地区における水生生物の観察

上の原地区の小川や池などで、水生生物の観察を行った。3グループに分かれて水生生物を採取した。採取した水生生物を持ち寄り、指導員の説明のもと、採取したすべての生物を全体で共有した。都会では、決して見ることでできない生物を見たり、実際に触れたりすることができ、貴重な時間となった。

3 ブナ林とキノコ

後山地区で、ブナ林の中に入り自然観察を行った。林の中の植物や多種多様なキノコについて、ガイドの方から説明を受けながら学習をすすめた。キノコの生態について詳しい説明を受け、実際に採取して観察する中で、事前学習の学びを深めていくことができた。



【ブナ林での自然観察】

<社会体験活動>

1 農業体験(稲刈り及びはざかけ)

昔ながらの稲を刈る方法や乾燥させる方法を体験した。また鎌を使って稲を刈ったり、藁を使って刈った稲を束ねたりする活動も行った。その際、「落ち穂を一つも田んぼに残さない」というもう一つの目標を立て体験活動を行ったことにより、これまで以上に稲を育てている方々や、食べ物への「感謝の気持ち」を再認識することができた。



【稲刈り体験】

2 カントリーエレベーター及び精米所の見学

社会科で学習したカントリーエレベーターを実際に見学した。大きさや迫力を感じるだけでなく、「精米されるまでの順番」で施設を見学することで、社会科で学んだことを深く理解することができた。さらに、働く方々の「安全」「安心」「清潔」への強い思いやそのための工夫について説明を受け、働く方々の「信念」や「責任」について肌で感じる事ができる貴重な機会となった。



【精米所の見学】

<生活・文化体験活動>

1 郷土食作り

「六日町の郷土食」を自分たちの手で作り、それを食するという活動を行った。民宿の方やインストラクターの指導のもと、普段経験できない調理実習に取り組むことができた。ちまきやまいたけご飯の調理、もちつき、ぬか釜炊爨、うどん打ちなど、様々な体験ができた。ぬか釜炊爨では、もみ殻やわらなど稲刈りから精米までの過程で出たものを余すことなく利用していることに気付き、昔の知恵のすばらしさを実感した。

2 民宿での生活

「自立と自律」をテーマに、家庭を離れ、普段はあまりやらない洗濯や布団の上げ下げ等の活動に取り組んだ。はじめのうちは、うまくいかないことも多く苦戦続きではあったが、指導員や民宿の方の指導のもと、最終日に向かうにつれ上手にできるようになっていく様子が見られた。また、仲間と協力して一週間を過ごすことで、普段気付かなかった友達のよいところに気付いたり、協力して生活していくことの大切さに気付いたり友情を深めることができた。最終日には、お世話になった新潟の「お父さん」「お母さん」に「感謝の会」を通してお礼の気持ちを精一杯表すことができた。

3 雲洞庵での座禅体験

1300年の歴史を誇る雲洞庵の雰囲気、子どもたちは「歴史の重み」を全身で感じる事ができた。また、ガイドの方の説明を受け、日本の歴史に興味を抱いている様子だった。座禅体験では、住職の方から、情報が常にあふれている現代社会において、心を無にしてしばらく自然の中に身を置くことの大切さを教わった。耳を澄ますと心地よい「自然の音」を感じることができ、有意義な時間を過ごした。



【雲洞庵での座禅体験】

○児童の感想

- ・ カントリーエレベーターでは、働く人々の「お米」や「消費者」に対する思いの強さを感じました。これからも、お米を感謝の気持ちをもって食べていきたいです。
- ・ 稲刈り体験では、農家の方々の苦労や工夫について知ることができました。そして、食べ物を大切に食する意味がよく分かりました。
- ・ 鈴木牧之記念館では、雪国での生活の大変さや雪をうまく利用した生活の工夫について学ぶことができてよかったです。
- ・ 上の原地区での自然体験では、たくさんの水生生物を見ることができてうれしかったです。豊かな自然環境が残っていることが分かりました。これからも、自然を大切にしていきたいと思います。
- ・ ちまき作りでは、きな粉を付けて食べるのが本当においしいのか不安でした。実際に作って食べてみるととてもおいしく、家族に新潟のちまきを食べさせてあげたいと思いました。
- ・ 友達と一週間過ごす中で、大変なこともあったけど、それ以上に協力して頑張ったことが多く、とても充実した一週間でした。今まで以上に友達と仲良くなることができました。
- ・ とても楽しい一週間でした。冬になったら、今度はスキーをしに来て、宿の「お父さん」「お母さん」にまた会いたいと思います。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

セカンドスクールでは、学年のテーマでもある「自立と自律」について考えながら行動することができた。「自分のことは自分でやる」ということだけでなく、「自らを律して、生活をずる」という活動の様子が多くみられた。ファーストスクールでの生活にも、セカンドスクールでの経験を生かし、最高学年になるに向けてさらに成長していくことを期待したい。

宿での生活では、毎日「お父さん」「お母さん」から暖かいサポートを受けながら充実した一週間を送った。宿の方や生活指導員が何気なくやっていたていることは、決して当たり前のことではなく、感謝してもしきれないほどのものであることに、日を追うごとに気付くことができた。そして、「感謝の会」や「学習報告会」で精一杯感謝の気持ちを伝えようと、努力する姿が見られた。「思いやり」や「温かい人間関係」について肌で感じた児童が、ファーストスクールでも生かしていけるように、セカンドスクールでの出来事を想起させながら指導にあたった。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

バリエーションに富んだ活動があり、児童の知的好奇心を常に高く保ちながら一週間を過ごすことができた。活動の内容は、事前学習において、児童に明確なテーマや課題を意識させやすく、事前事後の学習に意欲的に取り組むことができた。

第五小学校では、児童が学習し感じたり考えたりしたことを、「六日町交流会」で発表している。しかし、「第二のふるさと」である六日町に、児童の思いや願いを伝えきれていない状況がある。来年度以降、六日町に児童の思いや願いを届けられるような活動を企画していきたい。

大野田小学校

長野県飯山市

9月20日～9月26日(6泊7日)

参加人数 男子64名 女子66名
計 130名

○セカンドスクールのねらい

- ・長野県や飯山市の自然、文化、産業、オリンピック・パラリンピックについて興味・関心を持ち、課題を見付けすすんで調べようとする態度を養う。
- ・課題を解決するための方法を考えたり、調べたことや体験的な活動を通して自分の考えをもったりすることができるようにする。
- ・体験的な活動、他者とのコミュニケーションを通して、課題に沿って必要な情報を集め、取捨選択することができるようにする。
- ・自分たちの住んでいる地域と飯山市を比較し、その違いや共通点、よさに気づき、地域を大切にしようとする心情や態度を育てる。
- ・調べたことを伝える方法を目的に合わせて工夫し、分かりやすく伝えることができるようにする。
- ・飯山市の人々や友達など、人との関わりを通して、コミュニケーション能力や、自分の考えを広げたり深めたりする探究心を育てる。

○日程表

9月20日(木)		9月21日(金)		9月22日(土)		9月23日(日)	
7:30	学校集合出発式	6:00	起床 健康観察	6:00	起床 健康観察	6:00	起床 健康観察
8:00	学校出発	7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食
11:50	小布施 SA 昼食	9:00	トレッキング	8:50	課題学習①	8:00	課題学習②
13:20	戸狩着、開校式	11:40	昼食	12:30	昼食	12:00	昼食
15:00	はしづくり	13:45	民宿到着	13:45	自然体験	13:30	農業体験(稲刈り)
18:00	夕食	17:00	入浴	17:00	入浴	17:00	夕食(バーベキュー)
19:00	今日のまとめ	18:00	夕食	18:00	夕食	18:30	入浴
21:00	消灯	19:00	今日のまとめ	19:00	今日のまとめ	19:00	今日のまとめ
		21:00	消灯	21:00	消灯	20:00	星空観察
						21:00	消灯

9月24日(月)		9月25日(火)		9月26日(水)	
6:00	起床・健康観察	6:00	起床・健康観察	6:00	起床・健康観察
7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食
8:50	課題学習③	9:00	宿別プログラム	8:00	荷物整理、大掃除
12:30	昼食		郷土料理体験	9:00	学習のまとめ
13:30	宿別プログラム	12:00	昼食	10:20	閉校式
	宿別農業体験	13:00	宿別プログラム	10:35	戸狩出発
17:00	入浴		クラフト体験	12:00	横川SA 昼食
18:00	夕食	15:00	お礼の会準備	15:10	学校着、帰校式
19:00	今日のまとめ	17:00	入浴	15:40	解散
21:00	消灯	18:00	夕食		
		18:50	お礼の会		
		19:50	今日のまとめ		
		21:00	消灯		

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・「戸狩の観光大使になろう」というめあてのもと、セカンドスクールで「戸狩のよさ」と「戸狩が抱える問題点」について学習を進め、セカンドスクール後に4年生や戸狩の方に向けてプレゼン大会を行うという見通しをもたせて学習を行った。
- ・社会科と関連付け、地図帳や雨温図など各種資料を活用して、長野県飯山市戸狩の位置や地形、気候の特色を調べた。豊かな水を生かして生活をしていることや、日本有数の豪雪地帯であること、自然が豊かであることを知り、これらの特色を生かした産業や暮らしの様子に関心をもてるようにした。
- ・長野県飯山市の自然や伝統や文化、産業について本やインターネットで調べてから個人のテーマを設定し、課題意識をもってセカンドスクールに取り組むことが出来るようにした。
- ・国語科「明日をつくるわたしたち」と関連付けて、話し合い活動について事前指導を行った。話し合い活動の目的を全体で確かめること、相手の考えのよさに気付き共感的に理解すること、考えの理由を伝えたり尋ねたりすることが考えをつなげるときに大切なことであると押さえた。

2 事後の学習内容

- ・個人のテーマについて調べたことをまとめ、互いが調べたことを報告し合った。
- ・戸狩のよさと、戸狩が抱える問題とそれに対する改善策について話し合ったことをもとに、国語科と関連付けて提案書を作成した。
- ・プレゼン大会用のスライドをタブレットPCで作成した。
- ・戸狩観光大使として、戸狩の民宿の方々と4年生、保護者に向けてプレゼン大会を行った。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 トレッキング

2日目に民宿の方と共にとん平トレッキングを行った。長時間歩く中で、相手を励ましたり心配したりする声かけが見られた。雨天の為、コースを変更して行ったが、たくさんの種類の虫や植物、山間の豊富な水を目の当たりにして、自然の美しさを感じることができた。

6泊7日という長い宿泊行事に取り組むために、班づくりを目的として設定したので、クラスでトレッキングをするのではなく、宿ごとに取り組ませた。「苦しいことをメンバーと乗り越えた」という経験を、その後の活動や生活において生かす姿が見られた。



【トレッキングの様子】

2 オリ・パラ学習（カヌー体験）

3日目から5日目の午前中に行った課題別学習の一つに、オリ・パラ学習を取り入れた。事前学習として6月の学校公開にカヌー元オリンピック選手を招き、カヌーの楽しさや湖上から見渡す景色の素晴らしさ、パドルの使い方などについて丁寧に教えていただいたため、カヌーの競技としての面白さを知った上で体験することができた。

子どもたちは、体験を終えて「水の上から見る自然は格別だった」「オリンピック選手の技術の高さが実感できた」という感想をもった。今年から取り組んだ内容であったが、オリンピック選手の努力にふれたり戸狩の地形に関心をもったり、充実した体験活動となった。



【カヌー体験の様子】

<社会体験活動>

1 農業体験（稲刈り・脱穀）

予定していた3日目が雨だったため、4日目の午後に行った。130名で1時間以上かけて一生懸命稲刈りをしたが、用意した田んぼの一部しか刈ることができなかった。作業の大変さと機械の便利さを感じることができた。脱穀は、千歯こきと足踏み脱穀を使用した。脱穀機で取りきれない米や周りに落ちた米は、一粒も無駄にしないように手で取ったり拾ったりした。社会科で扱った内容を実際に体験することで、実感を伴う学びとなった。



【稲刈り・脱穀の様子】

<生活・文化体験活動>

1 郷土料理体験

長野県飯山市の郷土料理である笹ずしを作った。笹ずしの起源について説明を受け、宿によっては笹を取りに行くところから活動を始めた。家庭科で学んだ包丁の使い方を活用したり、自分たちで作った料理を食べて食への興味を高めたりすることができた。



【笹ずし作りの様子】

○児童の感想

- ・事前学習では、雪が多く降る地域は大変だと思っていなかったが、戸狩の人にインタビューするうちに地元の人々は雪を大切に思っていることを知った。
- ・戸狩のよさは、豊かな水があるところと自然豊かなところだと感じた。だからこそ、虫もたくさんいるのではないかと考えた。観光客がポイ捨てをしていると聞いたので、対策を考えたいと思う。
- ・伝統や文化のことは事前に学べたが、戸狩に暮らす人については生活をして気付くことがたくさんあった。みんなバラバラに暮らしているのではなく、協力して生活していることが特に印象に残った。
- ・観光業に力を入れていることが分かった。春や秋の観光客が少ないこと、スキー客が減っていることなどの問題を知ったので、観光大使としてできることを考えたい。
- ・武蔵野にはないブナ林や一面の田んぼ、透き通った湖を間近で見ることができた。お店が少なく不便に感じる場所もある。それぞれの土地のよさがあると思った。
- ・話を聞く大切さ、みんなで協力するときに大事なこと、整理整頓の仕方など、たくさんのことを学ぶことができた。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

事前学習において、戸狩の気候や土地の特色を調べるのに加え、抱える問題点についても学んだ。単元を「戸狩観光大使になろう」と設定し、事後にプレゼン大会を設けたことで、子どもたちは戸狩のよさ、課題とそれに対する改善策を見付けるという目標をしっかりとってセカンドスクールを過ごしていた。課題を解決するために、どう情報を集めてどのように話し合い、考えていけばよいかを知る良い機会となった。

共同生活を通して、集団行動において大切なことを多く学んでいた。帰校後は、話を聞く、時間を守る、相手の意見を受け止める、自分の役割に責任をもって取り組むなど、他者との関わり方や自分との向き合い方に大きな変化が見られた。今後も継続していけるようにする。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

今年度は、昨年度より一週間ほど時期を早め、9月中旬に実施した。米の収穫時期ということもあり、戸狩の特色を存分に味わえるプログラムを組むことができた。また、多少の雨でも実施できる内容が多く、予定を組みやすかった。今年度から始めたカヌー体験は、得るものが多い活動となった。自然を感じながら運動の楽しさや難しさを味わい、児童にとって最も思い出に残った活動の一つになったようだ。話し合い活動を毎日設定したことで、意見を出し合うよさを実感させることができた。

指導員の人数や性別によって宿での生活自立に差が出た。各宿に指導員を男女1名ずつ配置できると、生活自立を促したり児童が指導員に相談しやすくなったりして、集団生活の基礎を養うことができると考えられる。また、児童が宿の方との交流を深められる場面が十分ではなかった。宿の方との語らいの時間や周辺散策の時間を確保できるとよい。

9つの宿に4クラスを割りふるため、クラス混合で部屋やグループを構成した。人間関係が広がったことは良かったが、事前の準備や現地での指導が難しかった。観光協会や宿と連絡を取り、宿数や活動の仕方を相談していく。

境南小学校

長野県飯山市

9月19日～9月25日(6泊7日)

参加人数 男子49名 女子40名
計89名

○セカンドスクールのねらい

- ①自分の健康及び生活をしっかり管理し、充実した生活体験をする。
- ・身の回りの整理整頓や生活していく上での仕事（掃除・洗濯など）をできるようにし、生活に必要な知識・技能を身に付ける。
 - ・3食きちんと食べ、好き嫌いを減らし、生活のリズムをつくる。
- ②豊かな自然体験をする。
- ・ブナ林散策やとん平ハイキングなどを通して、豊かな自然を五感を通して味わう。
 - ・活動の合間の時間を使って民宿周辺でしっかりと遊び、植物や生き物と触れ合うことで知的好奇心や探究心を育てる。
- ③友達や飯山の方々との交流を深め、協力しながら社会体験をする。
- ・農業体験では作業をやり遂げることで、仕事としての農業の苦労や大変さを実感する。
 - ・誰とでも一緒に生活や活動ができる態度を身に付ける。
 - ・民宿の方々の温かさに触れ、自分を振り返り豊かな人間関係を築こうとする態度を培う。

○日程表

9月19日(水)		9月20日(木)		9月21日(金)		9月22日(土)	
7:45	学校集合、出発式	6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床
8:15	学校発	6:45	健康観察	6:45	健康観察	6:45	健康観察
11:40	小布施SAにて 休憩・昼食	7:10	朝食	7:10	朝食	7:10	朝食
13:00	開校式	9:00	稲刈り体験(手刈り)	9:00	里山体験	8:30	とん平ハイキング
13:30	各民宿へ	11:30	餅つき(昼食)	12:00	昼食	11:30	とん平着
14:30	箸作り	13:00	稲刈り体験(機械)	13:30	周辺散策	12:00	昼食
15:30	周辺散策	14:30	脱穀作業	14:00	野菜の収穫	14:00	とん平発
16:30	夕会	15:30	千曲川見学		たき火体験	15:30	夕会
16:30	夕会	16:30	夕会	16:30	夕会	16:00	入浴
16:45	入浴	16:45	入浴・学習の記録	16:45	入浴・学習の記録	17:00	学習の記録
17:00	学習の記録	18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食
17:45	夕食	19:00	飯山の自然文化の話	19:00	手紙書き	19:30	お別れ会計画
21:00	就寝	21:00	就寝	21:00	就寝	21:00	就寝

9月23日(日)		9月24日(月)		9月25日(火)	
6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床
6:45	健康観察	6:45	健康観察	6:45	健康観察
7:10	朝食	7:10	朝食	7:15	朝食
9:00	「涌井」見学	9:00	ブナ林散策	9:15	閉校式
11:30	伝統食作り	12:00	昼食	9:30	飯山発
12:40	昼食	14:00	民宿大掃除	11:20	昼食
14:00	宿別体験活動	16:00	夕会	14:40	学校着
16:00	夕会	16:15	入浴・学習の記録	14:55	帰校式
16:15	入浴・学習の記録	17:30	夕食(ハーベキュー)	15:00	解散
17:00	お別れ会準備	19:00	お別れ会		
18:00	夕食	21:00	就寝		
19:00	お別れ会リハーサル				
21:00	就寝				

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・「稲を育てよう」というテーマで、総合的な学習の時間に実際にバケツに種もみをまき、稲を栽培する体験活動を行った。発芽や分けつの様子など、生長過程が分かるように観察記録をとり、水の管理に気を配って世話をした。夏休みには自宅に持ち帰り、観察を続けた。店で売られた状態の米しか目にしたことのない児童が多く、種もみから稲が育つことに驚き、本物の田んぼでの稲刈りを楽しみにするようになった。
- ・「ブナ林」に関連するテーマについて事前学習を行った。ブナ林の自然や役割について学習し、夏休み中には、個人でテーマを設定し調べた。夏休み明けにそれぞれが調べてきたことを発表し、情報を共有した。事前に観察したいものや体験したいことを明確にしておいたことで、児童が意欲的に活動することができた。

2 事後の学習内容

- ・セカンドスクール終了後、各自の学習課題に沿って、現地では調べられなかった内容を書籍やインターネットなどを利用して調べ学習を行った。同テーマの児童が集まってグループを作り、コンピューターの発表ソフトを使ってスライド資料を作成した。資料作成にあたり、書籍やインターネットなどで調べた情報をそのまま使用するのではなく、セカンドスクールの活動を振り返り、実際に現地で体験したことや見聞きしたことを大切にするように指導した。
- ・コンピューターを使用した発表資料は、写真や図、イラストを大きく提示することができ、分かりやすいものになった。伝えたいことをキーワードで提示することを指導した。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 とん平ハイキング

悪天候のため、予定していたとん平までは行かず、途中にあるスキー場のリフトの終点まで宿の方々の案内で、ハイキングに出かけた。歩く途中、宿の方からハイキングコースで見られる植物や生き物の話もしていただき、児童は実際に見たり触れたりしながら、飯山の自然を感じることができた。

スキー場のリフトの終点では、野沢温泉のスキー場を見ることができた。盆地が開け、黄金色に色づいた田んぼが広がり、その中央を千曲川が蛇行して流れている様子も見ることができた。児童は、坂道を歩き続けた疲れも忘れ、じっと景色を眺めていた。

2 ブナ林散策

6日目、バスで鍋倉山まで行き、現地のネイチャーガイドの案内でブナ林散策を実施した。事前に調べてきたことをもとにしながら、ブナ林の生物や植物の観察を行った。茶屋池からブナ林の中に入ると、枝葉が大きく広がり、少しひんやりとした場所があった。現地では、堆積した腐葉土の上を歩きながら散策を楽しんだ。雑木林の根が張り巡らされ、大雨が降っても少しずつ水を蓄える機能を持ち「緑のダム」と言われる理由を知るとともに、ブナの葉や実の特徴、生き物が共生する様子を実際に観察し、森林の役割を考えることができた。



【フィールドワークをする児童】

<社会体験活動>

1 農業体験

丸ごと1日農業体験ということで、午前中は稲刈りを、午後は脱穀を行った。田んぼに行く前に、帽子、長ズボンに長袖、軍手、首に巻くタオル、長靴など、服装の確認をした。集合場所では、宿の方から手順について説明を受けた。また、手刈りの方法について、手ほどきをしていただいた。特に鎌の扱い方については、危険のないように気を付けることをしっかり確認した。宿ごとにご主人から説明を受け、児童は張り切って田んぼに入って行った。始めはぎこちない動きで、苦勞しながら稲刈りをしていたが、時間の経過とともに鎌の扱いも稲の束ね方も慣れ、みるみる上手になっていった。班の仲間と声を掛け合って熱心に作業をしていた。また、落ち穂拾いをする宿のご主人を見て、一つ一つの稲を大切に育て大事に扱っていることを知り、一



【はぜかけをする児童】

緒に落ち穂拾いをしながら稲を束ねる姿も見られた。はぜ掛けが終わると、刈った場所に広い空き地が現れ、児童は汗だくだったが、達成感や満足感に満ちあふれていた。

民宿の方に、バインダーとコンバインによる刈り取りの様子を見せていただいた。機械が動き始めると、手刈りとは比べものにならない作業スピードに、一斉に歓声が上がった。機械での作業を見学したことで、農作業の機械化が生み出した効率性を改めて実感できた。

午後は場所をトピアホールの軒先に移して、昔の脱穀の方法を体験した。千歯こきは力の入れ具合が難しく、苦勞する子どももいたが、足踏み脱穀機ではリズムをつかみ、熱心に作業していた。こうした活動を通じて、お米が自分たちの食卓に届くまでには農家の方の様々な工夫と苦勞があることを再確認するとともに、昔の人々がその時代の技術に応じて知恵をはたらかせて稲作を行ってきたことに感心していた。

<生活・文化体験活動>

1 箸作り体験

1日目、宿に着くと、セカンドスクール期間中に自分自身が使う箸を作った。ちょうど良い長さの竹を宿の方にご準備いただき、小刀とやすりをうまく使って、食べやすい細さに削っていった。小刀は普段使い慣れていない児童も多く、安全に十分注意しながら取り組んだ。熱心に取り組み、一人一人が納得いく箸を完成させることができた。

2 伝統食作り体験

5日目には、飯山に古くから伝わる郷土料理「笹寿司」と「おやき」の調理体験をした。笹寿司は、熊笹の葉の上に酢飯をのせ、その上にワラビやゼンマイなどの山菜やクルミ、卵焼き、紅しょうがなどを盛り付ける。児童は好きなものを選んでのせて昼食としてオリジナルの笹寿司を作って食べた。おやきは、小麦粉の皮で切り干し大根やゼンマイなどを包み入れ、蒸し器でふかすものである。宿によって中に入れる具材が違っていたり、蒸し器でふかす前にフライパンで焼き目をつけたりするなど、それぞれの方法があった。児童は自分でどのように形を作るかを考えながら作っていた。作るのも食べるのも大満足の児童たちであった。



【笹寿司作りの様子】

○児童の感想

- ・箸作りでは、小刀を使って竹をちょうどよい細さまでけずります。上手にできたと思ったけど、あまり食べやすくはなかったです。自分で作った箸なので、大事に使います。
- ・稲を刈り、結ぶということを何回も繰り返していると、慣れてきましたがどんどん疲れてきました。昔は全部手でやっていたのかと思うと、大変だなと思いました。機械での稲刈りで、バインダーという機械は自動でひもがしばってあって、どうなっているのかなと思

いました。

- ・東京ではあまり田んぼを見たことがありませんでした。飯山は、一面田んぼで、こんな風景は見たことがなかったので、とても印象に残りました。
- ・稲をあの大きさまで育てることの大変さを教えてもらって、米づくりについてもっと調べてみたいと思いました。また、冬には雪もすごいと聞いたので、冬に家族と一緒に飯山に行ってみたいと思いました。
- ・一週間、友達と共同生活をして、今まで以上に友達のことが知れて、嫌なこともあったけれど、仲が深まりました。

○ファーストスクールの教育活動との関連

- ・稲刈り、脱穀（丸ごと1日農業体験）⇒社会科「暮らしを支える食料生産」
- ・飯山のお話を聞こう⇒社会科「雪国の人々の暮らし」「暮らしを支える食料生産」
- ・ブナ林散策⇒社会科「人と自然がともに生きる国土」
- ・涌井見学⇒社会科「わたしたちの生活と森林」
- ・各民宿での集団生活⇒集団行動、協調性、協力

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・指導員を5軒の宿に男女1人ずつ配置することで児童の生活を細かく丁寧に見ることができ、個別の対応につながった。
- ・児童の宿ごとに行う様々な体験を通して、豊かな自然を味わったり人間関係を深めたりすることができた。児童の学習課題に沿った宿ごとの活動になるよう、事前に宿の方々と打ち合わせをすることで、児童の関心をより高めることができた。
- ・食物アレルギーの対応として、担任と宿の方が打ち合わせをした後、宿の方と保護者も打ち合わせをした。食物アレルギーの事故を防ぎ、児童や保護者が安心できるように、今後十分な打ち合わせを行うことが必要である。
- ・児童の主体的な学習につなげるために、児童の興味・関心のある学習活動を事前に調査し、取り入れていきたい。そのために、観光協会との打ち合わせを重ね、児童の興味・関心にあったプログラムが実施できないかを検討する。
- ・長野県飯山だからこそできる活動について検討し、活動をさらに充実させる。

本宿小学校

新潟県南魚沼市

9月25日～10月1日(6泊7日)

参加人数 男子26名 女子38名
計64名

○セカンドスクールのねらい

- ・学校で学んだことをもとに、普段の生活ではできない体験を通してより学びを深めたり、広げたりする。
- ・宿舎での生活を通して、友達と協力し助け合いながら、自主的に生活する力を身に付ける。
- ・南魚沼の自然や文化・産業にふれ、豊かな人間性を育み、私たちの生活を支えてくれる人の工夫や努力について考える。
- ・現地校との交流を通して、人との付き合い方を学び、コミュニケーションの力を高める。

○日程表

9月25日(火)		9月26日(水)		9月27日(木)		9月28日(金)	
8:30	学校出発	6:30	起床・検温・洗面	6:00	起床・検温・洗面	6:30	起床・検温・洗面
11:30	八海山到着	7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
	昼食	9:30	稲刈り体験		しいたけパックセン	9:30	三国川ダム見学
13:00	八海山ロープウェイ	12:00	昼食	9:30	ター見学	12:30	昼食
14:30	開校式	13:30	大崎小学校交流①	12:00	大崎小と交流昼食		後山ブナ林トレッキング
			学校紹介		カントリーエレベーター見学	13:30	
			交流	13:00	ター見学		
16:00	箸作り	16:00	周辺散策	14:10	大崎小学校交流②	16:00	周辺散策
18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	宿着・夕食	18:00	夕食
19:00	入浴	19:00	入浴	19:45	入浴	19:00	入浴
20:00	民宿の方や友達との交流	20:00	民宿の方や友達との交流	20:30	民宿の方や友達との交流	20:00	民宿の方や友達との交流
21:00	健康観察・就寝	21:00	健康観察・就寝	21:00	健康観察・就寝	21:00	健康観察・就寝
21:30	消灯	21:30	消灯	21:30	消灯	21:30	消灯

9月29日(土)		9月30日(日)		10月1日(月)	
6:30	起床・検温・洗面	6:30	起床・検温・洗面	6:30	起床・検温・洗面
7:30	朝食	7:00	朝食	7:30	朝食
9:00	わらぞうりづくり	9:00	塩沢宿見学	8:15	大掃除
12:00	昼食	12:00	昼食(塩沢中央公園)	9:00	笹団子づくり
14:00	座禅体験	13:30	課題別学習	11:30	昼食
16:00	お別れ会準備		A 雪国の生活	12:30	閉校式
18:00	夕食		B 魚沼の米	13:00	上の原地区発
19:00	入浴		C 坂戸城跡	16:30	学校着
20:00	民宿の方や友達との 交流	17:30	D 源流の学習		帰校式
21:00	健康観察・就寝	19:00	バーベキュー		
21:30	消灯	20:00	お別れ会		
		21:00	健康観察・就寝		
		21:30	消灯		

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・課題別体験学習に向け、南魚沼の自然や産業・暮らしの様子などから調べてみたいことを挙げ関心のあるテーマを決めた。各自が、本やインターネット、パンフレットなどを用いて調べ学習をし、自分たちが現地で調べたい課題をつくる。
- ・大崎小学校との交流会で行う発表の練習をする。

2 事後の学習内容

- ・追究したい課題ごとにグループを作り、現地で学んだことに、自分たちで調べてきた内容を加えてまとめ、保護者や4年生に紹介する。

○特色ある活動内容

<課題別体験学習>

自分たちの課題をもち、事前学習でつくった課題を実際に現地で調べたり、体験したりすることで、より意欲的に問題解決に取り組むことができた。

1 南魚沼の米

当初、コンバインによる稲刈りの様子を見学し、2日目に自分たちが体験した、手作業による稲刈りと



【精米過程における米の比較】

比較することで、作業の機械化の意義をより実感をもって学習する機会とする予定であったが、あいにくの天候のため、それはできなかった。かわりに、カントリーエレベーターを出てからの米がどのような行程を経て商品になり出荷されるのか、また、南魚沼の代名詞とも言えるコシヒカリがどのように誕生したのかについて学習することができた。

2 源流の学習

「六日町の川にはどのような栄養があるのか」「川にはどのような生き物がいるの」といった課題をもって活動に臨んだ。

川の源流である「雷電様の水」に行き、水が湧く付近で、サンショウウオを発見した。また、川の水の成分についての話を聞いたり、川の温度を計っていくつかの川と温度を比べたりした。普段見られない生き物を見たり、話を聞いたりすることで、川や水に関する学習を深めることができた。

3 雪国の生活

1,000 トンの雪を収容する雪中貯蔵庫を見学した。日本酒の熟成だけでなく、野菜等の貯蔵にも使われていることを知り、1年間を通して雪が活用されていることに驚いていた。また、民宿の方の話や写真等から、冬の上の原地区の様子や大雪に対しての備えなどについて知ることができた。牧之通りで雁木や縦型信号機や縦に並んだ電線など町の中の雪国のくらしの工夫を見付けることを通して、雪国の暮らしと生活する人々の様子について学ぶことができた。

4 坂戸城跡

坂戸山に行き、山城であった坂戸城とはどのような城だったかなど、坂戸山からの景色や住居の跡などを実際に見ながら話を聞いた。「坂戸城はなぜ負けたことがなかったか」など、子どもたちの質問に答える形で講師から分かりやすい説明をしていただいた。また、雲洞庵見学や座禅体験なども、上杉景勝や直江兼続の生涯を知る機会となった。

<社会体験活動>

1 農業体験

稲刈り体験では、宿の方や地域の方に稲の刈り方と束ね方を教えていただき、作業を進めていった。その後、刈り取った稲を昔ながらの乾燥方法「はざかけ」にした。今では機械を使って短時間で行われていることなどについても話を聞いた。米作りの作業の一端ではあったが体験することを通して米作りの大変さを理解し、農家の方がたくさんの手間をかけて米を作ってくれているおかげで自分たちが米を食われていることを感じる事ができた。



【稲刈り体験で稲を束ねている様子】

<自然体験活動>

1 後山ブナ林のトレッキング

3人の講師の先生の指導のもと、日本固有の自然林であるブナ林を散策する活動を行った。ブナの木そのものの生涯や、ブナ林における生態系、ブナの木を活用した里山の暮らしなどについて講義を受けたり、児童がキノコや植物、カエルなどの小動物を採取して、紹介し合ったりする活動を行った。樹木一本、落ち葉ひとつとっても、そこには多くの生き物の働きが密接に関わっているということを実感することができた。



【生態系について学ぶ児童】

<生活・文化体験活動>

1 座禅体験

新潟県を代表する名古刹である雲洞庵において、住職直々のご指導のもと、座禅体験を行った。座禅といっても宗教的活動としてではなく、あくまで自己の精神を整えるための活動の一環としての座禅の意義を教授していただくことができた。

集中できないと和尚さんに肩をバシーンと叩かれるのではないかと、勝手に心配していたためか、座禅体験が近づくにつれて表情が緊張していった児童もいたが、武蔵野市の生活にはない雲洞庵の静けさと、住職の含蓄ある説話によって、ほどなく緊張もほぐれ、座禅体験に向き合うことができた。「家に帰ってもゲームをしないで座禅をしよう」とつぶやく児童もいたが、皆一様に初めての体験に満足できた様子だった。

2 郷土料理作り(笹団子)

各民宿で、宿の方や地域の方に教わりながら、笹団子作りに取り組んだ。地元の方が講師として来てくださり、交流しながら笹団子作りを行った。最後のしぼる作業では、昔ながらの「しぼる」作業にはじめは悪戦苦闘していたが、次第に慣れ、生き生きと活動に取り組み、できあがった笹団子をおいしそうに食べていた。

<大崎小学校との交流>

現地の南魚沼市立大崎小学校の5年生と交流を行った。大崎小学校の体育館で互いの学校紹介やグループで交流できる遊びを楽しんだ。最初はぎこちなかったものの、少しずつ打ちとけた。

交流2日目は、大崎小学校の体育館で給食をいただき、その後農業施設(カントリーエレベーター)を見学した。見学後は、体育館に戻り、一緒にドッジボールを楽しみ、さらに交流を深めることができた。



【大崎小の児童と人間知恵の輪】

○児童の感想

- ・ 6泊7日の生活で、自分のいいところとこれからがんばったほうがいいことが見つかった。班のみんなに助けってもらったから、班長の仕事をがんばることができた。
- ・ ハコネサンショウウオを捕まえることができてうれしかった。川のそばで見つけたホコリタケがかわいかった。家に持って帰りたいくらいだった。
- ・ 大崎小の子とは、仲良くなれるか心配だったけど、雑談をしていたら仲良くなれた。また会いたい。
- ・ 宿のお父さんお母さんや指導員さんのおかげで楽しいセカンドスクールになった。みんな優しくておもしろかった。一生の思い出にしたい。

○ファーストスクールの教育活動との関連

課題別学習や体験学習の中から、詳しく調べたい課題を各自設定し、調べ学習を行った。

事後学習では、課題ごとに8グループに分かれて学習を進めた。学んだことをまとめ、プレゼンテーションソフトを使って4年生に発表した。4年生に伝わりやすくなるように、より詳しく調べたり、発表方法に工夫を凝らしたりすることで、さらに理解を深めることができた。

また、現地において行った自然観察は、社会科「わたしたちの生活と環境」等の学習の中でも活用した。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

6泊7日の共同生活は、学級の友達とはいえ、ほっと一息をつく時間がもちにくい。日常から忙しくしている児童も多いので、スケジュールの中に、あえて一人で静かに過ごすという時間を入れてもよいのではないかと感じた。例えば、座禅体験の翌日の朝食前などに宿の自室で座禅をする等、工夫してみるのもよいと考えた。

千川小学校

新潟県南魚沼市

9月20日～9月26日(6泊7日)

参加人数 男子24名 女子22名
計 46名

○セカンドスクールのねらい

- ・体験を通して、自然や文化とふれ合い、自然や文化を大切にしようとする心を育む。
- ・生活する上で必要な知識・技能、基本的生活習慣を身に付け、自立心を養う。
- ・活動を通して、児童の知的好奇心や探究心を喚起し、課題解決への意欲や態度を培うとともに、思考力・判断力を育てる。
- ・自主的な集団生活や地域の人々との交流を通じて、協力・信頼関係を深めるとともに、他の人への感謝の念を育てる。

○日程表

9月20日(木)		9月21日(金)		9月22日(土)		9月23日(日)	
8:00	学校出発	6:00	起床、検温、洗顔	6:00	起床、検温、洗顔	6:00	起床、検温、洗顔
11:30	昼食	7:30	朝食	7:00	朝食	6:30	朝会
13:00	八海山ロープウェイ乗車	9:30	稲刈り実習	9:00	しいたけパック工場見学	7:30	朝食
14:30	開校式	12:00	昼食	12:00	昼食	9:00	わらざうり作り
14:45	各宿到着	13:30	山カントリーエレベーター見学			12:00	昼食
15:30	マイ箸作り	15:00	ちまき作り	14:30	各宿での活動	13:00	わらざうり作り
17:30	夕食	17:30	夕食	18:00	夕食	17:30	夕食
		18:45	天体観測			18:40	ナイトハイク
20:00	健康観察	20:00	健康観察	20:00	健康観察	20:00	健康観察
20:15	入浴	20:15	入浴	20:10	入浴	20:15	入浴
21:00	就寝	21:00	就寝	21:00	就寝	21:00	就寝
9月24日(月)		9月25日(火)		9月26日(水)			
6:00	起床、検温、洗顔	6:00	起床、検温、洗顔	6:00	起床、検温、洗顔		
7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食		
9:00	後山ブナ林トレッキング	9:00	課題別学習	9:30	笹団子作り		
12:00	八色の森公園昼食	12:30	昼食	11:30	昼食		
		13:30	各宿での活動	12:20	各宿お別れ式		
14:00	雲洞庵座禅体験			13:00	閉校式		
18:00	夕食	17:30	夕食	13:30	レイホー八海出発		
18:45	感謝の会準備	18:45	感謝の会	16:30	学校着、到着式		
20:00	健康観察	20:00	健康観察・入浴				
20:15	入浴						
21:00	就寝	21:00	就寝				

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・社会科の学習において、米作りのさかんな地域について学習した。その地域の気候や地形の特色、米作りの方法などとともに、安心でおいしい米を作るために働く人々の工夫や努力について、理解を深めた。
- ・総合的な学習の時間に、南魚沼市から送っていただいたコシヒカリの苗を学校の自然体験園に植えて育て、成長を観察した。自分たちが稲刈りする稲は、どのように育つのかを体験から学ぶことができた。また、米の種類や料理など、自分で立てた課題について調べ学習を行い、興味を広げることができた。
- ・セカンドスクールで行う活動の中で関心をもったことについて個人で調べた。また、課題別学習に向けて、水・米・歴史文化の中からテーマを一つ決め、調べ学習を行った。事前に体験することをインターネットや本で調べ、体験学習への興味・関心を高め、学習が深められるようにした。

2 事後の学習内容

- ・課題別学習で学んだことを他のグループの児童に発表した。他のグループの発表を聞いたことでそれぞれのグループの活動について共有することができた。
- ・事前学習で調べたことや、現地で体験したことを基にして、セカンドスクールの発表会を行った。自分が経験したことや事後にインターネットや本を使って深く調べたことを、実際の写真や図を使って分かりやすくプレゼンテーションソフトでまとめた。それを4年生に発表する学習をとおしてセカンドスクールに関する学習のまとめをすることができた。また、南魚沼市から児童が刈った稲の一部を精米して送っていただいた。家庭科の学習で自分たちが関わった米を実際に調理することで、食への喜びとともに、農家の人の苦勞を思い、食べ物の大切さを実感することができた。
- ・セカンドスクールでの思い出を作文にし、また宿や観光協会の方々へのお礼の手紙を書いた。11月には、宿の方や観光協会の方々に学校に来て頂き、交流を深めることができた。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 八海山ロープウェイ、展望台

ロープウェイを利用して八海山の展望台まで上がった。山に囲まれている南魚沼市の地形の特徴（扇状地）や中央を流れる魚野川、流域の水田の多さを実感することができた。また、麓との寒暖の差も体験したことで、八海山の標高の高さを体感することができた。

2 天体観測

隣接する天体観測所にて星空観察の学習をした。観測日は雲が多く、星を見ることができなかったが、実際に天体ドームを動かすところを見たり、望遠鏡を覗いたりすることができた。

3 後山ブナ林森林トレッキング

水源林としても機能しているブナ林の森林をガイドの方2名と散策した。武蔵野市では見たことのない木の実やきのこを見つけて説明を聞いたり、ふわふわした落ち葉の感触を足から味わったりして、自然の豊かさを実感した。また、山に囲まれた地形ならではの山びこを体験したり、笹笛を作ってみんなで遊んだりするなど、五感を使って自然を楽しむことができた。

<社会体験活動>

1 農業体験(稲刈り、野菜の収穫など)

稲刈り体験では、指導員の方に鎌の使い方を丁寧に教えていただいたことで、初めはぎこちなかった稲刈りも、素早く刈り取ることができるようになった。集めた稲をまとめ、藁で縛ることが難しかったが、一つの米粒も落とさないようにという指導員の方の言葉から、一生懸命に落穂拾いをする児童の姿が印象的だった。稲刈りやはざかけの体験を通して、手作業での米作りの苦労を実感することができた。



【稲刈り体験】

その後、カントリーエレベーターを見学することで収穫された米がどのようにして保管されているのかを学ぶことができた。さらに、各宿でちまき作りをすることで、収穫から食べるまでを一日で体験することができた。

米だけでなく、各宿の畑で野菜の収穫体験も行った。宿の方から話を聞きながら一緒に畑仕事をする中で、野菜を育てることの苦労とともに、自分たちで収穫した野菜を食べる喜びやそのおいしさを感じることもできた。

2 しいたけパック工場見学

雨により坂戸山登山が中止となったため、しいたけパック工場を見学した。工場の方と生産者の方から菌床作りから収穫するまでの流れや収穫したしいたけを発送するまでの流れを学んだ。児童は、より自然に近い環境をハウス内に作っていることや徹底した品質管理を行っていることなどを見学して知ることによって、おいしいしいたけを作るためにされている生産者の工夫や努力を学ぶことができた。

<生活・文化体験活動>

1 わらぞうり作り

地元の方を講師に迎え、各宿でわらぞうりを作った。作り方を丁寧に教えてもらうことで、全員が作り上げることができた。

作ったあとは実際に履いて歩き、履き心地を確かめながら、生活の知恵を肌で感じ、昔の人々の暮らしを想像することができた。



【わらぞうり作り】

2 ちまき作り、笹団子作り

南魚沼市の伝統の食文化を、実際にちまきと笹団子を作ることで学んだ。笹でもち米を包むことに悪戦苦闘しながら一生懸命作ったちまきを、翌日の朝食として食した。

最終日に行った笹団子作りは、宿の方との最後の交流となり、6泊7日の締めくくりの活動として、非常に有意義な時間となった。

3 雲洞庵見学、座禅体験

歴史・文化に触れる活動として、座禅体験を曹洞宗の寺院である名利雲洞庵で行った。自然に囲まれ、静寂の中で黙想し精神を落ち着かせ集中するという貴重な体験ができた。また、「開かずの門」と言われている赤門や、参道の石畳、上杉景勝や直江兼続が戦国時代の武将になるための教養を受けていた場所がある本堂など、貴重な歴史的文化的文化財を見学することができた。

<課題別学習>

1 水グループ(三国川ダム・三国川頭首工・畔地浄水場)

生活や農業を支える豊かな水がどのようにして生まれるのか、三国川ダム・三国川頭首工・畔地浄水場を見学した。浄水場では武蔵野市と南魚沼市との水の採取方法の違いなどを学ぶことができた。

2 米グループ(精米所・ぬか釜体験)

収穫した後の米がどのように精米されて、消費者まで届いているのかを学んだ。ぬか釜体験では、指導員の方に昔ながらの米の炊き方を教わった。炊きあがった米のおいしさにどの児童も驚いていた。

3 歴史文化グループ(鈴木牧之記念館、中島屋)

江戸時代の文筆家である鈴木牧之の記念館では、雪国の生活について著した「北越雪譜」や地域の特産品である「塩沢紬」について学んだ。中島屋では、雪国の伝統的な家屋の工夫や地域の風習について教わった。

○児童の感想

- ・私がセカンドスクールで一番楽しかったことは、稲刈りです。最初は難しかったけど、切っていくうちに上手になってきて楽しくなりました。束ねている時に指導員の方に「上手だね。」と言われてうれしくてたくさん束ねました。これから、感謝して毎日食べようと思います。
- ・感謝の会の準備の時に、学校では気付かなかった友達の頼れるところが見られたり、自分も少し積極的に動けるようになったりしたので良かったです。
- ・1週間、一緒に生活や活動をしてみて、一人一人違う考えをもっていることに気付きました。これからは、いろいろな人とたくさん話してみようと思います。
- ・宿のお父さん、お母さんは、いつも私たちに優しく接してくれました。私たちのために作ってくれるご飯は、いつもおいしかったです。今度は家族で泊まりにいきたいです。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

セカンドスクールでは、「全員で協力」「礼儀正しく」「元気なあいさつ」という3つのめあてを立て、活動に取り組んだ。

家族から離れて過ごした6泊7日の集団生活は、貴重な経験として、児童一人一人の力となっている。その力を事後の活動でも引き出すため、学級・学年活動や行事等、大勢で一つの目標に向かって活動するときには、セカンドスクールでの経験を想起させることで、仲間と協力したり、励まし合ったりすることができると思う。

また、現地の体験では、学ぶことの楽しさを味わうだけでなく、現地の方々との関わりを大切にしてきた。このような素晴らしい経験をする事ができたのは、直接関わった方だけでなく多くの方々の協力があったからであることを知り、自分は多くの人々に支えられているということに気付くことで、日頃の生活の中でも自分を支える人々への感謝の気持ちをもって生活できると考える。

そのような心の成長を土台として、ファーストスクールでの学習でも、自分で課題を見つけ、それを解決していく力をさらに身に付けていけるよう、指導していく。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

6泊7日の間、体験活動や各宿での集団生活を通して、武蔵野市では味わえない多くの貴重な経験をする事ができた。今年度は、11月に六日町観光協会の方と宿の方を本校に迎え、交流会をすることができた。現地での交流だけでなく、自分たちの学校にお世話になった方々が来てくださったことは、自分たちが迎える側となり、歌や演奏を聞かせたり、感謝の言葉を伝えたりするなど成長した姿を見てもらえる機会となり、児童にとって大きな喜びとなった。

また、毎日の食事を通して、南魚沼の食文化や、それを支える人々の思い、自然の豊かさを十分に感じ取ることができた。食への関心が高まり、給食での残菜も少しずつ減ってきている。

次年度へ向けての課題として、課題別学習において、児童の関心に合わせて選択の幅を広げていく必要があることが挙げられる。六日町観光協会の方と相談しながら4つのプログラムにしたいと考えている。児童一人一人が自分の課題と向き合い、一連の流れで学習できるような過程を組んでいけるようにする。

井之頭小学校

長野県飯山市

9月26日～10月2日(6泊7日)

参加人数 男子 36名 女子 41名
計77名

○セカンドスクールのねらい

- ・自然体験学習を通して、工夫する態度や個性を大切にする姿勢を育てる。
- ・大自然の中で、自立に必要な知識や技能を身に付けさせる。
- ・学習の場を移し、自然や地域の特性を生かした体験に裏付けられた生きた学力の向上を図る。
- ・集団生活のルールを守り、信頼や友情、協力し合おうとする気持ちを育てる。

○日程表

9月26日(水)		9月27日(木)		9月28日(金)		9月29日(土)	
7:30	学校集合 出発式	6:00	起床	6:00	起床	6:00	起床
8:00	出発	7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食
12:00	戸狩到着 昼食	9:00	飯山オリエーリング*	9:00	田んぼの話	9:00	ブナ林散策
13:00	開校式	11:30	昼食(各宿)	10:00	稲刈り体験	11:30	昼食(宿)
13:30	飯山の学習	13:30	和紙すき体験	11:30	昼食(弁当)	13:00	わらざうり作り
15:00	箸作り	15:15	とんだいら散策	13:30	脱穀	17:00	健康観察
16:00	宿の方々のお話	18:00	夕食	15:15	入浴	18:00	夕食
18:00	夕食	19:00	暗闇体験	16:00	雪国の暮らし	19:00	入浴
19:00	入浴	19:30	入浴	18:00	夕食	20:00	ふり返りの時間
20:00	ふり返りの時間	20:00	ふり返りの時間	19:00	手紙書き	21:30	消灯・就寝
21:30	消灯・就寝	21:30	消灯・就寝	20:00	ふり返りの時間		
				21:30	消灯・就寝		
9月30日(日)		10月1日(月)		10月2日(火)			
6:00	起床	6:00	起床	6:00	起床		
7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食		
9:00	郷土食作り	9:00	宿ごと勤労体験	7:45	荷物整理・大掃除		
11:30	昼食(宿)	11:30	昼食(宿)	9:30	閉校式		
13:00	飯山のすてきスッチ	13:00	課題別学習	10:00	戸狩出発		
17:00	健康観察	16:00	健康観察	12:00	横川S Aで昼食		
17:30	夕食(バーベキュー)	17:30	夕食	14:30	学校到着		
19:00	入浴	18:15	感謝の会	15:00	帰校式		
20:00	ふり返りの時間	19:45	入浴	15:30	解散		
21:30	消灯・就寝	20:15	ふり返りの時間				
		21:30	消灯・就寝				

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・飯山のアスパラガスを宿の方に送っていただき、家庭科の調理実習の材料にした。飯山市で作られたものであることを知り、「どうしてこんなに甘いのか。」「おいしさの秘密を調べたい。」と学習意欲を高めていた。
- ・飯山市の「自然」「生活」「郷土食」「歴史・文化」「気候・地形」などのテーマについて個人の課題を決め、本やインターネットを使って調べ学習を行った。調べた内容を新聞に分かりやすくまとめた。
- ・課題別学習に関連する内容についてインターネットを使って調べ学習を行った。課題別のグループで集まり、調べた内容とさらに学びたい事を発表する事で情報共有を行った。

2 事後の学習内容

- ・セカンドスクールで体験したことや学んだこと、成長したことなどを作文にまとめ、4年生に向けて紹介した。
- ・12月に宿の方を招いて「感謝の会」を開き、4年生に紹介した内容も含めて発表した。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 ブナ林散策

各宿のお父さん方をガイドとして、茶屋池周辺に広がるブナ林のハイキングをした。ハイキングの前に、ブナの特徴や水源林についてのお話を聞いた。ハイキングの途中、ブナに触れたり、ブナの実を拾ったり、ブナの木音を聞いたりしながら、豊富な水を蓄えるブナの特色や、自然環境の中で果たす役割について肌で触れながら学ぶことができた。森にいる生き物、生息しているきのこ、植物についても目で見たり触れたりしながら学習した。山道をハイキングすることで、自然と触れ合い、自然と生き物や人間との関わりを実感することができた。

2 飯山のすてきスケッチ

田を見渡せる小高い場所からスケッチを行った。黄金色の田や、緑の木々、様々な色を見せる山々や空など美しい景色を味わうひとときになった。



【スケッチの様子】

<社会体験活動>

1 農業体験(稲刈り・はぜかけ・脱穀)

作業前に農業の工夫や苦勞、働くことの意義などを話していただき、農業への関心や稲刈りへの意欲を高めることができた。その後、宿のお父さん方の指導で稲刈り・はぜかけ・脱穀を行った。稲刈りでは、鎌の使い方や体の動かし方を習い、一生懸命に取り組む姿が見られた。前日までの雨の影響で田がぬかるみ、泥だらけになって活動を行ったが、「お米を作るのにこんなに大変な作業を行っていたのか。」「この苦勞がおいしさの秘密か。」という児童の声も聞こえた。はぜかけでは、稲穂の束ね方から教えていただいた。脱穀では、時代ごとの脱穀の道具を使いながら、時代の移り変わりや、人々の苦勞を学ぶことができた。全ての作業を通して、落ちている稲穂を拾って大切にすることで、「一粒のお米も無駄にはいけない」という思いをもつことができた。



【稲刈りの様子】

2 勤労体験

宿ごとに感謝の気持ちを込めて勤労体験を行った。きゅうりやピーマン、ミニトマトの収穫や葉物野菜の間引きなど各宿で様々な体験を行った。どの児童もお父さんお母さんの話をよく聞き、一生懸命に作業に取り組む様子が見られた。おいしい野菜を作るための苦勞や宿のお父さんお母さんの仕事を体験することを通じて「毎日続けているお父さんお母さんはすごい。」「野菜を残さず食べるようにしよう。」など、働くことの大変さや働く人の想いを学ぶことができた。お父さんお母さんから「とても助かった。」というお言葉をいただいた。



【葉物野菜の間引きの様子】

<生活・文化体験活動>

1 地域についての学習(飯山について・雪国の暮らし)

学習の講師を宿の方に行っていたいただいた。これまでに使われてきた蓑(みの)、わらぐつ、観光業としても重要なスキーの歴史、地域で受け継がれてきた伝統芸能、雪が積もっても使える地上式消火栓、雪が落ちやすくするための急勾配の屋根など、飯山での人々の暮らし、生活の知恵や工夫を学ぶことができた。児童は、生活している方からお話を聞いて、道具の現物を見たことにより、理解を深めることができた。

2 飯山オリエンテーリング

昨年度に引き続き、全児童が飯山の伝統文化について学習するために、寺町巡りと仏壇工芸体験、正受庵と飯山シャンツェ見学を3つのグループでローテーションをして見学と体験を行った。全児童が飯山市中心部を徒歩で移動することにより、地域の特徴や地理的状况を知りつつ、地域の飯山の歴史、文化、産業、伝統工芸に触れることができた。

3 課題別学習

宿の方々が児童に伝えたいことをテーマにして活動内容を考えていただき、課題別学習を実施した。「スキー製造の歴史」、「里山、戸狩の四季」、「伝統を生かした泥団子」、「さつまいも作り」、「水と水生生物」、「里山と水」というテーマは、どれも魅力的で、児童の関心を高めることができた。児童は事前に考えておいた質問をしながら、大変意欲的に活動に取り組むことができた。

4 郷土料理作り

宿の方の指導で、「笹寿し」と小麦粉とあんこを使った「天井焼き」を作った。笹を自分たちで取りに行くことから始めた班もあった。笹寿しの起源や工夫された食材、食べ方などの話を聞き、戦国時代から伝えられてきた郷土料理に興味を示していた。



【郷土料理作りの様子】

5 わらぞうり作り

雨天の為、わらぞうり作りをトピアホールで行った。最初は悪戦苦闘していたが、宿の方の指導もあり全員一足分を編むことができた。2時間半、座ったまま作業を行った分、編み上げた際には、かなりの達成感を感じていた。また、宿の方が編みながら話をしてくださり、わらぞうりは昔の人々にとって大切な履物であるとともに、壊れやすいので替えを常に用意しておかなければならないものであることを知って驚いていた。



【わらぞうり作りの様子】

○児童の感想

- ・ 勤労体験を通して、お父さんやお母さんは毎日、こんなに大変なことをしているのだと知って驚いた。
- ・ 6泊7日の集団生活を通して、お父さん、お母さん、指導員の先生、友達などいろいろな人に支えられているのだという事に気が付き、感謝することへの大切さを感じた。
- ・ みんなと集団生活を送り、様々な体験活動をしたことで、人の気持ちを考えること、一人一人が責任をもつこと、みんなでお互いを支え合うことの大切さに気が付き、これからも大事にしていきたいと思った。
- ・ 稲刈り体験で初めて鎌を使って稲を刈った。手前に引く感覚が初めはつかめず難しかったが、慣れると速くできるようになった。その後コンバインで刈り取る場所をみるとあっという間に刈り取っていて機械のすごさを実感した。
- ・ 都会では味わうことができない自然にたくさん触れることができ、お父さんやお母さんの話を聞いてさらに自然を大切にしていかなければならないと思った。
- ・ 稲を育てることで、お米を取るだけでなく、わら細工に使うなど無駄なく使っていたことが

分かり、その考えは他の事でも大切にしていかなければいけないと思った。

- ・わらぞうり作りが難しかった。でも、少しずつ編んで、最後に自分だけのわらぞうりができた時はとても嬉しかった。苦労はしたが、少しずつ努力することが嬉しさにつながるのだと感じた。
- ・郷土料理の笹ずし作りでは、腐らないように笹を使っていたり、そのまま捨てられたりするなど昔の人の知恵はすごいと思った。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

社会科の「雪国の人々の暮らし」、「米づくりのさかんな地域」において、飯山市の話を通り交ぜ、関連付けながら指導することができた。また、セカンドスクールから帰ってきた後、様々な場面において協力する姿が多く見られるようになった。学芸会などの行事においても、よりよいものを作ろうと、互いの意見を聞き合い、協力しながら活動している。これは、セカンドスクールにおいて、「集団生活のルールを守り、信頼や友情、協力し合おうとする気持ちを育む。」というねらいに迫ることができたからと考えられる。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・「飯山についての学習」を1日目の開校式後、すぐに行った。現地の景色、空気を味わい、宿のお父さんお母さんに出会ってすぐに学んだことで、児童の関心が非常に高まった。また、その後の活動の際に、初日の学習と結び付けながら活動に取り組み、理解を深めている姿が見られた。
- ・飯山オリエンテーリングでは、仏壇工芸の体験活動の時間に合わせて飯山シャンテ見学、寺町巡りを3グループに分かれて行った。待機時間などが最小限に抑えられ、限られた時間の中で、学習・体験を行うことができた。しかし、グループによっては見学が急ぎ足になってしまったので、次年度は各場所の見学時間を10分間伸ばすこととした。
- ・カントリーエレベーター見学は、農繁期と重なっているため、施設内の見学はしなかった。そのため、宿のお父さんの説明を受けながらバスの車窓から見学をした。
- ・稲刈りの日程変更を行うなど天候に合わせてプログラムの組み換えを随時行った。それにより全プログラムを行うことができた。

関前南小学校

長野県飯山市

9月28日～10月4日(6泊7日)

参加人数 男子29名 女子24名
計53名

○セカンドスクールのねらい

- ・飯山の自然との触れ合いを通して、自然の素晴らしさを感じ、自然を大切にする気持ちをもつ。
- ・長期の宿泊生活を通して、自分のことは自分でできるようにする。
- ・飯山の豊かな自然や地域の特徴を生かし、飯山でしかできないことを、自ら意欲をもって学習する。
- ・友達との集団生活や飯山の人々との交流を通して、望ましい人間関係を育てる。

○日程表

9月28日(金)		9月29日(土)		9月30日(日)		10月1日(月)	
7:30	学校集合、出発式	6:30	起床・健康チェック	6:30	起床・健康チェック	6:30	起床・健康チェック
8:00	出発	7:00	清掃・布団整理	7:00	清掃・布団整理	7:00	清掃・布団整理
11:15	小布施 SA	7:15	朝食	7:15	朝食	7:15	朝食
12:10	戸狩着、昼食開校式	8:30	稲刈り・脱穀体験	8:00	槇集め、イナゴとり	9:00	茶屋池ハイキング
14:00	避難訓練	11:30	トピアホールで昼食	10:30	間伐についての講話	11:30	光が原で昼食
14:30	自己紹介(宿ごと)	13:00	イナゴとり	12:15	レストハウス戸狩で昼食	13:00	景色のスケッチ
15:30	箸作り	13:30	わら細工	13:15	洗濯体験	15:00	もちつき体験
16:30	周辺散策	16:00	学習のまとめ	15:00	郷土食作り	16:30	薪割り・ご飯炊き
17:00	健康観察・入浴	16:30	健康観察・入浴	16:30	学習のまとめ	17:30	夕食準備・夕食
18:00	夕食準備・夕食	17:30	薪割り・ご飯炊き	17:30	健康観察・入浴	18:30	健康観察・入浴
19:30	星空観察	18:00	夕食準備・夕食	18:00	夕食準備・夕食	19:00	学習のまとめ
20:00	学習のまとめ	19:00	お別れ会の準備	19:00	学習のまとめ	19:30	家族へのお手紙書き
20:30	健康チェック	20:45	健康チェック	20:45	健康チェック	20:45	健康チェック
21:30	消灯	21:30	消灯	21:30	消灯	21:30	消灯
10月2日(火)		10月3日(水)		10月4日(木)			
6:30	起床・健康チェック	6:30	起床・健康チェック	6:30	起床・健康チェック		
7:00	清掃・布団整理	7:00	清掃・布団整理	7:00	清掃・布団整理		
7:15	朝食	7:15	朝食	7:15	朝食		
9:00	収穫体験	10:00	火起こし体験・かまど作り・野外炊飯	8:00	荷物整理		
12:00	昼食	11:30	昼食	8:30	大掃除・奉仕活動		
13:00	課題別学習	14:00	宿ごとの活動	10:00	閉校式		
16:30	健康観察・入浴	16:00	お別れ会準備	10:30	戸狩発		
17:00	学習のまとめ	17:00	健康観察・入浴	12:00	横川 SA、昼食		
17:30	薪割り・ご飯炊き	17:00	夕食準備・夕食	14:00	高坂 SA、休憩		
18:00	夕食準備・夕食	17:30	お別れ会	15:30	学校着・帰校式		
19:00	お別れ会準備	19:00	学習のまとめ	16:00	解散		
20:00	学習のまとめ	20:00	健康チェック				
20:45	健康チェック	20:45	消灯				
21:30	消灯	21:30					

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・1学期の社会科「米づくりのさかんな地域」では、自分たちの食べている米がどのように食卓まで運ばれてくるのかを調べ、稲作に携わる人々の工夫や努力を学習した。
- ・総合的な学習の時間では、バケツ稲を育てた。種もみを選ぶ→芽だし→種まき→田植え→中干し→落水→稲刈りの順に、実際に自分たちで稲を育て、米を一粒育てるだけでも大変な苦労があることを実感できる学習となった。また、「飯山探検隊」では、セカンドスクールで行く飯山市の産業・自然や郷土食について、本やインターネットを使い、調べ学習を行った。自分が設定した課題について、セカンドスクールの課題別学習の際に、事前に調べたこと等について体験し追究する見通しがもてた。
- ・セカンドスクールの目的や活動内容を、パワーポイント、模造紙そして写真などを使い児童に紹介した。また、宿舎内で係に分かれ役割を分担し、係ごとにめあてを決めたり、仕事内容の確認をしたりした。さらに、宿舎に自己紹介カードを送り、宿の方が事前に児童を知ることができるようにした。

2 事後の学習内容

- ・セカンドスクールでの体験を作文にし、学習したことや今後にかかしていききたいことをまとめた。また、各学級の代表者の作文を文集「けやき」に掲載した。
- ・「セカンドスクール・思い出川柳」を作り、学年便りに掲載したり、宿の方に送ったりした。
- ・セカンドスクールで学んだことをいくつかのグループに分け、パワーポイント、模造紙そして写真などを使って発表した。
- ・家庭科「食べて元気！ご飯とみそ汁」では、飯山市で脱穀したお米を使ってご飯を炊き、いただいた。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 茶屋池ハイキング

ハイキングは、ブナ林と茶屋池の周辺を歩いた。宿の方を先頭に、宿ごとに時間差をつけて出発したことで、植物や生き物に触れたり、説明を詳しく聞いたりすることができた。特に、ブナの木は水を蓄える働きがあり、また、葉で受けた雨が木の幹を伝い、地面へと流れていく様子を理解することができた。ハイキングの終着点である標高1100mの光が原高原では、頸城平野を眼下に景色を楽しみながらお弁当を食べることができた。

飯山の雄大な自然への理解を深めることができた。



【木々の説明】

2 火起こし体験(かまど作り・野外炊飯)

6日目に自分たちの力でかまどを作り、火を起こしてカレーライス作りをした。火を起こしたことがない児童がほとんどのため、事前に各宿でかまどの作り方・薪割りの仕方・マッチの擦り方・薪の組み方・火の持続の仕方などを夕飯作りの際に学んだ。当日は、使用できるマッチの本数を3本と決め、児童に火起こしに取り組ませた。

全部の宿が自分たちの力で火を起こし、カレーライスを作ることができた。

ご飯が炊きあがったときには「やったー。」という声がどの班からも聞こえ、協力することの喜びを得る体験となった。



【火おこし体験】

<社会体験活動>

1 農業体験(稲刈り・野菜の収穫)

2日目に稲刈り体験を行った。稲の校長先生(宿のおじいさん)から、稲について様々な知識を教えていただいた。鎌を使った稲刈りは雨天のため30分で終わった。刈り取った稲を4~5本ひもでしっかりとまとめ、脱穀作業を行った。脱穀作業は近くのホールをお借りし、千歯扱きと足踏み脱穀機を使って脱穀をした。昔の人の知恵に驚きながら、何回も脱穀を行ううちに上手に使えるようになっていった。



【稲刈り】

また、稲の穂が全て脱穀できているかを確認し、機械で穂が取れないものは手で一粒一粒つまみ取ることでお米の大切さを実感することができた。最後にコンバインでの収穫の様子を見学した。収穫のスピードの速さに「おー!」という歓声が上がった。昔は家族総出で稲刈りをしてきたが、今はコンバインを一人で操作して一日で収穫できてしまうほど、労働生産性が向上したことが分かった。

5日目は、各宿の畑で収穫体験をした。野沢菜や落花生など自分たちが育てたことがないものから、さつまいもや枝豆などの身近な野菜まで、丁寧に収穫することができた。たくさん汗を流した後に、自分たちが収穫した野菜を食事に出していただき、食のありがたみを感じながら食べることができた。

2 森林伐採体験と山頂からのスケッチ

3日目の森林伐採体験は雨天のため中止となった。そのためレストハウス戸狩で、森の家の講師の方に森林伐採の目的や意義についての講話をしていただいた。そこでは、日本国内で自

然に生える木の種類について、日本の木材がどのような用途で使用されているかについて、木は材料としてのみならず観賞用、食用そして燃料などにも使われていることを学んだ。森の働きについては、子どもたちから4年生で学習した水源林についての質問などがでていた。他にも大木を伐採する際の装備や道具について、具体的な説明があった。実際に電動のこぎりを作動させると、その爆音に子どもたちの間から歓声があがっていた。森や木を利用することで、私達の生活が豊かになること、自然との共存で生きていくことの大切さを学ぶことができた。また、この日はのろし台でのスケッチが予定されていたが、雨天のためのろし台まで行くことができず、風景のスケッチは延期とした。

<生活・文化体験活動>

1 郷土食作り

長野県の郷土食であるうどん・おやき・笹ずしの3つのグループに分かれて郷土食を作った。うどん作りでは、気温や湿度が大きく関係してくるため同じ分量でも班ごとにこしの強さが変わっていた。どの班も上手にうどんをのぼしながら、包丁で切ることができた。おやきは、今年は小豆餡だったので作業はとても上手くすすんでいた。上杉謙信に野戦食として送ったと言われる笹ずしは、自分たちが食べているお寿司のイメージとは異なり、海のない県ならではの山の幸の具材をたくさんせたものであることを学んだ。それぞれの具材を食べる順番があり、具材の一つ一つに意味があることを学びながら作ることができた。作った郷土食はその日の夕飯となり、「いただきます」の挨拶の前に各宿でそれぞれのグループが作り方や郷土にまつわる話を紹介した。児童は自分たちが作った郷土食は格別においしかったと感想を話していた。

2 課題別学習

学校に戻ってから、学習した内容をまとめて発表をするため、それに向けて自ら課題を選んで学習する活動を取り入れた。自然観察グループ、文化グループ、伝統工芸グループの3つに分かれて、別々の場所で学習や体験活動に取り組んだ。

<自然観察グループ>

千曲川にある西大滝ダムを訪れた。ここでは、電力会社の方に話を聞き、ダムが果たしている役割や、自然環境に配慮した取り組みなどをお聞きした。その後、宿の方の案内でダムの上を散策した。その後、野外活動施設「森の家」を訪れ、リョウブの木を使ったバードコールを製作し、それを片手に野外散策を行った。

<生活文化グループ>

まず、高橋まゆみ人形館を訪れた。そこには、地元出身の人形作家高橋まゆみさんが、飯山の昔の生活を手作りの人形で再現した風景が展示されている。児童は、飯山の昔ながらの情景を感じ取ることができた。その後、飯山ふるさと館に移動をし、昔使われていた道具の使い方を学んだ。また豪雪地方ならではの生活の工夫していることを学習した。石臼引き体験も実施し、飯山の人々の生活の知恵を実感することができた。

<伝統工芸グループ>

飯山はかねてより仏壇作りが盛んである。飯山仏壇と呼ばれ、経済産業省の伝統工芸品として指定されている。飯山市内では、仏壇店が軒を並べた雁木通りという通りがあり、趣ある風景が見られる。児童は、その一店舗を訪れ説明を受けた。説明を受けた後は工房に行き、職人の技を見学した後、彫金体験を行った。

○児童の感想

- ・火おこし体験では、あきらめずに何度も練習を重ねてとうとう上手に火をつけることができた。やりたいという気持ちとチャレンジすることの大切さを学んだ。
- ・今までは虫が嫌いだった。しかし友達のまねをして虫を捕まえてみたところ、だんだん怖くなくなっていった。そのあとカエルも捕まえられるようになった。虫もカエルもかわいく見えてきた。
- ・自分のことは自分でしなければいけない6泊7日だった。日頃から世話になっている両親の大切さを考えることができた。感謝の気持ちを手紙で伝えられて良かった。
- ・普段食べることのできない郷土料理を作り食べることができて良かった。友達と協力して笹を拭いたり、ご飯を盛って飾りを付けたりしたことはとても良い体験だった。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

学校や家庭での基本的な生活や学習のルールやマナーを、宿での生活や公共施設の見学を通して生かすことができた。また、自分で健康管理をし、7日間、大きな病気やけがをすることなく過ごすことができた。さらに、友達との集団生活や飯山の人々との交流を通して、望ましい人間関係を築くことができた。

班ごとの活動を多く設定していたため、班長を中心に時間を考えながら行動することができた。事前に渡したしおりを読んで、次の行動を考え必要なものを準備し、自分たちで考えながら行動することができるようになった。普段の学校生活においてもそのような態度が見られるようになった。

普段何げなく食べている食事に対して、感謝の気持ちをもつようになった。給食に対しても残さずに食べようとする態度が見られるようになった。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・お別れ会では、各宿共通のプログラムとして、北信州出身の作詞家・高野辰之にちなみ「ふるさと」の合唱を披露した。宿の方への感謝の気持ちを歌の調べにのせて伝えることができた。
- ・森林伐採体験、課題別学習、農作業体験においては、学習の側面を強く意識付けるために事前学習を計画的に実施する必要がある。
- ・まとめの発表では、パワーポイント、模造紙そして写真などを使って発表することができた。

桜野小学校

長野県飯山市

9月23日～9月29日(6泊7日)

参加人数 男子 71名 女子 77名
計148名

○セカンドスクールのねらい

- ・自然とのふれ合いを通して、自然を大切にしようとする態度を育てる。
- ・プレセカンドスクールでの経験を生かしつつ、生活上の自立に必要な知識・技能や生活習慣を身に付けるとともに、情操を涵養し、個性の伸長を図る。
- ・学習の場を移し、体験に裏付けられた課題や困難を解決する力の向上を図る。
- ・児童相互の協力や、児童と現地の方々、指導者、教師との信頼関係と人間関係を深めることを通して感謝の念を育てる。

○日程表

9月23日(日)		9月24日(月)		9月25日(火)		9月26日(水)	
7:40	学校集合 出発式	6:00	起床 朝食	6:00	起床 朝食	6:00	起床 朝食
8:00	バス乗車・出発	9:00	米作りの話	9:00	宿ごと体験	9:00	飯山市ふるさと館
12:30	戸狩到着、開校式	10:00	稲刈り		(笹ずし作り)		伝統産業会館見学
13:30	昼食	12:30	昼食	12:00	昼食		和紙すき体験
	部屋割り	13:30	脱穀	14:00	宿ごと自然体験	12:30	昼食
	里山散策	18:00	夕食	15:30	雪国のくらし学習	14:30	わら細工(亀)
	箸作り	21:30	消灯	16:30	手紙書き	18:00	夕食
18:00	夕食			17:30	夕食	21:30	消灯
21:30	消灯			19:30	星空体験		
				21:30	消灯		
9月27日(木)		9月28日(金)		9月29日(土)			
6:00	起床 朝食	6:00	起床 朝食	6:00	起床 朝食		
9:00	焼き板工作	9:00	茶屋池ハイキング	8:00	大掃除、荷物整理		
12:30	昼食	12:30	昼食	9:30	閉校式		
14:00	宿ごと食体験 (餅つき・ジャムづくりなど)	13:00	宿ごと勤労体験	9:50	戸狩出発		
18:00	夕食	18:00	夕食	10:00	飯山シャヅェ見学		
21:30	消灯	19:00	感謝の会	12:00	昼食(横川SA)		
		21:30	消灯	15:00	学校着、帰校式		
				15:30	解散		

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・1学期の社会科の授業で行った「寒い土地の暮らし」の学習において、長野県飯山市の地理や雪国の暮らしにふれ、現地に行った折の学習への意識付けを図った。また「米づくりのさかんな地域」の学習では、稲作の仕事内容やカントリーエレベーターの役割について学習し、日本の食料生産の抱える問題点やこれからの農業について理解を深めた。
- ・1学期の総合的な学習の時間「お米博士になろう」の単元で、社会科と関連させ、稲作についての学習を行った。バケツを使った田植えを行い、稲穂が実るまでの様子を学校や家で継続して観察した。
- ・2学期の総合的な学習の時間「セカンドスクールに行こう」の単元では、長野県飯山市についての事前学習を行った。「自然」「雪国の生活」「郷土食」「歴史・文化」「気候・地形」「米」「伝統工芸」などのテーマについて個人の学習課題を決め、調べ学習を行った。

2 事後の学習内容

- ・班で設定した課題についてセカンドスクール中の記録や見学の時にいただいた資料などを活用して、新聞作りに取り組んだ。また、セカンドスクールでの1週間で体験した活動について4年生に紹介した。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 ブナの森ハイキング

ハイキングでは、ブナに触れたり、木の実を拾ったりしながら、ブナの特色や、自然環境に果たす役割などについて肌で触れて学ぶことができた。「なぜ飯山の米がおいしいのか」ということについて、ブナの森が蓄えた豊富な水が大きな役割を果たしているということを知ることができた。森に棲む生物、生息しているきのこ、植物などについても目の前で見たり触れたりしながら学習することができた。宿の方がガイドとなって説明をしてくださり、様々な疑問がその場で解決されていった。

2 星空体験

東京ではなかなか体験できない、街灯のない真っ暗な道を歩く体験を行った。武蔵野市の夜の暗さとは異なる暗闇を体験することで、暗闇の怖さを知るとともに、逆に星空や月の美しさに深く感動することができた。また、暗さにより、聴覚で自然の音を感じ取ったり、大自然を肌で体感したりすることで、自然への畏敬の念を育む貴重な体験となった。

<社会体験活動>

1 農業体験(稲刈り・脱穀)

作業前に田植えから収穫までの農作業、飯山市の地形的特徴、水が重要であることについて宿の方に話していただき、米や稲刈りへの関心や意欲を高めることができた。宿の方々の指導で、稲刈り・脱穀を行った。稲刈りでは、鎌の使い方や刈った稲のまとめ方を習った。児童は習ったことを生かし、勢いよく手前に引くように刈っていった。その後、児童はコンバインで稲を刈り取る様子を見学した。手刈りとコンバインの稲刈りのスピードの違いを見て、農作業の機械化のありがたみを実感した。

脱穀では、千歯扱・足踏脱穀機・ハーベスターの3種類の農具を体験した。農具が発達するにつれ、効率や精度が上がっていくことを実感していた。足踏脱穀機は足を踏むタイミングが上手くいかないと機械の回転が止まったり、逆回転になったりしてしまう。足で踏みながら手で稲を丁度良い位置に合わせるという複雑さを味わい、また、楽しんでいた。ハーベスターは機械に稲を通すだけで脱穀ができる。ここでもまた、機械のありがたみを実感することができた。

この農業体験は、今回のセカンドスクールの中心をなすものである。宿の方との語らいの時間では、脱穀後の精米や保管、出荷するまでの流れについて話していただいた。一日を通して稲刈り・脱穀・もみすり・精米といった出荷までの一連の流れを捉えることができた。

また、4日目に行ったわら細工では、もみを落としたわらを再利用し生活用品に生まれ変わらせるという、先人の知恵を体感することができた。主食である米を作るまでの手間の多さと、それによって生まれる副産物について学ぶことができた。



【稲刈りの様子】



【脱穀の様子】



【わら亀作りの様子】

<生活・文化体験活動>

1 笹ずし作り体験

宿の方の指導で、「笹ずし」作りを行った。笹ずしの起源や工夫された食材、食べ方などについての話を聞き、戦国時代から伝えられてきた郷土料理に興味をもったようであった。また、木々を分け入って笹を取りに行くところから始めた宿もあった。達成感もあっておいしそうに食べている様子がみられた。

2 宿ごとと食体験

宿ごとの食体験では、りんごジャム作り、餅つき、おやき作り、ピザ作りなどが行われた。りんごジャム作りではりんごを細かく切り鍋で煮詰めてパンなどにつけて食べた。餅つきでは米をふかしたあと宿のメンバーで餅をついて、しょうゆやきな粉をまぶして食べた。おやき作りやピザ作りでは、飯山で獲れた新鮮な野菜を具材として使った。どの宿も武蔵野市では体験できない活動ばかりで、意欲をもってできただけでなく、自分で作り上げたという満足感を味わうことができた。



【食体験の様子】

3 和紙すき体験

国が定める伝統的工芸品が長野県には9つあり、飯山市には「内山紙」と「飯山仏壇」の2つがある。内山紙は冬の寒さを生かした和紙である。飯山和紙すき体験工房では、和紙すき体験を行った。

和紙すき体験の前に、和紙の作り方や歴史についての説明を受けた。原料となるコウゾが紙に変化していくことに驚く児童もいた。和紙すき体験では、液の中で繊維が均等に入るように上下左右に木杵を揺らしながらすき、葉書サイズの和紙をすいた。木杵を上手に持たないと繊維の入った液がこぼれてしまう。児童は工房の方の指示に従って慎重に作業をしていた。自分の好きな色紙の飾りをのせ、アレンジした。すいたものは工房の方に処理していただき、最終日にお土産として自分オリジナルの和紙を持ち帰ることができた。

○児童の感想

- ・稲刈りでは、初めての鎌で、稲を刈るのが固くて難しかったけど、いくつか刈るうちに慣れてきて素早く刈れるようになりました。お父さんにコツを教えてもらいました。
- ・ブナ森ハイキングでは、ブナの働きと水の関係について教えてもらいました。飯山の米作りはブナが深く関わっていることを知りました。
- ・語らいの時間では、米づくりの大変さや面白さを教えてもらいました。一粒一粒を大切に育てていることが分かりました。
- ・笹ずし作りは笹を取りに行って疲れたけど楽しかったし、自分たちで作った笹ずしはすごく美味しかったです。笹ずしには食べる方向があることを知りました。上杉謙信に関わりがあって歴史のある食べ物で驚きました。
- ・セカンドスクールに行って、協力することの大切さを学び、自分たちで声をかけ合って行動することができるようになりました。
- ・セカンドスクールで、たくさんの人にお世話になり、普段自分がお世話になっている人がたくさんいるんだということに気付くことができました。
- ・セカンドスクールでの6泊7日は、最高の思い出になりました。友達の知らなかった部分を知ったり知ってもらったりして、仲が深まりました。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

児童は飯山での自分で米や野菜を収穫する体験を通して、生産者の苦労や思いを知ったことから、食に関する意識の高まりが感じられる。セカンドスクール後に社会科で学習した「これからの食料生産とわたしたち」では、農業のこれからについて、宿のお父さんやお母さんから聞いた話と関連付けて考えを深めていた。学習課題を自分の身に引き寄せて考えようとする姿が見られ、実感を伴う学習活動の重要性を感じた。

身の回りの整理整頓を始め、他者を頼りがちだった児童も、家族と離れて生活し、宿の方々にお世話になったり、友達と協力したりすることで、自分のことは自分でできる限りやっぴこうとする姿勢が見えた。また、様々な人の力を借りて生活できていることに気づき、感謝の気持ちを持ち、相手に伝えようとする態度が見られるようになった。

また、セカンドスクールを通して人と関わり合うことの大切さを学ぶことで、協力しようしたり、助けようとしたりする姿が多く見られるようになった。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・昨年度導入した飯山市ふるさと歴史館、伝統産業会館の見学に合わせて、敷地内の和紙すき体験工房での和紙すき体験に変更した。飯山市の伝統工芸や自然、歴史について調べ学習を進め、和紙すき体験を行った。昨年度は少し離れた阿部製紙での体験であったため移動に課題があったが、敷地内の建物を移動するため、安全管理等を行いやすく、3館で和紙すき体験につながる情報があるため、児童はより充実した調べ学習と体験活動を行うことができた。しかし、今後の本校の児童増傾向を考えると、同施設の公民館や図書館などを利用して資料をまとめる時間を設定するなどの活動を考えなければならない。
- ・学校、指導員、宿の三者がどのように連絡を取り合うかについて事前に確認をした。宿で何かが起こった時、学校側はそのことを指導員から報告を受けているが宿が把握していなかった、もしくはその逆があった、ということが昨年までの反省であがった。日程や活動の変更などは本部宿から連絡をする等、指導員、宿、教員間での情報共有の流れを設定確認することで、スムーズに連携をとることができた。
- ・笹ずし作りの笹取りなど、宿ごとの判断で行う活動について、どこまで宿にお願いするのかについて確認をした。自生している植物は食べさせない、夜間の屋外での活動は行わない、水を使った活動はしない、ということを確認した。また、活動に変更がある場合は、事前に本部へ連絡することを確認した。

中学校セカンドスクール



第一中学校

長野県北安曇郡白馬村

9月27日～10月1日(4泊5日)

参加人数 男子 40名 女子 50名
計 90名

○セカンドスクールのねらい

- ・学年・学級の親睦を図るとともに、集団の一員としての行動を学び、自主自立の精神を身に付ける。
- ・教科の枠にとらわれず、自然体験的な活動や自然の触れ合いを通して、自ら考え、主体的に学ぶ姿勢を身に付ける。
- ・長野や白馬の自然や文化の特性を生かした学習の場を多様に設け、体験に裏付けられた生きた学力を身に付ける。
- ・1998年に冬季オリンピック・パラリンピック大会を開催した長野県白馬地区から、有形無形のオリンピックレガシーがどのように継承されているかを知り、2020年東京オリンピック大会開催を控えた生徒が自分たちの暮らしや生き方にどう役立てていけるかを考え、これからの生活に生かす姿勢を身に付ける。
- ・問題解決的な学習や体験学習活動を通じて、自ら考え、主体的に学ぶ意欲を高めるとともにセカンドスクールの体験を通して学んだ問題解決的な学習や主体的な学びを、ファーストスクールの学習に生かす。

○日程表

9月27日(木)		9月28日(金)		9月29日(土)	
6:40	一中集合、出発式	6:00	起床・健康チェック	6:00	起床・健康チェック
7:05	バス出発	6:30	朝食(ハーフバイキング)	6:30	朝食、後片付け、おにぎり作り
	談合坂SA	8:05	退館式、ホテル出発	11:00	「ユースビルとおみ」前に集合
	諏訪SA	8:40	ミニトマト栽培ハウス見学	11:20	八方ゴンドラリフト八方駅到着
11:20	池田町クラフトパーク(昼食)	9:45	小谷村到着、開校式	12:00	兔平レストハウスにて昼食
12:10	池田町出発	10:20	林業体験(下草刈り)	12:55	オリンピック・パラリンピック学習
13:05	扇沢駅到着	12:10	昼食(バーベキュー)	14:20	八方ゴンドラリフト八方駅出発
13:46	黒部ダム到着	13:00	林業体験(薪割り、チェーンソー)	14:35	ウィング21到着、大ホールで
16:10	扇沢駅出発	14:20	閉校式、小谷村出発		「オリンピックレガシーについて」の講話
17:10	白馬ハイランドホテル到着、入館式	15:10	白馬ジャンプ競技場到着、	15:55	ウィング21出発、各民宿へ
18:50	夕食(ハーフバイキング)	15:20	パラ学習、施設見学、入村式	17:00	郷土料理体験
20:50	室長会議、部屋会議、健康チェック	18:00	夕食(カレーライス)、宿毎で交流	18:30	夕食、後片付け
21:30	就寝準備	21:00	班会議、日誌記入、健康チェック	21:00	班会議、日誌記入、健康チェック
22:00	消灯・就寝	21:30	就寝準備	21:30	就寝準備
		22:00	就寝	22:00	就寝

9月30日(日)		10月1日(月)	
6:30	起床・健康チェック	6:00	起床・健康チェック
6:45	朝食準備、朝食、後片付け	7:00	朝食
8:30	宿舎ごとに、もの作り体験	8:30	民宿出発
12:00	昼食、後片付け、休憩	8:45	白馬五竜スキー場エスカレーター到着
13:30	米粉のお菓子作り体験	9:50	五竜ケーブルカー乗車アルプス平駅へ
14:45	北原館体育館集合	10:20	アルプス大展望台にて講話
14:55	オリンピックによるオリパラ学習	10:40	白馬五竜高山植物園散策
17:00	夕食準備、夕食、後片付け	11:25	昼食
18:00	レク係は先に移動して準備	12:00	退村式(白馬五竜スキー場)
18:30	各民宿出発、北原館体育館へ	12:30	白馬村出発
18:45	民宿の方々とレクリエーション	13:30	安曇野IC
20:00	各民宿に戻って入浴	14:00	諏訪SA
21:00	班会議、日誌記入、健康チェック	15:30	談合坂SA
21:30	就寝準備	17:00	学校到着、解散式、解散
22:00	就寝		

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・J A大北の担当者に本校で話をしていただき、セカンドスクールで体験することへの理解を深めた。
- ・白馬村の歴史や自然に関するだけでなく、学習範囲を黒部ダムや長野県全域まで広げて、その中から各自調べてみたいテーマを決めて、B4の大きさの新聞を作成した。作成した新聞は教室前廊下に掲示して、お互いに調べたことを共有できるようにした。
- ・民宿先に送る自己紹介カードを作成した。
- ・1998年の長野五輪でスキージャンプ団体戦で金メダルを獲得するまでのテストジャンパーの活躍などについて、長野五輪の映像を見ながら学習した。

2 事後の学習内容

- ・セカンドスクール全体を振り返って印象に残ったことや感じたことを、原稿用紙2枚程度の作文にまとめた。
- ・お世話になった民宿の方々へのお礼状を作成し、送った。
- ・学校全体で取り組むポスターセッションにおいて、自分たちが旅行者になり、上級生をお客に見立てて、体験や見学してきたことを踏まえて、二泊三日の旅行プランを紹介する形式で行った。上級生が参加してみたいプランに投票する対戦型なので、各班ともいかに白馬村などの魅力をアピールし、自分たちのプランを選んでもらえるか、協力して取り組んでいた。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 黒部ダム見学

建設当時の日本の電力事情を知り、黒部ダム建設がいかに重要な一大プロジェクトであったかを学習した。現在の原子力発電所等のエネルギーに関する様々な問題を改めて考え直すよい機会になった。立山連峰が一望できるダム展望台からの眺めに、生徒は目を見張っていた。

<社会体験活動>

1 林業体験

林業に従事している方から、環境保全の観点から林業がいかに大切であるかの話を知ったのち、枝打ちや下草刈りを行った。森の香りを感じながら、自然の大切さを学ぶことができた。昼食後、指導員の方々の指導のもと、斧による薪割りやチェーンソーでの丸太切りを体験した。



【チェーンソー体験】

2 農業体験

ミニトマトの栽培をしている方に、栽培の大変さなどの話をいただき、採りたてのミニトマトを試食させていただいた。宿舎ごとの体験では、サツマイモ掘り、秋野菜などの収穫を行い、収穫の喜びを味わった。



【ミニトマト収穫】

<生活・文化体験活動>

1 オリンピック・パラリンピック学習

白馬ジャンプ競技場では、選手と同じ景色を体感できる観覧ステージで、足が震えて泣きそうな生徒もいた。

1998年の長野オリンピック・パラリンピックのときに報道センターとして建設されたウィング21で、施設管理をされている佐藤岳志さんの講演「オリンピックレガシーって、何？」があり、オリンピック・パラリンピックの後のことも考えさせられる話で、生徒は真剣に聴いていた。また、クロスカントリースキーヤーでオリンピックの成瀬野生さんの話も興味深く聴いていた。



【佐藤岳志さんの講演】

2 もの作り体験

わら細工、フォトスタンド、飾りパン、マイ箸作りなど宿舎ごとにももの作り体験を行った。宿舎の方だけでなく仲間の協力も得ながら、楽しそうに取り組んでいた。



【わら細工による一輪挿し】

3 郷土料理体験

蕎麦打ちやおやき、おはぎ作りなどを宿ごとに行った。また、米粉を使ったお菓子作りも行った。それぞれ地域の素材を生かしたものを作ることで、その地域特有の食材を理解することができた。楽しみながら共同作業を行うことで、班のまとまりや協調性が生まれた。

○生徒の感想

- ・セカンドスクールは、学校生活より細かく大切なことが時間で区切られているという特徴がありました。僕は、セカンドスクールで、先の予定や周りの人たちとの関わりを考えて行動することを学びました。
- ・セカンドスクールの行動を振り返ってみると、「時間を守る」という目標は、自信をもって達成できたと言えます。なぜなら、毎日、起床や消灯時刻を班の人たちに伝え、全体の行動に遅れないようにすることができたからです。
- ・協力することの大切さ、挨拶すること、感謝を言葉にすることの大切さを改めて学びました。班などで協力する必要がある機会が多くあり、誰か一人でも協力しないと、時間に間に合わなくなってしまうこともありました。でもみんな協力すれば、早く先のことに進めることができるので、そういう努力をしました。
- ・長野オリンピックの経験を生かして東京オリンピックをやらないと、そのうち大きな大会を日本ではできなくなってしまうだろう。維持するための費用をよく考え、本当に必要な施設だけをつくり、元から使える施設は使うべきだと思いました。このことが、現地にとっても世界にとっても本当に良いオリンピック・パラリンピックだと思いました。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

総合的な学習の時間で、事前学習、事後学習に取り組んだ。事後学習のポスターセッションへの取り組みは、セカンドスクールで経験してきたことをもとに班で協力し合い、より深い調べ学習を自主的に行っていた。自律という点では、リーダーとして責任を果たした実行委員や班長が活躍した一方で、うまく自分をコントロールできずに友達とトラブルになったり、宿舎の方々に迷惑を掛けたりすることがいくつかあったが、今後の学校生活に期待したい。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

天候の問題で八方尾根トレッキングや稲刈りはできなかったが、オリンピックレガシーの話をお聴くことができ、2年後の東京オリンピック・パラリンピックに対してより興味・関心を持たせることができ大変よかった。また、重度のアレルギー対応に対して、宿泊先と学校だけでなく、保護者と宿泊先でも直接綿密な打ち合わせができたことがよかった。高い所での体験や見学が苦手な生徒もいて、今後人数が増えると、あらかじめ対応をしっかりとっておく必要があると感じた。

第二中学校

新潟県十日町市

5月22日～5月26日(4泊5日)

参加人数 男子77名 女子66名
計143名

○セカンドスクールのねらい

- ・田舎体験を通して、素朴な伝統や文化を尊重し、大切にすることを育む。
- ・環境学習や自然体験から自然愛護の精神と意欲的に学習する態度を養う。
- ・農作業や家族の一員として役割を果たすことを通じ、勤労の尊さや意義を理解する。
- ・現地の人々とともに生活し、団欒することで家族愛や目上の方への敬愛の念を深め、感謝の気持ちを培う。
- ・係活動、集団活動に積極的に取り組み、武蔵野二中という集団の一員としての自覚を高め、よりよい学校づくりを目指す。

○日程表

5月22日(火)		5月23日(水)		5月24日(木)	
7:00	学校集合、出発式	6:30	起床	6:30	起床
7:30	学校出発	7:30	朝食	7:30	朝食
	関越自動車道	9:00	農家体験Ⅰ	8:45	農家の方とのお別れ会
12:00	現地(十日町市浦田)着		農家ごと農業、自然体験	9:00	伝統料理体験(コース別)
	昼食(浦田体育館)	14:00	農家体験Ⅱ	14:00	環境学習Ⅰ
13:00	開校式		午前に引き続き活動		森の学校キョロロ見学
13:30	田植え体験	16:00	活動終了		キョロロの森の動植物観察
16:30	民泊農家対面式		民泊体験2日目	16:30	宿舎(ちとせ)着
	民泊体験1日目	22:30	就寝		係活動、班活動
22:30	就寝			22:30	就寝
5月25日(金)		5月26日(土)			
6:30	起床	6:30	起床		
7:20	朝食	7:20	朝食		
9:00	環境学習Ⅱ	8:45	宿舎(ちとせ)発		
	大蔵寺高原自然観察コース	9:10	環境学習Ⅳ		
12:30	昼食		美人林見学		
13:00	環境学習Ⅲ	10:15	閉校式、松之山発		
	自然観察(風景スケッチ)		関越自動車道		
15:45	宿舎(ちとせ)着	15:30	バス内学活、学校到着		
	荷物整理、入浴	16:00	解散		
18:45	夕食、係活動、班活動				
22:00	就寝				

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・新潟県の気候、風土、動植物など、セカンドスクールに関するテーマを班で分担し、書籍やインターネットを用いて調べた。(総合的な学習の時間)
- ・調べ学習をもとに、現地の方へのインタビューを民泊班で考えた。(総合的な学習の時間)
- ・民泊先の受け入れ農家に送る自己紹介を兼ねた挨拶状を作成し、交流を図った。
- ・中学生としての自覚や自律をめざして、団体行動や係活動、民泊体験の場での目標やルール作りを行った。(特別活動)

2 事後の学習内容

- ・民泊先で学んだことを新聞形式にまとめた。その際、発表テーマが重複しないように事前に調整を行い、幅広い情報が学べるように工夫した。また、まとめたものを教科作品展で発表した。(総合的な学習の時間)
- ・民泊農家へのお礼状を作成し、感謝について考えた。
- ・現地でスケッチを完成させ、作品をお世話になった方々に送り、品評していただき、交流を深めた。(美術科との連携)

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 キョロロの森観察

十日町市立里山科学館越後松之山「森の学校」キョロロでは、生物多様性に関連した展示や体験プログラムで里山を体験し、学ぶことができた。施設周辺には森林やため池群が広がる約80ヘクタールのキョロロの森が広がり、その雄大さを感じることができた。キョロロの森に到着後、クラスごとに分かれて体験活動を行った。体験プログラムは「里山散策、水辺の生き物観察、館内展示見学」の3つであった。里山散策では、自生する植物の特徴について解説を聞きながら観察を行った。水辺の生き物観察では、1人1つの網を持ち、ため池で生き物の採集・観察を行った。普段、自然の中で遊ぶことの少ない生徒達は、夢中になって池をかき混ぜ、十日町市に生息する魚・カエル・水生昆虫などの水辺の生き物を捕まえ、観察した。館内展示見学では、里山に住む生物だけではなく、雪国の稲作や、雪国での生活における伝統的な生活用具や現在で使用されている用具などを見学した。



【館内展示見学】



【水生生物の観察】



【自然観察ハイキング】

2 自然観察ハイキング(大巖寺高原)

前日のキョロロの森での学習を土台に、自然林でのハイキングを行った。ヤマウルシやマムシ、ハチなどの危険な動植物の対処法を学び、ハイキングを行いながら自然観察をした。クラスを2つに分けての移動だったので、現地ガイドの方の説明も聞き取りやすかった。暑さの中でのハイキングとなったが、各自が体調管理に努め、山頂までたどりつくことができた。山頂から見渡す自然林はとても美しく感動的であった。

3 自然観察スケッチ(大巖寺高原)

ハイキングの後、事前に美術の時間に学んだ知識を生かして、風景をスケッチした。当日は天候に恵まれ、雄大な自然の中から自分が絵として残したい場所を選び、色鉛筆でじっくりと描きあげることができた。その後、美術の時間に絵を仕上げ、選抜された作品数点を現地へ送り、現地の方々に品評していただいた。



【風景スケッチの様子】

4 人工林観察(美人林)

松之山の観光名所である美人林の見学を行った。インストラクターの方の詳しい解説を聞くことで雪里の厳しい自然の中で育つブナの木の特性や、ブナ林に生息する生き物について学ぶことができた。天然の林と人口の林の違いを知ることによって、環境保全と人間との関わりを考える機会となった。

<社会体験活動>

1 農家体験(山菜の収穫・田植えなど)

棚田の里での田植え体験では、現地の方を指導員としてお迎えし、学年全員で苗を手で植える体験をした。泥だらけになりながら、一生懸命作業を行うことで、普段食べている米のありがたみを知ることができた。また、民泊先の農家では農業体験を行った。山菜の収穫、苗箱洗い、キノコの菌打ちなど様々な体験を通して、自然の中で豊かに楽しく暮らす知恵を学び、自然に対する畏敬の念を体感した。



【学年全員での田植え】

<生活・文化体験活動>

1 伝統料理体験

伝統料理体験では、田舎料理・そば打ち・あんぼ・ちまき・笹ずしの5つのグループに分かれ、昼食を手作りした。現地の方を講師としてお招きし、はじめての作業に戸惑いながらも同じグループの人と協力し、現地の風土に育まれた美味しい伝統料理を作り、食べるすることができた。

2 民泊農家のお手伝い

1日目の夕方から2日目まで各農家で農業体験を行った。農家ごとに体験内容は異なっていたが、各家庭での農業体験や生活体験は農家の人々の苦労や工夫を知るなどの有意義なものとなった。また、事前に挨拶状を送っていたこともあり、積極的に交流することができ充実した時間となった。

○生徒の感想

- ・民泊で「労働の楽しさ」と「笑顔」を学んだ。もちろん他にも学んだこともたくさんあるが、この二つは私の心に大きく響いた。これからの長い人生、たくさんつまずきや挫折があると思う。そんな時は、このセカンドスクールで学んだ事を、あのあたたかい笑顔を思い出し、一歩ずつ進んで行きたい。
- ・自分で考えて行動することの大切さを学んだ。農家泊の時に、先生がいないから好き勝手に行動していいんだと小学生の自分なら考えていたと思うが、中学生になり自分達で今何をすればいいのかを考えて行動するという意識できた。
- ・今回のセカンドスクールでの挑戦のほとんどが初めてで分からない事ばかりだった。しかし、新潟県の方々が上手く出来なくても優しくコツを教えてくれたり、手伝ってくれたりサポートをしてくれたおかげでほとんど成功し、いい思い出となった。新潟県の方々がこんなに優しいのは自然豊かな新潟県の緑を守り続けてきたからだと思う。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

中学へ入学し間もない時期に5日間寝食をともにすることで、生徒同士の新たな人間関係が構築され、深まるとともに、自分の役割をきちんと果たすことが集団生活の中で大切だということ学ぶことができた。また、現地の人々と触れ合い、親切にしてもらった経験からは、思いやりの気持ちやおもてなしの心を学ぶことができた。そして、雄大な自然と触れ合う体験を通して、自然に対する畏敬の念や、環境保護への関心を高めることができた。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

今年度も第二中学校は新潟県十日町市の松之山でセカンドスクールを行うことができた。入学後間もない5月の実施という準備時間の確保が難しい中での実施であったが、活動プログラムもこれまでの経験の積み重ねがあり、充実した活動が行えた。しかし、現地の方の高齢化による民泊農家の受け入れ数の減少やそれに伴う受け入れ地域の範囲の拡大、現地マイクロバスの台数減といった課題が年々色濃くなっている。また、アレルギー等の配慮が必要な生徒への対応は今後より複雑化していくと考えられ、対応の工夫が必要である。

セカンドスクール

第三中学校

長野県北安曇郡白馬村

10月1日～10月5日(4泊5日)

参加人数 男子43名 女子43名
計86名

○セカンドスクールのねらい

- ・ 集団の一員としての自覚を持ち、責任ある行動や互いに協力し合うことの大切さを学ぶ。
- ・ 自然の中での諸活動や現地の方々との交流を通し、自ら考え、主体的に学ぶ力をつける。
- ・ 自然や地域の特性を生かした多様な学習の体験を通して、課題を発見・解決する力を身につける。

○日程表

10月1日(月)		10月2日(火)		10月3日(水)	
8:25	学校にて出欠確認	6:00	起床、洗顔、朝食準備	6:00	起床、洗顔、朝食準備
8:40	合唱練習・セカンドスクール準備	6:45	朝食	6:20	白馬ジャンプ競技場見学
11:00	学校にて昼食・出発式	9:00	黒部ダムエコエネルギー学習	7:20	朝食、退館式
11:45	学校出発		昼食含	9:00	ウイング21にてオリ・パラ学習、入村式
16:50	ホテル五龍館着	16:30	ホテル五龍館着	10:45	新田公民館着、各民宿へ
17:10	入浴、班長・室長会議	16:50	入浴	11:40	昼食
18:40	入館式、夕食	18:30	夕食	13:00	稲刈り体験
19:30	黒部ダム学習会	20:30	班長・室長会議	16:30	夕食、オリ・パラ学習、入浴
20:30	班会議、部屋会議	21:00	班会議	20:30	班長会議、宿会議
22:00	消灯・就寝	22:00	消灯・就寝	22:00	消灯・就寝
10月4日(木)		10月5日(金)			
6:30	起床、洗顔、朝食準備	7:00	起床、洗顔、朝食準備		
7:00	朝食	7:30	朝食		
9:00	農業体験(各民宿プログラム)	9:00	各宿にて感謝の気持ちを伝える会		
	昼食(郷土料理体験)	9:30	各宿出発		
	ものづくり体験	10:00	退村式		
17:00	夕食	10:40	白馬五竜スキー場着		
18:40	ウイング21着	11:30	スキー場のグリーンシーズン活用について、米粉学習、昼食		
19:30	合唱発表				
20:40	班長会議、宿会議	12:20	白馬五竜スキー場発		
21:00	入浴	17:15	学校着		
22:00	消灯・就寝	17:30	閉校式・解散		

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・長野県、白馬村、黒部ダム、長野オリンピック・パラリンピックに関連するテーマを選択し、書籍やインターネット等を用いて調べたものをレポート形式にまとめ廊下に掲示した。また、掲示した他の生徒のレポートを見て、現地で質問したい内容をしおりに記入した。
- ・セカンドスクールを企画・立案してくださっているJA大北の方を学校へ招き、白馬村の自然や観光、農作業、長野オリンピック・パラリンピックについて学習した。
- ・黒部ダム建設当時の様子をまとめた映像を用いて、黒部ダムがどのような役割をなしているのか、建設時の苦労や困難等について学習した。
- ・社会科の課題でオリンピック・パラリンピックについて提示し、各国・地域の特色、文化、地形等について調べ、レポートにまとめた。

2 事後の学習内容

- ・実施期間中、就寝前に1日のまとめとして、体験したことや学んだことを記録し、また、1日の感想をしおりの日記欄に記載した。実施後にはセカンドスクール全体を振り返って印象に残ったことや感じたことを原稿用紙2枚程度の作文にまとめた。
- ・クラスの班を農村体験、オリンピック・パラリンピック、黒部ダムの3つのテーマに分け、現地で集めたパンフレットや写真、実施期間中の記録を活用し、展示物を作成した。作成したものはくぬぎ祭（文化祭）で展示・発表した。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 黒部ダムエコエネルギー学習

黒部ダム展望台から見える長野県・富山県の山々、万年雪、雪解け水からなる川の流れ、その中での水力発電、破砕帯の水を利用した飲用水等、自然に触れるだけでなく、そのエネルギーの活用を学ぶことができた。私たちの生活を支える電力の供給という大事な役割の重要性、建設にあたっては多くの困難と苦悩を乗り越えてきたことを学習した。

2 写真コンテスト

現地で見た景色を写真で撮り、くぬぎ祭（文化祭）で掲示した。黒部峡谷や大町市、白馬村等、東京では滅多に見ることのできない自然の景色を意識して見ることに繋がった。それぞれが撮影した写真の一枚一枚に、くぬぎ祭（文化祭）来場者の多くの方々が見入っていた。

<社会体験活動>

1 農業体験

民宿近くの田んぼで稲刈りを体験した。手刈りだけでなく、バインダーやコンバインといった農作機械を操作した。手刈り体験では、予定していた時間よりも早く稲を全て刈り取り、作

業を終えた。最後まで落ちている稲穂を拾い集める様子からは、米のありがたみを感じているようであった。バインダーやコンバインを体験する際、初めは緊張しながら操作する生徒もいたが、慣れてくると、初めての体験に表情が輝いていた。



【稲刈り体験】

2 合唱披露

ウィング 21 (大ホール) にて、オリンピック・パラリンピック学習及び合唱発表を行った。オリンピック・パラリンピック学習では、ウィング 21 の施設管理をされている方にお話を伺い、当施設建設の目的、当時の利用方法、そしてオリ・パラ開催後から現在の活用方法等について学習した。「オリンピックレガシーとどう向き合っていくのか」考えを深める学習であった。

合唱発表会では、お世話になった民宿の方々を招待して、感謝の気持ちを込めて長野県歌「信濃の国」、「第三中学校校歌」、「明日の空へ」、「あすという日が」の4曲を披露した。生徒たちは精一杯の感謝の気持ちを込めて披露した。また、民宿の方も大変感動してくれていて、特に「信濃の国」の合唱には目に涙を浮かべている方もいた。

<生活・文化体験活動>

1 ものづくり体験

籐細工、草虫、木彫りのプレート、リース作りなど、民宿ごとにもものづくり体験を行った。籐細工では、作成前に籐を柔らかくする工夫などを学びつつ伝統的な作り方でコースターやかご等を作成した。

草虫作りは道端に生えているススキを使い、宿のお父さんの手本を見様見真似で作っていた。四苦八苦しながらも、宿の方や仲間に教わりながら、生徒それぞれの個性が見られる素敵な作品となった。現地の材料を使用し、地域の伝統的なものづくりを知るよい契機となった。



【籐細工作り体験】

2 農家民宿における生活体験

農家民宿では生徒一人一人が家族の一員として、食事づくりや掃除等の家事を体験した。また2泊3日の生活の中で、そば打ちなどの郷土料理づくり体験や収穫したヨモギから草餅づくり、ミニトマトの収穫・出荷準備の手伝い、芋掘り体験など、白馬村の食文化や生活を体験できるよい契機となった。

○生徒の感想

- ・ 稲刈り体験が一番心に残った。いつも食べている米の収穫の仕方がわかって、これからは食べる時にもっと味わって食べたいと思う。
- ・ 稲刈り体験を通して食べ物を大切にしようと思った。
- ・ オリンピックレガシーについての学習にとっても衝撃を受けた。2020年東京オリンピックに活かせるようにしたい。
- ・ 農業体験でコンバインに乗るなど、貴重な体験ができて良かった。そして楽しかった。
- ・ この5日間を通して、私は白馬村の魅力だけでなく、自然の中で生きる人たちの工夫を感じることができました。また、仲間との絆もより深めることができ、素晴らしい4泊5日になったと思っています。
- ・ 5日間、東京では体験することのできないことを経験するとともに、2日目の黒部ダムエコエネルギー学習では人の力であんなにも大きな物を造れたということに人の無限の可能性を感じました。大切な思い出も作ることができ、とても大切な時間になりました。
- ・ 思い出がたくさんできたセカンドスクールだった。一番思い出に残ったのは黒部ダム。迫力満点だった。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

白馬村の食生活や文化、自然、校歌合唱、オリ・パラ学習等、普通の授業との関連に配慮した。また、各民宿での集団生活や班、クラス、学年単位での集団行動を通してコミュニケーション能力、団結力、協調性、規律を守る姿勢、T.P.Oを踏まえた行動をとる意識を育むことができた。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

実施直前に台風となったことで、例年とは違い半日ずらした午後からの出発となった。そのことでプログラムの変更はあったが、時間に余裕ができたことで午前中は合唱練習や直前の準備などに充てることができ有効に活用することができた。初日に予定していた白馬ジャンプ競技場の見学も宿泊施設から徒歩圏内であったことで3日目の朝に臨機応変に組み入れることができた。生徒の体調を見て黒部ダムトレッキングは実施しなかったものの、それ以外の体験は全て実施することができた。また農業体験や生活体験、合唱発表等を通じて現地の方々との交流を深めることができた。体験内容については生徒の多くが充実して取り組むことができ、特に感謝の気持ちを伝える会では生徒だけで企画立案した内容であっただけに、より一層感謝の気持ちが伝わった。

次年度に向けての課題としては、この時期は台風と重なることも十分に考えられるため、台風が来た時の対応や代替案も事前に計画しておく必要がある。

第四中学校

長野県飯田市

9月26日～9月30日(4泊5日)

参加人数 男子73名 女子58名
計131名

○セカンドスクールのねらい

- ・都会にない自然に触れ、自然の大切さや自然を守る意識を深める。
- ・長野県の地理や風土、歴史などの文化を知り、そこに生きる人々の生活や考え方を体験する。
- ・日常と違う生活体験を共にすることによって、協力することの大切さや友達の良さを知り四中生としての絆を深める。

○日程表

9月26日(水)		9月27日(木)		9月28日(金)	
7:30	武蔵野市役所前駐車場集合	6:00	起床、朝食準備	6:00	起床
7:45	バス出発	7:30	朝食	7:00	朝食
		9:00	散策	9:00	農家体験
11:50	飯田運動公園 昼食	10:00	荷物整理	11:30	売木村役場集合
12:40	〃 発	10:30	テント片付け		農家の方へお礼のあいさつ
		11:30	クラス写真撮影	12:00	昼食
14:10	うるぎ星の森 到着	12:00	昼食	12:45	集合・稲刈り作業の説明
14:30	テント設営	12:30	閉村式	13:00	稲刈り体験
15:30	夕食準備	12:45	うるぎ星の森 発	15:00	稲刈り体験終了
		13:00	売木村役場到着	15:45	終わりの会
17:00	夕食		農家の方へあいさつ	16:00	売木村役場発
			農家体験開始	17:00	ひるがみの森着・開館式
19:30	星の観察教室	18:00	夕食・入浴	18:00	夕食
22:00	就寝	22:00	消灯	19:00	入浴
				22:00	消灯
9月29日(土)		9月30日(日)			
	1・2組(3・4組は逆パターン)	6:00	起床		
6:00	起床	7:00	朝食・閉館式		
7:00	朝食	7:30	出発準備		
8:00	出発準備	8:00	ひるがみの森発		
9:15	出発	9:30	尖石縄文考古館 着 見学		
9:30	満蒙開拓平和記念館 着	10:30	バス内集合		
10:30	出発	10:45	尖石縄文考古館 発		
10:45	杵原学校 到着 見学	11:15	昼食 おぎのや諏訪店		
12:30	体育館で昼食 レクリエーション	12:00	解散式		
14:15	終了出発	13:30	出発		
15:00	ひるがみの森到着	15:00	談合坂SA		
15:45	入浴	15:10	武蔵野市役所前駐車場		
18:00	夕食		解散		
19:00	レク大会		台風接近のため時程を繰り 上げて実施		
22:00	消灯				

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・長野県の自然や農業、飯田市の紹介など自分で一つのテーマを選び、個人新聞を作成した。
- ・農家への挨拶状や自己紹介のカードを作り、事前に送付した。
- ・実行委員を中心にスローガンを作り、生活の決まり（服装・持ち物、ルール）を作成した。

2 事後の学習内容

- ・セカンドスクールでの体験を、農家班ごとの農家体験を新聞にまとめて、四中祭で展示した。
- ・セカンドスクールでの体験学習の成果を、四中祭でプレゼンテーションした。
- ・お世話になった農家へ、お礼の手紙を書いた。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 飯盒炊爨・テント泊

うるぎ星の森オートキャンプ場において、飯盒炊爨とテント泊を体験した。当日は雨の中、飯盒炊爨を行い、夕食ではカレーライスやサラダを作って食べた。テント泊では雨をものともせず、班活動や係活動を行い、普段では体験できない一夜を過ごすことができた。また、朝食では各班サンドイッチやサラダを作り、雨の中後始末まできちんとできた。



【雨の中での調理作業】

2 ハイキング

飯田市南部の下条村にある極楽峠に登る予定であったが、雨天のため実施できなかった。

<社会体験活動>

1 満蒙開拓平和記念館の見学

4日目のハイキングが雨天のため中止になり、急遽雨天時のプログラムに変更した。長野県阿智村は戦前に多くの人々が中国東北部（旧満州）に開拓団として入植した。しかし、日中戦争、太平洋戦争が勃発し、日本の敗戦後に引揚者として故郷に帰ってきた。旧満州ではソ連軍の侵攻が始まり、着の身着のまま日本まで引き揚げてきた人々の苦労や悲惨な体験を集めた資料館である。生徒たちはガイドの説明を熱心に聞き、また実物や映像を見ることで平和の尊さを学習した。

2 杵原学校(旧山本中学校校舎)の見学

杵原学校は、昭和24年に建てられた木造の校舎で、建設の際には、神社の神木を売ったり、

婦人部がウサギを飼育したりして資金を集め、村民が藁、竹、縄を提供し、勤労奉仕に努め、生徒も資材を運搬するなど、村民が建てた学校である。昭和60年に伊賀良中学校（現旭ヶ丘中学校）との統合により廃校となり、校舎は閉ざされた。現在は往時の生活の様子を感じることができる農機具や生活用品が展示されている。生徒たちは長野県の昔の生活を知ることができた。

3 尖石縄文考古館の見学

5日目の最終日、尖石縄文考古館の見学を行った。台風が近づく中の見学となったため、屋外の竪穴式住居の見学はできなかった。屋内ではビデオ学習、出土品の見学などを行った。国宝である「縄文のビーナス像」、「仮面の女神」（レプリカ）などの展示物を興味深く見学していた。また、ドングリなどを石うすで粉にする体験や、縄文人の衣装を試着するなど、縄文の暮らしを体験することができた。

<生活・文化体験活動>

1 農業体験

2日目の午後から3日目の午前中にかけて、各農家に分かれ、野菜や果物の収穫、草刈りや五平餅作りなどの農家体験を行った。天候が回復し、各農家で武蔵野市では体験できない生活を体験した。農家の方々の優しさに触れることができた。3日目の午後からは秋晴れの下、稲刈り・はざかけ作業を体験できた。稲刈り、束にして縛る、運んではざかけの作業を班ごとに行った。生徒たちは熱心に作業を行い、さわやかな汗を流していた。



【全員ではざかけに取り組む】

○ 生徒の感想

- ・私達の班は農家体験で、にんにくを植え、育てている野菜のネット掛け、水やりなどたくさんのことを体験させてもらいました。特に印象に残っていることは、にんにくを植えたことです。初めての体験ということもありますが、それ以上に、植えるまでにたくさんのことをしなければならないということを実感しました。土を柔らかくしたり、植える幅を一定にするために穴をあけたり、様々なことが必要でした。これを手作業でやっていたと聞き、時代の変化についても教えてもらいました。
- ・私が一番思い出に残っているのは、テント泊のときに作ったご飯です。普段とは違う調理の仕方で、火の強さや、火の位置を変えるのも自分たちでやるので達成感がすごくあったのを覚えています。1日目の夜ごはんのカレーは、ご飯が焦げたり、灰が入ったりで私的にはあまりおいしくなかったけど、2日目の朝ご飯は少し上達しておいしかったです。
- ・僕は、セカンドスクールで協力することの大切さについて深く考えさせられた。協力すると

というのは、一人一人が一つの目標に向かって助け合うということだ。誰か一人でもやる気がないと場の雰囲気は暗くなってしまう。しかしセカンドスクールでは、一人一人が前向きに取り組み、周りを励まし合いながら物事を行っていて、自然に「協力」ということをしていたと思った。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

今回、生徒たちが掲げたセカンドスクールのスローガンは「5つのAU～出あう・伝えあう・わかちあう・認めあう・助けあう」であった。生徒たちはこのスローガンを合言葉に様々な体験をした。セカンドスクール前は、学年全体でお互いに考えるということが不十分な面があり、自己中心的な行動が目立っていたが、セカンドスクールを通して、話し合い、お互いを理解することを学んだ。セカンドスクール後は、精神的に成長し、自己中心的な言動が少なくなっている。総合的な学習の時間では、課題解決学習を行った。それぞれがテーマをもち、調べ学習を行い、発表し合った。また、そこで生まれた課題を実際に現地で見たり、体験したりすることで更に理解を深めた。

本校は都のスーパーアクティブスクール研究指定校になっている。そのため昨年度には、今回お世話になった売木村のウルトラマラソンで世界的に有名な重見高好さんの講演会を行った。セカンドスクールの中で、短時間ではあったが、重見さんをお招きし生徒に対して講演をしていただいた。18年に及ぶ本校と売木村との交流を感じさせるものだった。

4泊5日のセカンドスクールを通して、生徒たちは仲間の大切さ、自分たちを陰から支えてくれる人の存在、そしてお互いを思いやる気持ちを育てることができた。今後もこの体験を学校生活に、そして社会の一員としての自分を考えさせる活動に生かしていきたい。

○今年度の課題と次年度に向けての課題

長野県売木村を中心とする南信州の方々との交流や自然の中での生活、仲間との生活を通して「人と人、人と自然の関わり」を考える良い機会となった。期間中天候に恵まれず、雨のために予定を変更した取組もあったが、人の力ではどうすることもできない自然の大きさに対して、仲間同士が協力して対策を講じ、乗り越えることを体験できた。

今回で18回目を数える売木村での農家体験では、受け入れていただいた農家には大変お世話になり、また生徒たちと家族同様に接していただき、大変感謝をしている。しかし、各農家の方々も年齢を重ねセカンドスクールを受け入れる農家が少なくなったこと、売木村だけでは生徒を収容できず、近隣の村々に生徒の受け入れをお願いすることになっていることを鑑み、売木村でのセカンドスクールは今年度が最後になってしまった。

期間中、売木村村長のお話をいただき、またそれぞれの農家からは惜しむ声を多くいただいた。今後も何かの形で売木村との交流を継続することができないか模索したいと思う。

来年度は群馬県みなかみ町にセカンドスクールの舞台を移し、新たな視点でセカンドスクールを計画することになる。今まで培ったセカンドスクールの経験を生かし、「人と人、人と自然の共生」を考え、体験できるセカンドスクールを計画していきたい。

第五中学校

長野県北安曇郡白馬村

9月18日～9月22日(4泊5日)

参加人数 男子34名 女子28名
計62名

○セカンドスクールのねらい

- ・自然体験を通じて、環境保全意識と自然そのものへの畏敬の心を培う。また、農業体験を通じて、勤労を尊重する姿勢と知的好奇心を養いながら課題解決力を養う。
- ・宿泊体験を通じて、自主自律の意識を高めるとともに協調性と人間関係調整能力を養う。
- ・交流学习を通じて、自らが住む町や地域の改善を模索する市民性と、自らの考えを論理的に表現する力を養う。また、国際競技場見学体験を通じて、かつてのオリンピック・パラリンピックの感動を共有し、来る東京五輪への参加応援意識を高める。さらに、歴史民俗施設見学を通じて、歴史街道成立の一端に触れながら文化の成立過程等への関心を高める。

○日程表

9月18日(火)		9月19日(水)		9月20日(木)	
7:00	学校集合・出発式(体育館)	6:00	起床	6:00	起床
7:40	バス出発	7:00	朝食	7:00	朝食
11:50	大町公園到着・昼食	8:40	ホテル出発	8:00	親海湿原環境保全活動
13:00	塩の道ちょうじや見学	9:00	ゴンドラ山麓駅到着	10:00	姫川源流探索
14:00	大町市街中探訪	10:00	八方池登山	11:30	白馬豚焼肉パーティー
15:45	仁科台中学校交流学习会	12:45	兔平レストハウス到着・昼食	12:45	稲刈り学習・準備
17:45	ホテル到着・入館式	15:10	白馬競技場・オリパラ学習1	14:00	稲刈り体験
18:45	夕食・入浴	15:30	開村式・民宿農家へ移動	16:30	夕食づくり
21:10	班長会議・室長会議	18:45	夕食・入浴・交流・部屋会議	18:30	夕食・入浴・交流・部屋会議
22:00	消灯	22:00	消灯	22:00	消灯
9月21日(金)		9月22日(土)			
6:30	起床	6:30	起床		
7:30	朝食	7:30	朝食		
8:30	農村ふれあい体験1	8:00	エスカルプラザ企業見学		
12:00	昼食	10:30	ウイング21オリパラ学習3		
13:30	農村ふれあい体験2	11:30	退村式・お別れの会		
16:30	入浴	12:20	エスカルプラザ到着・昼食		
18:30	夕食	13:10	バス出発		
19:30	農家の方とのオリパラ学習2	17:30	学校到着・解散式(体育館)		
21:10	班会議				
22:00	就寝				

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・ 1学期の総合的な学習の時間で、担当教員の実地踏査後にセカンドスクールの概要と今後の流れの説明を行った。
- ・ 1学期の社会科の授業で、長野県の自然・気候・地理・歴史・伝統・文化・産業等について触れ、夏休みの宿題で、大町市・白馬村について、調べ学習を行い、ポスターにまとめた。
- ・ 1学期の総合的な学習の時間で、J A大北観光課の担当の方から、白馬村や大町市の魅力や特色を紹介して頂き、セカンドスクールで行う環境保全活動や農作業（稲刈り）体験、登山、農家の方との農村ふれあい体験などの学習の意義についてお話を伺った。
- ・ 仁科台中学校とのポスターセッションに向けて、武蔵野市の特色やよいところを発表できるように、夏休み期間中、行動班ごとに武蔵野市に関する調べ学習を行った。2学期に準備や練習を行い、クラスでリハーサルし先生方からアドバイスをもらった。
- ・ 2学期の総合的な学習の時間で、仁科台中学校とのポスターセッションのために、武蔵野市民科カリキュラム作成委員会の方々にプレゼンテーションを行い準備した。

2 事後の学習内容

- ・ 行動班ごとに、交流学习を行った仁科台中学校への感謝の気持ちを学年通信に掲載した。
- ・ 宿舍班ごとに、お世話になった農家の方々への感謝の気持ちを学年通信に掲載した。
- ・ 保護者の方や他学年等にセカンドスクールの様子を伝えるため、個人で作成した OPPA（一枚ポートフォリオ評価法）やコンピュータソフトで作成した動画を紹介した。
- ・ 今後の総合的な学習の時間のテーマである「食育・環境」や、進路学習の「職業調べ」などに関連させて進めていく。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 八方池登山

天候に恵まれ八方池から白馬三山の雄姿を見ることができ、生徒は感激していた。ゴンドラとリフトを乗り継いで八方池までのトレッキングは、3000m級の白馬三山や五龍岳を間近で眺めながらの自然研究散策も兼ねる。黒菱平から上部や標高 2060mにある八方池周辺は、貴重な高山植物や日本有数の蛇紋岩の産地でもある。理科や社会科では植物の性質や岩石の特徴、地形などを学ぶが、この八方池登山は、実際の山岳地帯の自然に触れる活動として、良い機会であった。

2 姫川源流散策

姫川は宿泊地である白馬さのさか地区の源流から 58km 離れた日本海に注ぐ一級河川であり、姫川源流の湧き水は「日本の名水百選」にも指定されている。様々な動植物が生育する環境である姫川源流一帯で、湧き水を直接観察しながら五感を働かせて散策する活動は、自然の豊か

さや美しさを実感できる情操教育の一助となった。

＜社会体験活動＞

1 大町市街中探訪と仁科台中学校交流学習会

大町市の仁科台中学校1年生に観光講座として、大町市の商店街近隣を案内してもらい、地方の街の特色や見どころ、シャッター商店街という現状や課題などを知ることやその街を再生しようとする人々との関わりを通じて、街づくりについて考える機会を得た。

大町市と武蔵野市のお互いの地域性、歴史や伝統、文化、産業などをテーマに発表し合うことで相互の理解を深めるためのポスターセッションを行った。プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力などを培う取り組みができた。

2 オリンピック・パラリンピック学習会

白馬ジャンプ競技場の所長さんからのレクチャー、各民宿農家の方からの長野オリンピックのボランティアとして参加した記録の学習会、ウイング21の舞台責任者からのオリンピックレガシーに基づくワークショップなど、3つの学習会を通じて、オリンピック・パラリンピックに対する深い理解と、どのような関わり方を持てばよいのか考えた。

3 親海湿原環境保全活動

宿泊先の農家の方々と一緒に、親海湿原の環境保全活動（湿原固有植物を侵食する葎の駆逐作業）を行った。鎌による手刈りなので、危険を伴う刃物の適切な使い方や周りへの配慮を意識することを学んだ。今年で4年目の活動なので、学校の継続した取組として伝統を実感する生徒も多かった。

＜生活・文化体験活動＞

1 塩の道ちょうじや見学

松本平から北アルプス山麓を経て新潟県糸魚川に至る千国街道は、通称「塩の道」と呼ばれ、海と陸をつなぎ、様々な物資や塩や海産物を運ぶための道となった。貴重な建築物や資料によって、宿場町として信濃大町が栄えた歴史や文化を学ぶことができる博物館であった。

2 農村ふれあい体験と交流学習

草むしりや畑仕事、農作物の収穫などの農作業体験や、蕎麦打ち体験や郷土料理体験、小物細工づくりなど、農家民宿ごとのプログラムに従って様々な農村生活を体験し、集団生活における人と人との支え合いを学び、つながりを感じる機会となった。また、農村での暮らしぶりや食育など多岐に渡るお話を農家の方から直接語っていただき、生活への影響を理解したり、特産物を頂いて交流を深めたりする有意義な時間となった。さらに、手刈り、コンバイン、バインダーといった3つの工程を体験し、米作りの過程を学び、食料を自足自給することの意義を考えることができた。

○生徒の感想

・大町探検では、様々なスポットについて教えてくれてありがとうございました。男清水と女

清水の飲み比べが特に印象に残っています。思っていたよりも味が違っておどろきました。やさしく接してくれてうれしかったです。また、ポスターセッションでは、文化について調べていた2つの班の説明がとてもわかりやすかったです。声も大きくはきはきして聞いて取りやすかったです。ポスターの中身も濃く、見て楽しむことができました。私たちの発表の時は一生懸命聞いてくれて、話しやすかったです。仁科台中との交流は思い出に残るものになりました。本当にありがとうございました。

- ・築150年という農家に泊まって、屋根はかやぶきで夏は涼しく、冬は暖かくしてくれるものだとか聞き、昔の人々の暮らしの工夫を知ることができました。ありがとうございました。また、農村ふれあい体験では、バームクーヘン作りをさせていただき、普段はできない体験をすることができました。私が一番思い出に残ったのは最後の夕飯をいろいろで食べたご飯です。いろいろはとてもめずらしく、見られるだけでもすごいのに、私たちはいろいろでたくさんの食材を食べることができました。いろいろで食べたご飯は私が今まで食べた食べ物の中で1番美味しかったと思いました。上屋敷のお父さん、お母さん、私たちのためにさつまいも掘りやご飯を作ってくれたり、オリンピックのお話をしてくれたり、いろいろな体験をさせていただき、本当にありがとうございました。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

4年前から実施場所を白馬村・大町市方面に変更し、現地の中学生や農家の方との交流学习、自然体験、環境保全活動、農作業体験、施設・博物館等見学などを通して、人とのふれあいや街づくりについて学び、総合的に「市民性」を育成し、生きる力を養うための絶好の機会ともなっている。理科や社会科をはじめとする様々な教科での知識や、普段の学校や家庭、地域での日常生活での経験をもとに、これからの人間関係や社会生活を捉え直すきっかけともなった。今後の3年生で実施する地域提案型学習「市長に提言」などのシチズンシップ教育について、その下地となるような活動の導入としてよい活動である。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

今年度初めて取り組んだ、正負の側面でオリンピック・パラリンピックの特徴を捉えること、オリンピックレガシーに関するワークショップができたことが大きな成果である。また、今年も事前学習によって生徒が見通しをもって取り組むことができたが、その時間の確保が課題である。夏休みや放課後などにも、準備や練習を行うなどしたが、他の活動とどのように両立するか、生徒・教員ともに無理のない日程調整を検討する必要がある。



【仁科台中学校との街中探検】



【機織り農村ふれあい体験】



【親海湿原環境保全活動】

第六中学校

長野県安曇野市

9月5日～9月9日(4泊5日)

参加人数 男子42名 女子23名
計65名

○セカンドスクールのねらい

- ・主体的に考え、行動する力を育てる。
- ・相手の気持ちを考え、協力しあう心を育てる。
- ・長野の自然、文化、産業を体験する中で長野県の特徴を学び、見識を深める。
- ・人々との出会い・交流の中で他者とのかかわりについて学ぶ。

○日程表

9月5日(水)		9月6日(木)		9月7日(金)	
7:30	二小前しろがね公園集合	6:30	起床	6:30	起床
7:40	出発	7:00	朝食	7:00	朝食
11:30	宿舎到着 開校式	8:40	出発	8:15	出発
12:30	昼食	9:00	稲刈り体験	10:35	上高地ハイキング
13:30	オリエンテーリング	12:30	昼食	12:30	昼食
19:00	夕食	14:00	わさび掘り体験	13:20	上高地バスターミナル出発
20:00	農作業体験講義		わさび漬け作り体験	14:00	松本城・旧開智学校見学
21:30	部屋班・行動班係会議	17:00	夕食	15:00	宿舎到着
22:30	消灯	18:00	キャンプファイヤー	17:45	夕食
		21:30	部屋班・行動班係会議	21:30	部屋班・行動班係会議
		22:30	消灯	22:30	消灯
9月8日(土)		9月9日(日)			
6:30	起床	8:00	集合		
7:00	朝食		閉校式		
8:30	民泊対面式	8:30	朝食		
9:00	各農家へ	9:30	ガラス細工体験・田淵行男記念館見学		
10:00	安曇野生活体験	11:45	昼食		
11:30	昼食作り	12:45	宿舎出発		
14:00	安曇野生活体験	17:30	二小前しろがね公園到着・解散		
17:30	夕食作り				
19:00	民泊先の方々と交流				
22:30	民泊				

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・「地域、産業、自然」という大きな総合的な学習の時間のテーマを設け、その中から、安曇野市や長野県についてのテーマを選択し、事前の調べ学習をした。
- ・民泊でお世話になる家庭宛てに自己紹介文を作成し交流を図った。誤字・脱字に注意し、失礼のないように手紙文を書いた。

2 事後の学習内容

- ・民泊でお世話になった家庭宛てに、お礼状を作成し交流を深めた。誤字・脱字に注意し、失礼のないように、なおかつ相手に誠意が伝わるように手紙を書いた。
- ・5日間で学習したこと、体験したことを行動班ごとにポスターにまとめ、ポスターセッションを行った。
- ・5日間で学習したことや体験したことの中からテーマを決め、レポートを作成した。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 上高地ハイキング

大正池から班ごとに行動し、河童橋まで移動した。本来ではその後右岸コース、左岸コースに別れ、明神橋まで移動する予定であったが、あいにくの悪天候のため、河童橋でハイキングを断念し、宿舎に戻った。全行程を終えることはできなかったが、班長を中心に各個人の役割を意識しながら行動することができていた。雨が降る中であつたが、普段味わえない美しい景色や野生動物との出会いなど、多くの生徒が大自然の壮大さに感動を覚えた。

<社会体験活動>

1 農業体験

1日目の夜に農業体験講義として、「稲作農業」と「わさび」についてお話を聞いた。JAあずみの職員の方、わさび農家の方を招き、翌日の体験学習である稲やわさびの栽培や収穫方法などについて講義をしていただいた。稲作に関する講義では、田植えをしてから出荷するまでの工程や、そのときに使う機材や器具など、詳しく説明していただいた。わさびに関する講義では、わさび作りに適した気候や栽培法など、簡潔に分かりやすく説明していただいた。生徒はメモを取りながら、興味深く真剣に講義を聴いた。今まで知らなかった農作業の内容を理解した上で、2日目の体験活動に臨むため、農業・作物に対しての意識が変わった生徒が多くいた。また、わさび掘りも冷たい水に素足で入り体験することにより、わさびはきれいな冷たい水でなければ育たないということを身をもって体験することができた。



【稲刈り体験の様子】

2 安曇野オリエンテーリング

ビレッジ安曇野を起点として、豊科市街地の郷土博物館、近代美術館およびビレッジ近くの憩いの池をめぐるオリエンテーリングをした。途中にある道祖神を多く見つけることを課題とし、安曇野の田園風景を楽しんだ。また立ち寄り先の郷土博物館、近代美術館でも美術品や工芸品に触れることができた。

3 ガラス細工体験

宿舎付近にあるガラス工房の協力のもと、安曇野を代表する産業であるガラス細工体験を行った。生徒一人一人が趣向を凝らしたデザインをもとに、ガラスにリユーターで絵を描いた。各自時間内で一生懸命取り組み、思い出に残る体験ができた。

<生活・文化体験活動>

1 わさび漬け作り体験

信州わさび農業協同組合の組合長自らの指導によるわさび漬け作り体験を行った。わさびを刻み、酒粕や調味料と合わせ、わさび漬けができるまでの体験活動を行った。安曇野の特産物について知ったうえで作ったわさび漬けを各自持ち帰ることができた。



【わさび漬け作り体験の様子】

2 民泊体験

セカンドスクール期間の土、日曜日を使い、安曇野の農家を中心とした民泊体験を行った。天候にも恵まれ、それぞれの家庭での農作業などの生活体験や食事作り、その他体験活動を楽しみ行うことができた。実際に宿泊することで安曇野の方との交流も十分に図れた。

○生徒の感想

- ・色々な活動を通し、自分の積極性に気が付くことができた。
- ・オリエンテーリングで道に迷うなど、うまくいかないこともあったが、皆と協力して乗り越えることができた。
- ・民泊の家族の方々が本当に優しく接してくれて、嬉しかった。ご飯も美味しかったし、機会があればぜひまた行きたいと思う。
- ・東京を離れて少し不安だったが、自分は多くの人に支えられていると気が付く良い機会となった。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

5日間の生活で、班行動を中心として生活を送ったことにより、特に生徒一人一人の自主自立の力が高まったように感じる。一人一役をもたせたことで、責任感をもって仕事に取り組む姿が多く見られた。また、時計を見て5分前行動を心掛ける、空いた時間で翌日の準備をする等の行動も見られた。これらの力は日々の学校生活にも活かされ、授業の準備等がスムーズに行われるようになった。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

今年度は5日目のプログラムを変更し、宿舎付近でガラス細工体験を行った。安曇野市の伝統工芸であるガラス細工に初めて触れる生徒も多く、意欲的に体験できた。

活動全体を通しては天候が芳しくなく、予定していた活動すべてを実施することはできなかった。しかし、雨天プログラムも綿密に計画を立てていたので、生徒の活動を充実させることができた。

今年度は傷病者が多く、その対応に追われることがあったので、次年度に向けて近隣病院の場所や夜間対応、休日診療の可否についてより詳しく調べるとともに、生徒の健康面・安全面の配慮に努めていく。

フシセカンドスクール



第一小学校

山梨県南都留郡富士河口湖町

9月19日～9月21日(2泊3日)

参加人数 男子37名 女子36名
計 73名

○プレセカンドスクールのねらい

- ・初めての集団宿泊学習を迎えるにあたり、学校から近距離の場所で活動し、様々な体験をすることで集団宿泊学習に慣れさせ、集団生活を通して児童相互が協力し合う態度を育成する。
- ・体験活動のバリエーションも多い富士山麓周辺を中心として、環境学習を展開させることで自然を大切にしようとする態度を育てる。
- ・日本最高峰である富士山の歴史や成り立ち、周辺の特徴的な自然環境、人々の生活とのつながりなどについて、自然や産業の観点から理解を深め、課題を追究し、解決する力を育てる。
- ・西湖に生息する絶滅危惧種であるクニマスなどの淡水魚などを実際に見て、観察することを通して、ふだん見ている魚との違いなどを発見する力を育てる。

○日程表

9月19日(水)		9月20日(木)		9月21日(金)	
7:45	校庭集合	6:15	起床 検温	6:15	起床 検温
8:15	出発式	6:45	朝会	6:45	朝会
	談合坂SAにて休憩	7:30	朝食	7:30	朝食
10:15	富士山世界遺産センター着 見学	9:30	紅葉台入口着 紅葉台・三湖台ハイキング	8:00	清掃 出発準備
12:00	富士山五合目着 昼食 御中道コーストレッキング	11:30	富岳風穴駐車場着 昼食	9:00	閉校式
14:20	奥庭駐車場着	12:30	富岳風穴見学	10:00	富士山レーダードーム館着 見学
15:30	宿舎着 開校式	13:30	小池邦夫絵手紙美術館見学	11:30	さかな公園着 昼食
16:30	入浴	15:15	宿舎着	12:30	富士湧水の里水族館見学
18:00	夕食	16:30	入浴	13:45	出発
19:00	学習の記録	18:00	夕食	13:45	談合坂SAにて休憩
20:00	就寝準備 健康観察	19:00	学習の記録	16:50	学校着 帰校式
21:00	消灯	20:00	就寝準備 健康観察		
		21:00	消灯		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・プレセカンドスクール実施前(1学期)、昨年度のプレセカンドスクールの写真を見せ、興味をもったことなどについて話し合い、そこから児童一人一人が、課題を設定した。

- ・富士山ガイドブックを作ることを前提とし、学校図書館の本に加え、市図書館から本を借りるなどしながら情報を集めた。
- ・児童一人一人が記事を書いて作成したガイドブックを事前に読み、富士山周辺の情報を集めた。
- ・事前に調べ学習を行ったことで、現地で調べたいことを具体的に設定することができた。また、学習ノートに枠を設けることで、プレセカンドスクールに行く前と行った後の自分の課題に対する考え方の変容についても考えられるようにした。
- ・初めての宿泊行事にあたり、部屋の片付け方、布団の後始末の仕方、風呂場・脱衣所での注意点など、集団生活のきまりやマナーについて指導した。また、養護教諭と連携し、保健領域「育ちゆく体とわたし」の授業を行い、心身の発達に伴った健全かつ快適な過ごし方について指導した。

2 事後の学習内容

- ・3日間で学んだことや自身の成長を作文にまとめ、読み合う活動を行った。互いに読み合うことで、宿泊行事に対する考え方や適切な過ごし方などについてより深くふり返ることができた。
- ・学習したことを3年生にも伝えるため、「プレセカンドスクール報告会をしよう」という活動を設定した。学級内でガイドブック作成時に分かれたグループになり、話す順番や模造紙の書き方など発表の仕方を工夫し、発表会を行った。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 富士山御中道コーストレッキング

五合目から行うトレッキングに向けて、車中では雲や地面、植物の様子の変化について注目させた。天気もよく視界が開けていたこともあり、児童は雲の流れや、すそ野の樹海の広がりにも注目して、熱心に観察していた。

トレッキングでは、足元がふだん見慣れた地面とは違い、歩くと「ザクッザクッ」と聞こえることや、木々が外側に向かって反りながら生えていることなど、気付いたことをそれぞれ口にして、情報を共有しながら歩いた。そこから五合目ではコケ類、キノコが厳しい環境の中で生育していることを、実感をもって学習することができた。



【御中道コースのトレッキング】

2 紅葉台・三湖台ハイキング

小雨が降るなか、紅葉台ハイキングを行った。展望台からは富士山と青木ヶ原樹海、西湖、本栖湖、精進湖などが一望できる予定であったが、天候に恵まれず辺りは霧がたちこめていた。しかし、霧が晴れる時もあり、児童達は案内板を見ながら「あれが西湖だ！」と口々にして確認し合っていた。樹海が予想以上に広がっていることや、周りの民家や湖が小さく見えることから、自分たちが高い所まで登ってきたことにも達成感を感じている児童が多かった。

3 富岳風穴見学

風穴などの洞窟は溶岩の影響によって形成されたということは児童も事前学習で知っていたが、溶岩棚や縄状溶岩などを実際に見学すると自然の織り成す世界に改めて驚いた様子であった。また、天然の冷蔵庫として使用されていたことや、光る苔を見た児童は新たな情報を得て共有しあい、学習を深めることができていた。

<社会体験活動>

1 富士山世界遺産センター見学

最初に富士山の形成について大型スクリーンによるビデオを上映していただいた。その後児童は、自分の課題に沿って館内にある様々な展示資料から情報を集め、熱心にメモを取る姿が見られた。

2 富士山レーダードーム館

事前学習の中で、映像資料を用いて富士山レーダーを作るために努力した人々の願いや苦勞を学習していたこともあり、展示されている難しい資料にも興味深そうに読み入っていた。また、レーダードーム館から全員に一枚ずつワークシートをいただき、レーダードームに関する問題の答えを探しながら学習を進めることができた。答えが展示資料の中で必ず説明されているので、児童は説明をよく読みながら情報を集め、知識を広げていった。

3 山梨県立富士湧水の里水族館

水生に限らず富士山周辺の多くの動植物が、回遊水槽や流水水槽などにより自然に近い環境で展示されていた。また、ブラウジングコーナーやオープンラボコーナーなども充実しており、児童は様々な角度から観察や調査を進めることができた。

<生活・文化体験活動>

1 小池邦夫絵手紙美術館

事前学習で絵手紙を作成していたが、説明をしてくださる方の話をしっかり聞き、学校で描いたものよりも満足感を得ることのできる絵手紙を作成した児童が多くいた。絵手紙を書き終わると、友達の作品を鑑賞し合い、「上手だね」「言葉が良いね」など声をかけ合う姿が見られた。特別展示されていた村内の小学生が描いた作品にも熱心に見入っていた。



【小池邦夫絵手紙美術館にて】

○児童の感想

- ・プレセカンドスクールに行くまでは、友達と協力することが少し苦手だったが、協力することの大切さに気付くことができた。
- ・人の話はしっかりと聞かなければ、自分も困るし、友達にも迷惑をかけてしまうことが分かった。

た。

- ・天気で予定が変わることがあったが、先生の話をしっかり聞いて行動することができた。
- ・実際に見たり、触ったりすることでじっくり観察をすることの大切さを学んだ。

○セカンドスクールとの関連(生かし方)

- ・セカンドスクールでは「魚沼市について調べよう」というテーマに沿って一人一人が課題を決め、現地で課題別に分かれて調査活動を行う。第4学年から「事前学習—現地調査—事後学習」という大きな活動の流れを押さえ、次年度もスムーズに学習活動に取り組むことができるようにしたい。
- ・プレセカンドスクールでは教員も含めて全員が一つの宿舎で生活をするのに対し、セカンドスクールでは分宿となる。そのため、児童が自分たちの力で全員が気持ちよく過ごせるように、考えて行動することが必要である。プレセカンドスクールでは、生活班で一人一役を与えた。班長は毎晩班長会で次の日の予定、班の中で困ったことを共有して、解決策を班長同士で話し合わせた。友達のアドバイスを聞いて実践し、解決できた班もあった。友達と過ごす中で自分ができること、やらなければならないことを児童自身が考えて主体的に行動できるようにする。
- ・プレセカンドスクール期間中に「学習の記録」の時間を確保し、指導したことによって、セカンドスクールの語らいの時間では、自分たちで学習の振り返りを行うことができると考える。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・富士山五合目の御中道では、天候にも恵まれ、植物や溶岩をゆっくり見てハイキングをすることができた。雨プログラムとして用意していた「小池邦夫絵手紙美術館」は、落ち着いて活動ができる施設であった。
- ・富士五合目や御中道、富岳風穴の整備が進み、学ばせたいことが指導しやすくなった。
- ・学習の記録を行ったことでその日に学んだことをまとめ、児童同士で共有し、学習を深めることができた。
- ・活動に入る前にねらいを明確にすることで、学習の記録の時間が有効なものになった。
- ・朝の会は昨年度から河口湖の湖畔で行っている。じっくり湖を見られたり、釣りをしている人たちに話を聞いたりすることができたが、湖の水が増していたので、次年度は候補地をいくつか考えておくとよい。
- ・落ち着いた環境で様々な体験学習ができることは、児童にとって良い経験となった。初めての宿泊行事で、友達同士トラブルもあったようだが、自分たちで解決できるようになったことは大きな成長であると感じられた。プレセカンドスクールでの体験を学校生活やセカンドスクールにも生かすことができるよう、学んだことを児童自身が様々な活動で意識して取り組ませることが大切だと感じた。
- ・自然体験と文化的体験（絵手紙）によりバランスのとれた活動内容であった。

第二小学校

山梨県南都留郡富士河口湖町

10月10日～10月12日(2泊3日)

参加人数 男子31名 女子32名
計63名

○プレセカンドスクールのねらい

- ・山梨県河口湖町のことについて様々な観点から課題をもち、事前調べ学習を行い、体験学習を行うことによって、問題解決力を育てる。
- ・3日間の宿泊体験を通して、自分のことは自分でする態度や習慣を身に付け、自立心を養う。
- ・集団行動を通して、みんなで協力し合う大切さを学ばせる。

○日程表

10月10日(水)		10月11日(木)		10月12日(金)	
7:30	校庭集合	6:00	起床	6:00	起床
7:35	出発式	6:30	体操、朝会	6:30	体操、朝会
7:45	バス出発	7:00	朝食	7:30	朝食
10:00	西湖公民館(ほうとう作り)	9:00	富岳風穴	8:15	河口湖散策
11:00	昼食(ほうとう)	9:30	樹海ハイキング(ネイチャーガイド)	9:15	閉校式
13:00	河口湖フィールドセンター ガイドウォーク クラフト体験	11:00	富士湧水の里水族館	10:30	勝沼ぶどう畑農業体験
15:50	開校式	12:00	昼食	13:00	昼食
16:50	入浴	14:00	富士山世界遺産センター	13:30	扇状地見学
18:30	夕食	16:30	入浴	16:00	学校着、解散式
19:30	係会議	18:30	夕食		
20:00	学習の記録・葉書書き	19:30	係会議		
21:00	就寝	20:00	学習の記録・葉書書き		
		21:00	就寝		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・初めての宿泊行事ということもあり、ホテル内の様子、活動の様子を昨年度の活動の写真や映像を見せながら学習した。また自分たちで考えて活動できるように係を編成し、仕事内容を分担した。
- ・山梨県の自然(富士山をはじめとした周辺の自然)、富士山が世界遺産になった理由、山梨県の特色ある郷土料理や農産物など、実際に行く場所や体験する活動内容などを踏まえて項目

ごとに調べ、関心意欲や知識を深めるようにした。自分自身で調べなかった内容も学習できるように、学級ごとに発表を行ったほか、調べた内容でしおりを作って共有した。

2 事後の学習内容

ほうとうの作り方や富士山周辺の自然の様子などを、事前学習で調べたことをもとに、現地での体験活動を通して自ら確かめた。事前学習、プレセカンドスクール当日、事後学習の一連の学習を通して、自らテーマをもって取り組んだ。それをもとに「ほうとう作り」、「溶岩樹型・ガイドウォーク」、「クラフト体験」、「ホテルでの生活」などのプレセカンドスクール中の活動や、「山梨県について」といったテーマごとにグループを作り、資料や原稿を作成し、発表した。また4年生同士で発表し合うだけでなく、次年度プレセカンドスクールに行く3年生に向けても発表を行った。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 ガイドウォーク・複合型溶岩樹型観察(河口湖フィールドセンター)

学年を4つのグループに分かれて樹海の中を歩き、溶岩樹型を観察した。溶岩樹型のでき方や様々な種類の溶岩樹型を学習した。人が入れる大きさの溶岩樹型の中に入って実際に内部の壁面を観察したり、触ったりした。また樹海の中にある特色ある自然の生き物や植物について、ガイドの話聞いた。ガイドの話や溶岩樹形観察を通して、溶岩樹形のでき方だけでなく、樹海の歴史についても学ぶことができた。

2 樹海ハイキング(富岳風穴～鳴沢氷穴)

富岳風穴では、実際に風穴の中に入ること、外気と風穴内との温度差を体感した。天然の冷蔵庫たるゆえんを理解することができた。樹海ハイキングでは、グループごとにガイドの話を聞き、樹海内の特徴的な木の生え方、生き物の様子、富士山のでき方など様々なことを聞くことを通して、樹海の特徴的な地形や性質について深く学ぶことができた。



【富岳風穴】

3 河口湖散策

3日目の朝会后、河口湖の湖畔を、湖を観察しながら歩いた。山々が湖面に映る様子や、湖畔にいる生き物を見て、自然の美しさを感じることができた。武蔵野近辺には湖がないため、その大きさに驚くとともに、その美しさに感嘆する児童もいた。

＜社会体験活動＞

1 富士の歴史や自然について(富士山世界遺産センター)

南館では、ガイドの方に詳しく案内していただき、富士山の美しさや、富士山が世界遺産に登録された理由などの話を聞いた。自然としての価値ではなく、日本の文化に対する影響の大きさを鑑みて登録されたということを知り、児童は驚くとともに富士山に対する理解や畏敬の念を一層深めることができた。北館では、グループごとに分かれ、主に富士山周辺の自然や生物についての展示を見学した。ワークシートをもとに、意欲的に取り組んだ。

＜生活・文化体験活動＞

1 ほうとう作り体験(西湖公民館)

ほうとう作り体験では、現地の方に丁寧に教えていただきながら、山梨県の郷土料理であるほうとうの麺を作った。仲間と協力してほうとうを作る活動を通して、仲間との絆を深めることができた。児童は「生地を踏んで麺を作るのが楽しかった。」「家でも作りたい。」という感想をもった。自分たちで作ったほうとうの味が素晴らしく、一生懸命頑張った達成感をもつことができた。



【ほうとう作り】

2 クラフト体験(河口湖フィールドセンター)

バードコールとペーパーウェイトのどちらかを選択してクラフト体験を行った。バードコールでは、初めて使う小刀の使い方を、指導者の話をよく聞き、自分で描くものを考えて作業に取り組んだ。鳥の鳴き声にそっくりな音が出ることに喜んで遊んでいた。ペーパーウェイトも自分で考えたデザインで作り、完成品をみて達成感を味わっていた。

3 農業体験(ぶどう畑)

勝沼のぶどう畑で、ぶどうの収穫・草取り・かき拭き体験を行った。事前学習でもぶどうについて熱心に調べていたため、農家の方の話を聞いて、ぶどうを作るときの苦労や工夫について知ることができた。児童からもぶどう作りの大変さやぶどうの種類など、たくさんの質問が出て意欲的に学習に取り組んでいた。収穫体験では、ぶどうに傷がつかないように気を付けて収穫していた。草取り・かき拭きも農家の方の苦労や大変さを実感しながら取り組むことができた。



【ぶどうの収穫】

○児童の感想

- ・みんなで協力して過ごしたこの経験を生かして、これからもみんなで協力しながら、自分から進んでいろいろなことに挑戦したいです。
- ・みんないろいろなことを考えたり動いたりするので、みんなで協力して過ごすには、みんなが一つにならないといけないということが、プレセカンドスクールの3日間で分かりました。
- ・5分前行動を意識したことで「時間を守る」というところが成長したと思います。このことを来年のセカンドスクールでも生かしたいです。
- ・班長として自由行動の時に、みんながやりたいことをできるだけ全てできるようにしたのが大変でした。また班のメンバーが集まったことを先生に伝えるのを最初は忘れてしまいましたが、最後の方はしっかりと伝えることができました。

○セカンドスクールとの関連(生かし方)

プレセカンドスクールを通して、「自分のことは自分でする」ことを一つの目標に準備を進めた。実際に2泊3日を過ごす中で、児童が主体的に次の予定や時間を意識したりするなど、見通しを立てて行動することの大切さを強く感じていた。また、教師や大人の手を借りず、自分たちの力だけで生活したり活動したりすることを通して、困っている人や、行動が遅れている人を助けるなど、自分以外のほかの人にも意識を向けて、行動することができるようになった。そして、全体として自分たちの行動が早くなったり、気持ちよく活動できたりすることを感じ、協力する大切さを理解した。来年度のセカンドスクールは分宿となり、プレセカンドスクールの宿泊形態とは異なるが、今回学んだ「協力する大切さ」を生かし、セカンドスクールも仲間とともに成功させたいという思いを強くもたせることができた。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・ほうとう作り体験や溶岩樹型の観察など、体験活動を多く取り入れたことにより、事前学習から学んできたことを実際に児童が自分の体で体験することができた。結果として、児童が主体的に学習に取り組む様子が見られた。
- ・ホテルでの生活を係で分担して取り組んだり、班で一緒に活動したりすることにより、「自分たちのことは自分たちでやる」というプレセカンドスクールの一つのねらいに迫り、児童自ら考え、互いに声を掛け合って生活することができた。
- ・引率教員、指導員を含め、全員の配置と詳細な動きを事前に打ち合わせしておくことで、当日に混乱なく取り組ませることができる。次年度も同様に綿密な打ち合わせをした方がよいと感じた。

第三小学校

新潟県南魚沼市

6月6日～6月8日(2泊3日)

参加人数 男子36名 女子25名
計61名

○プレセカンドスクールのねらい

- ・自然や文化とのふれあいを通して、児童たちの豊かな情操や感性をはぐくむとともに、知的
好奇心や探究心を喚起し、問題解決への意欲や態度を培う。
- ・宿泊体験を通し、生活自立に必要な知識・技能を身に付けるとともに、児童たちの豊かな人
間関係を育てる。
- ・児童同士の協働により、自主性や協調性を育てるとともに、現地の方々との交流を通して進
んで他者とのかかわる力を培う。

○日程表

6月6日(水)		6月7日(木)		6月8日(金)	
8:00	学校集合・出発式	6:00	起床・おにぎり作り	6:00	起床・検温
11:15	上越国際観光協会到着 開校式	8:20	朝の会(観光協会前)	9:00	塩沢つむぎ機織り体験 雁木通り散策
12:30	昼食(各民宿)	9:00	上越国際スキー場トレッキング	12:40	昼食
14:00	田植え体験	10:30	十日町展望台到着・昼食	13:40	観光協会前集合 閉校式
16:30	入浴	14:00	農業体験	16:30	学校到着・帰校式
17:30	ぬか釜体験	16:30	入浴		
18:30	夕食	18:30	夕食		
20:00	交流会準備	20:00	民宿の方との交流会		
20:30	学習の記録	20:30	学習の記録		
21:30	就寝	21:30	就寝		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・学期当初にプレセカンドスクールの概要や目的の説明をICT機器を活用しながら行った。
- ・雪国の暮らしや当地の歴史など児童が興味や関心をもったことについてグループごとに調べ
学習を行った。調べたことは紙にまとめてポスターセッションを行った。
- ・学年では、音楽の時間に合同で、交流会や閉校式に感謝の気持ちを伝える歌を決めた。
- ・出発2週間前からは、班長、副班長、生活係、レクリエーション係に分かれて、当日の仕事

の確認や準備をした。

2 事後の学習内容

- ・プレセカンドスクールの体験の中で学んだことや今後の生活に生かしたいことを振り返り、作文にまとめて、学校公開で保護者や地域の方々の前で学習の成果として報告した。
- ・来年度にプレセカンドスクールに行く3年生が、「行きたい」と思えるように、どんなことを体験し、学んできたかを伝える「プレセカンドスクールを伝えよう」という活動を総合的な学習の時間に行った。グループごとに発表方法を考え、3年生に向けて発表を行った。
- ・11月に民宿の方々に来ていただき、校庭で田植えをした稲をぬか釜で炊いて食べる活動を体験した。お世話になった民宿の方々と再会して、感謝の気持ちを伝えた。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 上越国際スキー場トレッキング

2日目に、上越国際スキー場でのトレッキングを行った。天気にも恵まれ、予定通り登頂を開始した。

途中、道端に咲く花や植物や動物を観察しながら歩いた。地上を見下ろす風景を見て、自然の雄大さを多くの児童が感じた。山頂からの景色には、どの児童たちも「すごい」「きれい」と感動の言葉を口にしていた。登りや下りを通して、疲れながらも児童たち同士で声を掛け合い、励まし合いながらトレッキングを終えることができた。自然に親しむことができ、達成感を味わうことができた。



【トレッキングの様子】

2 田植え体験

1日目の昼は民宿の方に講師になっていただき、近くの田んぼで田植えを行った。民宿の方から苗を2、3本ずつ指の第一関節まで土に入れることや、目印の十字にまっすぐ丁寧に植えることなど、田植えの仕方を教えていただいた。実際に体験してみると上手く植えられなかったり、田んぼに足をとられてしまったり、思うようにできない児童が多くいた。田植え体験を通して、米作りの大変さや農家の方々の苦労などを身をもって知ることができ、食べ物に感謝する気持ちをもつことができた。



【田植え体験の様子】

<社会体験活動>

1 塩沢つむぎ機織り体験・雁木通り散策

3日目の午前に、塩沢つむぎ機織り体験と雁木通りの散策をクラスごとに交代で行った。塩沢つむぎ機織り体験は塩沢つむぎ機織り記念館で行った。越後地方に伝わる伝統工芸の塩沢つむぎについて、歴史や織り方、糸の種類、生地ができるまでの行程について説明していただき、機織り体験を行った。糸を一本一本丁寧につむぎ、初めての体験ながらコツをつかみ上手に生地を織ることができた。雁木通りの散策では、ガイドの人に案内してもらいながら、雪国の街並みや工夫を知ることができた。また古い街並みから南魚沼の伝統や江戸時代当時の暮らしぶりを伺うことができた。児童たちはウォークラリー方式でそれぞれの場所でクイズに答え、楽しみながら学習することができた。

2 民宿の方との交流会

2日目の夜に、民宿の方々との交流会を行った。児童たちが主催をして、事前に学校で準備をした出し物や運動会で踊ったソーラン節を披露し、最後には、感謝の気持ちを表すためにメッセージカードや色紙などのプレゼントを渡した。短い期間であったが、児童たちなりに工夫をして感謝の気持ちを表すとともに民宿の方々と交流を深める良い機会になった。



【民宿の方々との交流会】

○児童の感想

- ・田植え体験という武蔵野市では絶対にできない体験ができて嬉しかった。農家の方々の苦勞を感じることができた。お米や食べ物の大切さが分かった。
- ・行きのバスレクは企画から実行に移すまで準備が大変だった。やってみるとみんな喜んでくれて嬉しかった。仲間との絆や何事も計画して行う力が付いたと思った。
- ・お父さんやお母さんにたくさん優しくしてもらって、とても嬉しかった。別れるのがとても辛かった。また、機会を見つけて会いにいきたい。
- ・食事の準備や整列、係の仕事など協力して生活することができた。仕事に責任をもって行動することで、みんなが楽しく生活できることが分かった。
- ・農業体験では色々な種類の苗や種を植えて楽しかった。本格的な農作業は大変だったけど、農家の方の苦勞をよく理解することができた。
- ・トレッキングが楽しかった。辛かったけどみんなで声を掛け合って登りきることができました。忍耐力や友情を深めることができました。
- ・指導員さんにいろいろ教えてもらった。一緒に話をしたり、生活について教えてもらったりして勉強になりました。
- ・農業体験が思い出に残っている。普段できない農機具を使ってした畑作業は忘れられません。最初は上手くできなかったけど、お父さんに教えてもらってわかりやすくて楽しかったです。

○セカンドスクールとの関連について

プレセカンドスクールでは、6つの班に分かれてそれぞれの宿に宿泊した。その中で、生活のルールを守ったり、仲間と協力して生活したりする体験ができた。上越国際スキー場のトレッキングや農業体験など東京ではできない自然体験を積んだことで豊かな情操を育むことができた。次年度のセカンドスクールも同様に分宿をするので、今年度の宿泊体験や集団生活で学んだことは十分にセカンドスクールでも生かすことができる。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・グループ活動を通して、友達同士で声を掛け合い、互いの関係が深まった。集団として時間やルールを守るという意識をもつことができた。
- ・民宿や現地の方々、指導員さんなど多くの大人と関わりをもつことで、様々な人に支えられていることに気づき、感謝の気持ちをもって生活するようになった。
- ・交流会の時間が長引き、消灯時間が遅くなってしまった。来年度は開始時間を早めるなど対策を講じていく。
- ・2日目のトレッキングが暑くて、何度も休憩をしたり、途中、本部宿からお茶を差し入れてもらったりした。暑さを考慮して登頂までの時間を設定するなど、天気や気温を踏まえた計画を立てていく必要がある。

第四小学校

群馬県利根郡片品村

9月12日～9月14日(2泊3日)

参加人数 男子25名 女子20名
計45名

○プレセカンドスクールのねらい

- ・片品村について関心をもち、調べたいと思う課題を見付ける。また、解決の方法を追求し、自ら解決することができる。
- ・調査や取材、体験を通し、人や自然と豊かに関わり、知識だけでなく体感を伴った理解をする。
- ・宿泊活動を通して自立した生活ができる。また、児童同士の関わり合いから、相手を思いやる心、コミュニケーション能力を伸ばすことができる。

○日程表

9月12日(水)		9月13日(木)		9月14日(金)	
7:45	学校集合・出発式	6:00	起床・健康観察	6:00	起床・健康観察
8:00	学校出発	6:50	朝食	7:00	朝食
11:30	片品村到着・開校式	8:15	各宿出発	8:00	荷物整理・清掃
12:00	昼食	9:15	尾瀬ハイキング	8:30	うどん作り体験
12:40	各宿出発	13:15	山の鼻 昼食	11:00	昼食
13:00	農作業体験	15:50	尾瀬ふらり館見学	12:15	閉校式
15:45	各宿に移動し顔合わせ	16:45	各宿着	13:00	片品村出発
16:30	宿周辺散策	17:00	入浴	16:00	学校着・到着式・解散
17:00	入浴	17:50	夕食		
18:00	夕食	19:00	宿の方へお礼の色紙を書く		
18:50	健康観察		健康観察		
20:00	学習の記録	20:00	学習の記録		
21:00	就寝準備	21:00	就寝準備		
21:30	就寝	21:30	就寝		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・群馬県利根郡片品村について、パンフレットや図書資料、インターネット資料を活用して調べ学習を行った。個々の課題設定は「尾瀬の自然や植物」「片品村の地形・天候・特産物」など実際に訪れて知りたいことをテーマに行った。調べた情報を紙面にまとめ、グループで新聞を作成した。作成したものを発表したり読み合ったりして理解を深めた。
- ・しおりを活用する方法やプレセカンドスクールにおける班や個人のめあて、またスケジュールや持ち物について、オリエンテーションを行い丁寧に確認した。また、班長や係ごとに集まり、宿における役割の確認も行った。
- ・集団での宿泊に関する心構えや約束については、教師の話聞いて児童同士が話し合いグループごとにめあてを立てた。

2 事後の学習内容

- ・プレセカンドスクールでの3日間の体験と感動について振り返り、作文にまとめた。
- ・プレセカンドスクールでの思い出を五・七・五に表現し、学校だより「だいし」に掲載した。
- ・プレセカンドスクールに対する3年生の興味・関心を高めることを目的として、現地での体験等を新聞にまとめた。
- ・3年生への報告会では、課題別に班を編成し内容を考え、発表した。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 尾瀬ハイキング体験

天候に恵まれ、爽やかな気候のもと、尾瀬の自然の中を散策した。尾瀬観光ガイド資格を持つガイドが1班に一人付き、尾瀬の自然についての説明を聞きながら歩いた。ガイドの方からの説明を聞きながら歩くことで、長時間でも飽きずに楽しみながら尾瀬の自然に興味をもつことができた。

帰路は上り坂が続き気温の上昇もあって汗ばむくらいであったが、途中で休憩をはさみながら、また友達同士で励ましの声を掛け合うなどし、全員無事に鳩待峠まで帰ってくることができた。



【尾瀬ハイキングの様子】

<社会体験活動>

1 農作業体験、環境保全型農業についてのお話

遊楽木舎にて、「トマトの収穫体験」「リンゴの木の雑草ぬき体験」「土や肥料についての学習」

を行った。化学肥料や農薬を使わないで土づくりを行う環境保全型農業への興味・関心をもつことができた。

トマトの収穫体験では、新鮮なトマトの見分け方を教わり、自分で選んだ物を一人一つもらうことができた。リンゴの木の雑草抜きでは、リンゴの木を無農薬で育てることの大変さを知った。作物が育つ土の特徴を知る場面では、実際に2種類の土を触り比較することで体験を通してより深く理解することができた。



【土や肥料についての学習の様子】

<生活・文化体験活動>

1 うどん作り体験

打ち合わせの際、宿の方に粉からの体験をお願いしておき、小麦粉からのうどん作りを体験した。粉から作るという体験は、ほとんどの児童が初めてであった。

「手でこねる」「足で踏む」「平たく伸ばす」「麺を切る」といった4つの過程を、宿のお父さん、お母さんが付き添い、安全に行うことができた。友達と作る手作りのうどんは、味もまた格別だったようでほとんどの児童が笑顔で完食していた。2泊3日の間に児童は宿の方とも打ち解けた様子で、温かい雰囲気の中で様々な活動をすることができた。家庭を離れて生活をする中で、自分たちで考えてすすんでお手伝いをしたり、友達同士で協力したりすることが自然にできるようになっていった。短い時間ではあったが、児童の成長を感じる事ができた。



【うどん作り体験】

○児童の感想

- ・私が1番楽しかったことは農業体験です。東京では学べないことを知ることができました。最初に触った土はにぎると少し固まり、ほぐすともとに戻りました。次に触った土はにぎってもあまり固まりませんでした。また、りんごにも病気があることを初めて知りました。りんごを無農薬で育てることが大変だと分かりました。
- ・心に残っていることは、ハイキングです。ガイドさんに色々なことを教わりました。全て木道になっていたのが驚きました。途中、アカハライモリを見つけることができました。尾瀬は空気がとてもきれいでした。また行きたいと思いました。
- ・うどん作りが楽しかったです。私は初めて粉から作りました。うどんがなかなか固まらなくて大変でしたが、宿のお父さんお母さんが手伝ってくれました。自分たちで作ったうどんは本当においしかったです。

○セカンドスクールとの関連(生かし方)

1年後に控えたセカンドスクールの前段階として、プレセカンドスクールでも分宿制を取り入れている。宿泊を通して、宿の方々との触れ合いを大切にする心や、すすんで自然に親しもうとする心、集団生活上のマナーやルールを大切にする態度を育むことに重点をおいている。今回の宿泊で、基礎的な集団生活の仕方を学び、セカンドスクールにつなげていきたい。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・農作業体験は、クラスごとに分かれて行った。ゆとりのある時間設定だったため、ハンモックで遊ぶなど、児童にとって楽しい時間が増えた。来年度も継続する。
- ・今年も1班に一人、尾瀬観光ガイド資格のある方に案内してもらった。尾瀬の動植物の説明を受け、学びを深めながら安全にハイキングを行うことができた。次年度も引き続きガイドを依頼する。
- ・以前の反省から、野外活動にふさわしい服装で参加するようしおりにイラストを入れたり実物を見せたりして、保護者への説明を行い、徹底を図っている。しかし、今年も数名、服装の徹底がされていなかった。次年度も服装や持ち物の説明を丁寧に行い、徹底を図る。
- ・昨年度、ハイキングの時間にゆとりがもてなかったとの反省から、今年度、ハイキングの時間設定を大きく変更していた。だが、新しい計画書のハイキング終了時刻がガイドの方に正確に伝わっておらず、昨年度の時間設定でハイキングが進んでしまっていた。学校が伝えたように旅行会社が手配できなかったことがあったため、改めて旅行担当者との連携、確認の徹底を図る。
- ・男性の指導員が女子部屋に入ることを嫌がる女子がいた。指導員を各宿男女1名ずつにし、入浴や就寝についても確認できるようにしてほしい。
- ・3日目のうどん作りでは、作業が速く終わってしまう宿が多くあったため、雨天プログラムの押し花作りなどプログラムをもう一つ入れることも検討したい。

第五小学校

山梨県南都留郡山中湖村

9月26日～9月28日(2泊3日)

参加人数 男子 36名 女子 33名
計 69名

○プレセカンドスクールのねらい

- ・富士山を含めた山中湖付近の自然について、現地で実際に見たり聞いたりしながら学習することを通して、他教科に生かすことができるようにする。
- ・集団生活のきまりを守り、友達と活動することを通して、共に協力して生活しようとする態度を育てる。
- ・大自然の中で豊かな経験を積み、心身を鍛え、感性を高め、学んだことを学習や生活に進んで生かすことができるようにする。
- ・総合的な学習の時間の活動を通して、すすんで調べたり行動したりし、自分で課題を解決する力を身に付ける。

○日程表

9月26日(水)		9月27日(木)		9月28日(金)	
7:45	学校集合・出発式	6:30	起床・洗面	6:30	起床・洗面
8:00	学校発	7:00	朝の会・朝食	7:00	朝の会・朝食
10:00	富士山世界遺産センター	8:40	荷物整理	8:15	大掃除・荷物整理
12:00	富士山五合目着・昼食	9:10	屋内ネイチャーラリー	9:30	閉校式
12:30	富士山トレッキング	11:40	昼食	9:45	宿舎発
16:00	宿舎着	12:00	宿舎発	10:15	忍野村着・ほうとう作り体験
19:00	星座の話 学習のまとめ	12:30	さかな公園	12:00	昼食(手作りほうとう)
19:45	健康観察・係活動	14:05	山中湖交流プラザきらら (山中湖畔散策)	12:45	忍野八海見学着
21:30	就寝	15:00	宿舎着	13:30	忍野村発
		19:00	室内レク	16:00	学校着・帰校式
		19:45	健康観察・係活動		
		21:30	就寝		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・総合的な学習の時間の学習として、「プレセカンドスクールを楽しもう～自然とのふれあい～」をテーマにかかげ、富士山などに関する課題を設定し、調べ学習を行った。
- ・主な調べ学習のテーマとして、富士山の成り立ち、富士山の自然、富士山のごみ問題などがあり、テーマごとに調べた。
- ・インターネットや図書資料などを使って調べたことをプレセカンドスクール「マイガイドブック」としてまとめ、友達と読み合い、交流した。

2 事後の学習内容

- ・調べたことや分かったこと、体験したことなどを各自、プレセカンドスクール新聞としてまとめた。
- ・帰校後、係ごとに反省や感想を出し合った。その内容を今後の学校生活に生かすことを確認して終えた。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 富士山五合目トレッキング

10人程度の班に1人の解説員が付き、富士山の植物や自然について詳しい説明を受けた。森林限界を実際に目で見て確認し、厳しい自然の中で生き抜くための植物の知恵について理解を深めた。また、磁石を用いた簡単な実験を通して、溶岩の性質について学習することができた。気温が低く、紅葉が始まっている木々もあり東京との気候の違いを実感した。



【富士山トレッキングの様子】

2 ネイチャーラリー

天候不順のため、宿舎の体育館で行った。8つのコーナー（やり投げ、匂い当てクイズ、ネットのくぐり抜け、サルの重さ当て、魚釣り、富士山クイズ、竹ぼっくり、木の実を探せ）を班ごとに順番にまわり、体を動かしたり体験したりすることで、自然に触れることができた。

一部のコーナーでは、野生動物の習性についての説明もあり、特にサルの生態やサルが実際に襲ってきたときの対処の仕方を詳しく学び、児童は興味深く聞くことができた。

3 忍野八海見学

クラスごとに時間差をつけて見学した。ガイドの方より池の名前の由来や歴史などについて説明を受けた。児童も事前学習で忍野八海について学んでおり、作成したガイドブックの内容を実際にその場で確認することで、富士山が生み出す自然の偉大さに気付くことができた。

<社会体験活動>

1 富士山世界遺産センター

30分間の環境学習プログラムで、富士山レンジャーの方から富士山の環境についての講義を受けた。富士山と東京スカイツリーや武蔵野市の気候とを比較したり、クイズに答えたりするなど楽しみながら講義を受けることができた。

また、富士山が抱えるごみ問題の現状を知ることができた。私たちが抱える課題を理解した上で、活動をスタートできたことは有意義であった。

2 富士湧水の里水族館(さかな公園)

富士五湖や周辺の川に住む魚を見たり、学んだりすることができた。児童が普段行くような海水魚の水族館ではなく、淡水魚の水族館ということで新たな発見がたくさんあった。

事前に調べた魚を実際に見て、その大きさに驚いたり、初めて知る魚に感動したりすることができた。シアターで「アユの冒険」の映像資料を観たり、生き物を実際に触る体験活動をしたりすることで、より富士五湖や周辺の川に住む魚へ理解や興味が深まった。

<生活・文化体験活動>

1 ほうとう作り

クラスごとに、2つの民宿に分かれて活動を行った。民宿の方に教えていただきながら、小麦粉をこねて、伸ばして、大きな包丁で切って仕上げた。出来上がったほうとうを民宿の方に調理してもらい、食した。野菜が豊富に入っていたので、好き嫌いを心配したが、ほぼ全員が完食した。自分で作ったほうとうの味は格別だった様である。ほうとう作りを通して、山梨県の郷土料理についての理解を深めた。



【ほうとう作りの様子】

○児童の感想

- ・富士山トレッキングでは、ガイドの方に説明していただき、富士山の植物の苦勞とがんばりがよく分かった。
- ・ネイチャーラリーは、外ではできなかったけれど室内でもいろいろな体験ができて楽しめた。
- ・やり投げは当たるとスッキリした。サルのおはなしが面白かった。
- ・さかな公園の水中トンネルは、魚が自分の周りを泳いでいるような気分になった。虫の展示もやっていて珍しいカブトムシも見られてよかった。
- ・ほうとう作りで特に難しかったのは生地をこねるところと伸ばすところだった。プロの人は練り方がとてもうまく、すぐに形をきれいにしていた。野菜がたくさん入っていておいしかった。

○セカンドスクールとの関連(生かし方)

セカンドスクールの実施に向けて、身辺自立等生活面の生活力の向上と友達との協力を重点を置いて指導を行った。

生活面では、気持ちのよいあいさつ、5分前行動、自分の荷物の管理など普段の学校生活の積み重ねを重視した。布団たたみや、活動の準備など自分のことは自分で行ったり、衣服の調整など体調管理も自分自身で行ったりすることで、自分で考えながら生活することができた。また、係を一人一役担うことで、それぞれが自分の役割に責任をもつことができた。

協力という面では、どの活動も学習班、行動班など班ごとに行ったことで、自分がよければよいという自分中心的な考え方から、みんなで出来るようにと考えて行動する力が育った。互いの個性を認め合い、困った時には助け合う姿が多く見られた。また、担任や指導員などの大人が関わり過ぎないことで、子どもたちが自分たちで新たな人間関係を築き上げた。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・富士山世界遺産センターで利用した環境学習プログラムの時間がやや延びて、展示物を見る時間があまり確保できなかった。富士山世界遺産センターの滞在時間を見直す必要があるだろう。(到着時刻は当日の交通事情にもよる。)
- ・ネイチャーラリーは、昨年度と同じように雨天プログラムであったが、一つ一つのコーナーの活動時間を長くしたり、動物の生態の話なども交えたりしたために活動全般が充実した。
- ・昨年度、宿舎に帰ってからの絵はがき作成は、時間的に難しかったという反省が上がっていた。今年度はあらかじめ学校で事前指導を行っていったため、現地での時間的余裕が生まれて活動がやりやすかった。今後も前年度の反省や活動を活かしていく。



【雄大な富士をバックに4年生集合】

大野田小学校

山梨県南都留郡山中湖村

6月20日～6月22日(2泊3日)

参加人数 男子61名 女子63名
計124名

○プレセカンドスクールのねらい

- ・プレセカンドスクールに向けて自分で知りたいこと、知らせたいことを決め、実際に体験し、さらに詳しく調べて伝え合う。
- ・学校で学んだことや日常生活ではできないことを体験して学びを深める。
- ・世界遺産の富士山周辺の自然に興味をもち、セカンドスクールにつながる自然観察の視点を育む。
- ・宿舎での生活を通して、友達と協力し助け合いながら生活する態度を育てる。
- ・保護者の元を離れる中で、自主的・自発的に生活する態度を育てる。

○日程表

6月20日(水)		6月21日(木)		6月22日(金)	
7:30	学校集合、出発式	6:00	起床、健康観察	6:00	起床、健康観察
7:45	出発	6:30	朝会、体操	6:30	朝会、体操
10:00	「よく見よう、じっと見よう 自然のつながり」	7:00	清掃、荷物整理	7:00	清掃、荷物整理
12:15	昼食	7:15	朝食	7:30	朝食
14:00	宿舎着、開校式	8:15	宿舎発	9:30	「作ろう 味わおう 郷土料理」
14:30	草木染め	9:30	「見つめよう プナ林の不思議」	11:30	昼食
15:30	避難訓練	13:00	昼食	12:30	閉校式
16:00	学習のまとめ	14:30	「自然の不思議を体験しよう」	13:00	宿舎発
17:30	班長会	16:30	宿舎着	15:30	学校着、帰校式、解散
18:00	夕食	17:00	学習のまとめ		
19:00	「見上げてみよう 夏の夜空」	17:30	班長会		
20:00	入浴、1日の反省、荷物整理	18:00	夕食		
	健康観察、就寝準備	18:00	「富士山の自然に関する話」		
21:20	消灯	20:00	入浴、1日の反省、荷物整理		
			健康観察、就寝準備		
		21:20	消灯		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・プレセカンドスクールのためや、集団行動、集団生活のルール、公共施設利用のマナーについてしおりや資料をもとに確認を行った。
- ・課題解決学習とするために、富士山の自然・文化・産業・人々の暮らしなどをキーワードに調べ学習を行い、自己の学習課題や観察の視点をもった。またインターネットを活用して自

分の学習課題を追究して調べることで、現地で学びたいことを明確にさせた。

- ・生活班の中で係分担をし、それぞれの係で集まって事前打ち合わせを行って、やるべき活動を明確にし、責任感をもたせた。
- ・草木染めの焙煎液となるハルジオンやヒメジオンを学校周辺で摘んで集め、絹のハンカチに絞り加工を施した。普段生活している武蔵野市と山梨県の伝統工芸を関わらせることにより、双方の地域のもつよさや特徴に目を向けさせた。

2 事後の学習内容

- ・自分の学習課題についてパワーポイントにまとめた。班ごとにパワーポイントをまとめて発表練習を行い、3年生に学んだことを伝えた。班で相談しながら3年生に伝わる言葉を選び、発表することができた。「3年生に伝える」という相手意識をもつことで、友達同士で意見を交換しながらよりよい発表の方法を粘り強く工夫する姿が見られた。
- ・理科の学習單元である「季節と生き物」では、武蔵野市の自然を見つめると同時に「プレセカンドスクールで行った山中湖では今頃・・・」というように、自分たちの住む地域と常に比べる視点をもって学習に取り組む児童もいた。プレセカンドスクールで自然を十分に味わうことからみられる姿である。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 よく見よう じっと見よう 自然のつながり

雨天であったため、屋内での学習を行った。生物多様性センターと富士山世界遺産センターの見学後、地元のインストラクターの方が生物の多様性や自然の生態系について詳しい説明をしてくださった。インストラクターの方からのヒントや視点を基に、話し合っただけで考える姿が見られた。翌日のトレッキングにつながる視点をもつことができた。

2 草木染め

事前に武蔵野市で取ったハルジオン・ヒメジオンを持って行った。また、山梨県の特選品である絹でできたハンカチに、割りばしや輪ゴムを使って、折り絞り、カゴ染めなど様々な絞りを入れた。炊事場に着くと焙煎液の草の匂いが漂ってきた。子どもたちはすぐに「何のにおいだろう？」と嗅覚を働かせ、大鍋の中にできている焙煎液に目を付けた。五感を敏感に働かせて反応を示す児童が



【焙煎液にハンカチを浸す】

多くおり、自然を十分に味わっていることが伝わった。武蔵野市の花を使って作っていただいた焙煎液にハンカチを漬けた。煮立った焙煎液は熱く、子どもたちは慎重に作業していた。その後鍋からハンカチを取り出し、水でよく洗い、ミョウバン水につけて色を定着させた。そしてまた水で洗った。この工程を繰り返し、最後にハンカチを広げた瞬間、浮かび上がった様々

な模様にも、児童の表情が輝いた。ハルジオン・ヒメジオンから美しい黄色が生まれること、自然の力、染め物の技術の素晴らしさを体感することができた。

3 見つけよう ブナ林の不思議

高鉢駐車場から西臼塚までトレッキングを行った。山道をインストラクターの方と一緒に一列に並んで歩いた。木の根が張り出しているところもあり、足を引っかけてしまいそうな道だった。しかし、友達の様子を気遣いながら活動する様子が見られた。やや霧がかかり晴天ではなかったが、自然の中を歩く気持ちよさを味わうことができた。インストラクターの方が各スポットに立ってその都度ブナ林の中の植物のありかたについて説明をしてくださったため、どの学級の児童もレクチャーを受けることができた。



【説明を聞きながらブナ林を歩く】

<生活・文化体験活動>

1 ほうとう作り

地元の方やインストラクターの方と共に活動をした。事前に郷土料理であるほうとうについて調べている児童もいたが、実際に地元の方の話を聞きながら作る作業を通して実感を伴った理解につながった。活動を開始すると野菜の皮むきをする担当、野菜を切る担当、麺をこねる担当など協力して作業を進める姿が見られた。指導員がクラスに2名付き、児童の様子を見ながら一緒に活動できたため、安全に進めることができた。

○児童の感想

- ・自然が動物を守り、動物が自然を守っていることを学びました。もっと動物のことを知りたかったです。
- ・ブナ林では、バイケイソウが増えていました。シカはバイケイソウを食べずに好きな草ばかりを食べてしまうので、シカが増えすぎると自然のバランスがくずれてしまうと思いました。
- ・ほうとう作りで一番心に残ったのは生地を伸ばしたことです。ほうとうの生地を伸ばすのは初めてだったので、やわらかくてびっくりしました。

○セカンドスクールとの関連(生かし方)

- ・「つなげよう・つながろう」をテーマとし、学習を進めた。事前学習の時からセカンドスクールや普段の学校生活につなげることで、また自分たちの経験を3年生に伝えてつなげていくことを意識付けし学習に取り組むことができた。
- ・主に、自然観察の仕方や課題解決学習の学び方を積み上げた。現地で培った自然を視る目、味わう心はセカンドスクールの学習課題の調べ方や学んだことのまとめ方につなげた。

- ・友達との集団生活の中で、一人一人役割を担って活動する経験をすることにより、児童の自主・自立・協力の心を養うことができた。また、荷物の準備、5分前行動、部屋の整理整頓など生活上のルールやマナーを再確認するよい機会となり、セカンドスクールに向けての自信につなげることができた。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・同じインストラクターが3日間付き添ってくださり、児童の様子をよく見ながら自然についてレクチャーしてくださったため、セカンドスクールにもつながる「自然を視る目」を養うことができた。また、活動と学習をより深く結び付けることができた。
- ・各学級に2名の指導員を配置したため、安全面の確保や個別の支援などを十分に行うことができた。
- ・雨天時のプログラムで今回使わせていただいた生物多様性センターや富士山世界遺産センターは学習アクティビティーが充実しており、児童の自然に対する興味関心が大きく広がった。4学級とクラス数が多いため、各施設を2学級ずつ交代しながら訪問した。このような学校事情にも柔軟に対応していただけたことがありがたかった。
- ・2日目のブナ林のトレッキングに時間がかかり過ぎた。体力的にもブナ林と宝永火口を両方歩くことは難しい。雨天時プログラムだった駒門風穴を天候に関係なく午後のプログラムにして、午前には晴れていれば宝永火口、荒天時はブナ林のトレッキングとする。

プレセカンドスクール

境南小学校	山梨県南都留郡富士河口湖町
10月3日～10月5日(2泊3日)	参加人数 男子40名 女子40名 計80名

○プレセカンドスクールのねらい

- ・富士山や河口湖などの自然に親しみ、自然の素晴らしさを感じる。
- ・地形や気候を生かした農業体験を通して、農家の人々の工夫を理解する。
- ・富士山や河口湖などの自然について自ら調べる課題を設定し、その課題を解決する。
- ・地域の伝統食に触れ、伝統食に込められた知恵や工夫を知る。
- ・集団行動をすることで、互いが気持ちよく過ごせるように、生活の約束を守り自分の責任を果たせるようにする。
- ・家族とはなれて生活する中で、自主的・自立的に生活する態度を育てる。

○日程表

10月3日(水)		10月4日(木)		10月5日(金)	
7:55	学校集合・出発式	6:30	起床・検温・洗顔	6:30	起床・検温・洗顔
8:20	学校出発 (調布 IC より中央道へ)	7:00	朝の会(体操・散歩)	7:00	朝の会(体操・散歩)
9:20	談合坂 SA (トイレ休憩)	7:40	朝食	7:40	朝食
10:00	富士山世界遺産センター着 見学	8:10	荷物整理・活動準備	8:30	片付け・清掃
12:10	野鳥の森公園着 (昼食)	8:45	ホテル発(バス)	9:00	閉校式
13:00	クラフト体験	9:00	氷穴到着	9:10	ホテル発(バス)
14:30	クラフト体験終了	9:10	樹海コースハイキング	10:30	勝沼ぶどうばたけ着 三森さんのお話 農業体験
14:45	野鳥の森公園発(バス)	10:00	氷穴～風穴		・収穫
15:10	ホテル着・開校式 入室・荷物整理 避難訓練・入浴 学習のまとめ	10:20	風穴見学		・笠拭き
16:15	入浴	10:40	西湖公民館着		・草取り
18:30	夕食	12:10	ほうとう作り体験	12:00	昼食(弁当)
19:20	家族にはがきをかく	13:00	昼食(ほうとう)・休憩	13:00	扇状地見学
20:30	健康観察 就寝準備	13:20	西湖公民館発	13:40	勝沼ぶどうばたけ発 (バス)
21:00	消灯		コウモリ穴・クニマス博物館 見学		(勝沼 IC より中央道へ)
		14:20	コウモリ穴発	14:30	談合坂 SA 着 (トイレ休憩)
		14:40	ホテル着	15:30	学校着
			学習のまとめ		帰校式
			荷物整理		解散
		15:00	入浴		
		18:30	夕食		
		19:30	ナイトウォーク		
		20:30	健康観察 就寝準備		
		21:00	消灯		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・宿泊を伴う共同生活体験に向けて、集団行動のルール、集団生活のマナーについて指導した。特に、集団活動を楽しく安全に行うには、5分前行動を意識して、時間を守って行動することやきちんと整列すること、一人一人がしっかり話を聞くことが大切であることを確認した。
- ・生活班の係ごとに役割を話し合い、食事や入浴の仕方などの約束を決め、学年全体で共有し、プレセカンドスクールで実行できるようにした。
- ・自発的・自主的に活動できるよう、班長を中心に考えたスローガン「楽しく安全プレセカンド」を設定し、初めての宿泊行事をみんなで協力し思い出に残るものにしようと話し合った。
- ・境南タイム（総合的な学習の時間）に現地で行う調べ学習の内容について児童それぞれがテーマを設定し、事前学習を行った。
- ・調べ学習のテーマを決定する前に「日本の自慢 富士山」と題し、以下の内容を学習した。
 - ①富士山はどうやってできたのだろうか？
 - ②溶岩樹形とはどういうものだろうか？
 - ③富士の樹海とはどんなところだろうか？
 - ④富岳風穴とはどんなところだろうか？
 - ⑤富士山のある山梨県とはどんなところだろうか？

2 事後の学習内容

- ・課題別の学習では、宿泊体験や自然体験、農作業体験、友達との交流などを入れ、プレセカンドスクールの思い出を振り返り、同じ課題のグループで模造紙にまとめた。
- ・10月下旬に3年生を対象にプレセカンド体験発表会を行った。各自が現地で体験したことや本やインターネットで調べたことから発表資料や原稿を作った。自分の伝えたいことをまとめ、次年度にプレセカンドスクールを体験する3年生に宿泊体験の様子や自然体験の素晴らしさを伝える活動を通して、高学年に向けての自覚を感じた。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 樹海ハイキングコース

氷穴から風穴まで樹海の中を歩く30分ほどのハイキングコースを歩いた。火山で流れ出た溶岩の上に木々が生え、根が横に伸びている様子や、ガスが抜けて大きな穴が空いているところを見て、自然の威力を実感することができた。



【樹海ハイキングコース】

2 富岳風穴見学

富岳風穴は青木ヶ原樹海の中の遊歩道の先にある溶岩洞窟である。急勾配の階段を下りて行き、低い天井に気を付けながら奥に進むと、そこは気温0℃の暗闇。溶岩樹形や縄状溶岩、氷

柱などが見られる。総延長 201 メートル、高さは 8.7 メートルにおよぶ横穴で、所要時間 20 分程である。児童はこの季節に氷が残っているのを実際に見て、その寒さに驚いていた。こうした溶岩洞窟は、昔は蚕のさなぎや植物の種などを保管する天然冷蔵庫として使用されていたと説明書きを見て納得した様子であった。

3 コウモリ穴・クニマス博物館見学

絶滅したと思われていたクニマスについて、博物館の資料を見て学ぶことができた。コウモリ穴では、コウモリの住処である洞穴を友達と声を掛け合いながら、安全に見学する様子が見られた。児童は、しゃがまないと通れないほどの道を進むごとに、自然の造形物のすごさを感じていた。



【コウモリ穴見学】

<社会体験活動>

1 ぶどう畑での農作業体験

まず、農業体験でお世話になる方の紹介、ぶどうの種類の話や勝沼の気候を生かしたぶどうづくりについての話を聞いた。気候や地形によって見た目も味も違うぶどうができることを知り、ぶどうへの興味・関心が高まった。

次に、草取りと笠拭きとぶどう収穫を行うためにクラスごとに分かれて体験学習へと入った。現地の指導員の方の指導で安全に作業ができた。

児童は説明のとおり、ぶどうを傷付けないように気を付けながら収穫することができた。

収穫や草取り、笠拭きの作業を体験することによって、児童は、安全でおいしい農作物を育てる苦労や工夫を体感することができた。さらに、働いている方々の努力や苦労、食べ物の大切さについて考えることができ、有意義な活動になった。



【ぶどう畑で笠拭き体験】

<生活・文化体験活動>

1 クラフト体験

山を守るために伐採した木々などの中から好きな材料を選び、工作を楽しんだ。すべての材料が河口湖周辺で採れたものだと知ると、どの児童も驚いていた。



【クラフト体験の様子】

2 ほうとう作り

キャンプ場近くの西湖公民館を借りてほうとう作りを行った。地元の方々から、細やかなアドバイスをもらいながら、18 班全てが時間通りにほうとう作りを終え、食べることができた。児童にとって初めての体験だったが、準備や受け入れ態勢が整っており、楽しく安全にほうとう作りを行い、郷土食を味わうことができた。

○児童の感想

- ・富士風穴は、とても寒くて、驚きました。昔の人が自然の力を上手に使っていたことを知ることができました。
- ・富士山世界遺産センターでは、事前に調べた資料よりも、分かりやすいものがあり、実際に現地に行き、学ぶことの大切さに気付きました。
- ・農業体験を通して、普段何気なく食べているぶどうには、人々の苦労が積み重なってできたことを深く知りました。
- ・ぶどうのかさには、多くの役割があることを教えてもらいました。雨や風をふせぐだけでなく、害虫よけや、葉っぱに農薬をかけるときにぶどうの実に農薬がつかないようにするなど、様々な役割があることを知りました。
- ・ぶどうを大きく育てるために、実が小さいときに数を減らしていることを知りました。一房一房、手作業でやることに農家さんの努力や苦労を感じました。
- ・プレセカンドスクールを通して学んだことは、自分たちで行動することです。初めは、難しかったですが、学習が進むにつれ、できるようになりました。これからの学校生活に生かしたいです。

○セカンドスクールとの関連について

友達との集団生活を経験することにより、自信をもって来年度のセカンドスクールに臨めるようにと考えて計画・実施した。全員が楽しく気持ちよく生活するために大切なことを全体で確認し、意識して行動するよう指導した。また、課題追究型の学習過程で、学習課題の立て方や資料の表現方法などを学んだ。それがセカンドスクールにも生かされると考えている。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・富士山世界遺産センターでは、富士山の成り立ちを知るための映像や職員による講話の時間を設けた。講話の内容が中学年の児童には、少し難しさを感じた。そのため、来年度は、内容を易しくし、さらに富士山への興味・関心が高まるように調整をする。
- ・ぶどう畑の方に農業や土地の特徴に関して話をしていただいたことを、事前学習と事後学習に深く結び付けることができた。
- ・雨天プログラムで行った、コウモリ穴見学では、午前には風穴を見学していることで、洞穴の違いを感じながら見学をすることができた。自然の造形物を肌で体験したことが、印象深く残っていることを、事後の学習のまとめに書く児童が多かった。
- ・伝統食であるほうとう作りを体験することは、プレセカンドスクールのねらいを達成するためにとっても効果的であった。作業をしながら、地元の人にほうとう作りの由来を聞く児童もいた。

本宿小学校

山梨県南都留郡山中湖村

10月3日～10月5日(2泊3日)

参加人数 男子36名 女子31名
計67名

○プレセカンドスクールのねらい

- ・富士河口湖町の自然や文化、友達や土地の人々とのふれあいや普段できない体験を通して、自然やその土地の文化を学ぶ。
- ・富士河口湖町の気候や自然、風土の中に身をおくことにより、主体的に活動し、その土地のよさを学ぶ。
- ・宿泊生活等を通して、自立に必要な知識・技能を身に付けるとともに、共同で生活できる力や協調性を身に付ける。

○日程表

10月3日(水)		10月4日(木)		10月5日(金)	
7:45	学校集合・出発式	6:30	起床	6:30	起床
8:00	出発	7:00	朝の会	7:00	朝の会
9:00	談合坂SA(トイレ休憩)	7:20	食事係朝食準備	7:20	食事係朝食準備
9:30	山中湖IC	7:30	朝食	7:30	朝食
10:30	生物多様性センター見学	8:30	宿舎発	8:30	部屋の掃除、荷物の整理
12:00	昼食	10:00	富士山トレッキング	8:45	閉校式
14:00	宿舎着・開校式	12:30	昼食	10:30	ぶどう狩り
14:45	荷物整理、避難訓練	13:30	青木ヶ原樹海ハイキング	11:30	昼食
15:00	ほうとう作り	16:00	宿舎着	12:30	一久園発
18:00	夕食	17:00	入浴	13:00	勝沼IC
19:00	入浴	18:00	夕食	13:30	談合坂SA(トイレ休憩)
19:45	自然の話	19:30	自然の話	14:30	調布IC
20:30	健康観察、明日の準備	20:30	健康観察、明日の準備	15:00	学校着・帰校式
21:00	就寝・消灯	21:00	就寝・消灯	15:30	解散

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・プレセカンドスクール実施前に山梨県に関する課題をいくつか設定した。それぞれが興味をもった課題について個人で調べ学習を行い、分かったことを各クラスで発表した。
- ・宿泊を伴う共同生活に向けて、集団行動のルール・マナーについて指導した。特に、集団行動を楽しく行うには、時間を守って行動することや、一人一人がしっかり話を聞くことが大切であることを学習した。

2 事後の学習内容

実際に見聞きしたこと、体験したことをグループごとにまとめた。「プレセカンドスクールのことを3年生に伝えよう」というテーマでそれぞれが工夫した発表を行った。青木ヶ原樹海、富士山やほうとう作り、ぶどう狩りなど体験したことを寸劇で表現したり、粘土でほうとうの作り方を実演したり、3年生に分かりやすく伝えた。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 富士山五合目トレッキング

当初は4グループに分かれて1グループに1人ガイドが付いて歩く活動を考えていたが、雨が降り、風もある天候だったため、全体で並びながら五合目のトレッキングを行った。あいにくの天候で、頂上や下の景色を見ることはできなかったが、富士山特有の植物の観察ができ、大自然を感じながら活動ができた。



【富士山五合目トレッキング】

2 生物多様性センター見学

展示物を見て触ったり映像を観たりしながら生物の多様性について学んだ。また、見学した内容に合わせ、夜に、自然について話を聞くことで、生物多様性は、生態系のバランスを維持する上で重要であるばかりでなく、私たち人間の生活にも計り知れない恵みをもたらしてくれることが分かった。

3 青木ヶ原樹海ハイキング

本来はグループに分かれて、グループに1人インストラクターが付いて活動を行うはずであったが、天候が悪かったため、クラスごとに行動した。ここでは、青木ヶ原樹海の自然について学習した。樹海の特徴である溶岩の上に木がむき出しになっている様子や、溶岩樹型を眺めながら



【青木ヶ原樹海ハイキング】

普段立ち入ることのない樹海を歩いた。大室山まで歩き、樹海の木と大室山の木の根っこの様子を比較することができた。

4 ぶどう狩り体験

ぶどうの取り方やぶどうの種類などの話を聞いたり質問したりした。実際にぶどうを取る時に、農家の方が注意していることを実感しながら体験することができた。また、取ったぶどうは家族へのお土産になるので、子どもたちは家族のためにおいしそうなぶどうを選んだ。

<生活・文化体験活動>

1 ほうとう作り

班ごとに現地講師の指導のもと、具になる野菜を切る活動、麺を作る活動を行った。仕事を分担しながら協力して作業を行う姿が数多く見られた。粉から麺を作る作業はほとんどの児童が初めての体験で、始めは恐る恐る手を入れていた児童もいたが、時間が経つうちに、だんだんと作業に熱が入った。出来上がったほうとうは夕食として食べた。普段少食の児童もよく食べた。



【ほうとう作り】

○児童の感想

- ・自然の話聞いて、自分達が生きているのは、自然のおかげだと思いました。これからは自然を大切にしていきたいです。
- ・ほうとう作りは、野菜を切るのが大変でした。生地の伸ばし方を教わって、力を入れすぎないように工夫して作ることができました。みんなで作ったほうとうはおいしかったです。
- ・富士山に初めて行きました。天気が悪くて少ししかトレッキングができなかったけれど、下を見ると霧がかかっていて、とても高いところにいるんだと思いました。今度は頂上まで登りたいです。
- ・実のつまったぶどうを見つけて狩ることができました。持ち方や切り方も教わったとおりにできました。

○セカンドスクールとの関連(生かし方)

セカンドスクールに向けてということで、集団行動、自立など多くのことを指導できた。プレセカンドスクールでは、3日間の日程の中で充実感を味わわせるために体験活動を多くし、プログラムを組んだ。また、事前・事後学習を計画的に進めた。

来年度のセカンドスクールでは長期間家庭を離れるため、身辺自立ができるようプレセカンドスクールの指導にあたった。

学習においては、事前に山梨県について調べたほか、テーマを決めて事前学習に取り組んだ。

プレセカンドスクール後には、実際に体験したことをまとめ、発表する学習活動を行った。セカンドスクールにおいても同じように事前・事後学習を実施する予定であるが、今回の学習経験を生かし、児童はよりスムーズに取り組めるようになると考えられる。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・体験的な活動を多く設定したことで、普段できないことを主体的に学ぶことができた。
- ・一つの宿に泊まったことで、指導員や担任が手厚く児童の様子や学習を見取り、支援することができた。来年度の分泊に向けて大変成果があった。
- ・体験学習を効果的に行うためにも現地スタッフとの事前の綿密な打ち合わせが必要である。

千川小学校

山梨県南都留郡富士河口湖町

10月1日～10月3日(2泊3日)

参加人数 男子30名 女子28名
計58名

○プレセカンドスクールのねらい

- ・富士山周辺の自然や現地の人々の暮らしに関して課題をもち、見学や体験、交流を通して、自らすすんで課題を解決しようとする意欲や態度を育てる。
- ・初めての宿泊行事を通し、集団生活の基本的な力を身に付けるとともに、友達のよさに気づき、豊かな人間関係を育てる。
- ・自分でできることはすすんで行ったり、友達と協力して課題を解決したりすることを通して自主性や協調性を育てる。

○日程表

10月1日(月)		10月2日(火)		10月3日(水)	
7:40	学校集合	6:30	起床	6:30	起床
7:45	出発式	7:00	朝の会	7:00	朝の会
8:00	学校出発	7:30	朝食	7:30	朝食
		9:30	青木ヶ原樹海トレッキング	8:45	閉校式
10:45	紅葉台ハイキング	10:10	富岳風穴見学	9:40	菱山共選場見学
13:30	富士山世界遺産センター	11:15	ほうとう作り体験	11:00	ぶどう農家作業体験
14:40	宿舎到着・開校式	14:00	富士山科学研究所	13:00	昼食
16:00	河口湖畔散策				
17:30	夕食	17:30	夕食	15:00	学校到着
18:30	入浴	18:30	入浴	15:30	解散
19:30	学習の記録・はがき書き	19:30	学習の記録		
19:50	班長会議	19:50	班長会議		
20:00	検温、健康観察	20:00	検温、健康観察		
21:00	就寝	21:00	就寝		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・地図帳の統計資料を活用し、山梨県の基本情報をつかむ。(社会科の学習と関連付ける)
- ・昨年度のプレセカンドスクールの写真を見ながら、活動場所や活動内容、2泊3日の行動予定やプレセカンドスクールのめあてを知る。

- ・インターネットや図書資料を活用し、情報収集を行う（中央図書館の学校連携事業を活用する）。その中から興味・関心のある事柄、現地で学習したい事柄を課題として設定し、さらに情報を集める。
- ・児童間で情報交流を行う。集めた情報をシェアする（プレゼンテーションソフト・タブレットを活用する）活動を通して、現地で学びたいことを明確にする。
- ・学級活動「プレセカンドスクールを成功させよう」で、しおりの活用法を学ぶ。また、協力して集団生活を送るために、5つの役割を設け、係の仕事について話し合ったり、生活班での宿の過ごし方について確認したりする。

2 事後の学習内容

- ・「3年生に、プレセカンドスクールのよさを伝える」という目的に向けて、探究してきた課題についての事前学習と現地学習をまとめ、発表用のスライドを作成する。
- ・伝えたいことを整理し、発表原稿を作る。発表場面をイメージした練習を行う。
- ・発表会についての振り返りと、単元の学習全体についての振り返りを行う。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 紅葉台ハイキング

1日目、台風一過の晴天の下、ハイキングを行った。間近に仰ぐ富士山は大きく、雲が全くかかっておらず、美しい山容を楽しむことができた。道はぬかるんでいて児童は苦勞して登ってきたが、三湖台から青木ヶ原樹海や西湖などを眼下に見下ろすことができ、達成感を味わうことができた。また、生き物に関心をもつ児童たちはセンチコガネやクルマバッタなどを見つけ、歓声をあげていた。

2 青木ヶ原樹海トレッキング・富岳風穴見学

2日目、青木ヶ原をトレッキングし、富岳風穴を見学した。この地での活動を通して、多くの児童が富士山噴火の遺物である溶岩の存在を強く意識した。溶岩の上にできた森は、それまでに自分たちが出会ってきた森とは異なる雰囲気をもっていると感じ取る児童も多かった。富岳風穴内では、まず洞窟内の冷氣や氷に声があがった。蚕の繭や種子の貯蔵庫に目を見張る児童、珪酸華の群生地をのぞき込む児童、縄状溶岩や溶岩棚の形状に驚きを示す児童と、各々が興味をひかれた事物を比較的ゆったりと見学することができ、自然の不思議さや、自然を生活に生かしてきた当時の人々の知恵にふれることができた。

3 富士山科学研究所

2日目、この施設で「ふじさん自然教室」の2つのプログラムを受講した。そのうち、生態観察園ではフィールドビンゴを行った。現地の教育スタッフからレクチャーを受けた後、行動班ごとに協力しながら、「アカマツの木肌の手触り」「溶岩でできた大きな穴」「子どもの木」「動物や鳥のフン」「森のエビフライ」「水の音」などを見つけ出し、ビンゴを完成させていくこと

を楽しんでいた。もう一つのプログラムでは、世界で一番大きな翼をもつ「アルソミトラ」の種の模型を工作し、飛行実験を通してその飛び方を観察した。様々な植物の種を見て、その広がり方を学び、森林の形成に関連した知識を広げることができた。



【フィールドビンゴ】

＜社会体験活動＞

1 共選場見学・農作業体験(ぶどうの収穫)

3日目、菱山共選場で、農家で収穫されたぶどうを仕分ける様子を見学し、市場へ出荷する前の仕事について学んだ。この地域で生産されているぶどうの品種や、主な出荷先、等級の付け方などについて説明を受け、勝沼と国内の他地域や世界とのつながりに視野を広げることができた。

その後、ぶどうの生産農家やJAフルーツ山梨の方々の手ほどきを受け、加工用の「甲州」収穫作業を体験した。

おいしいワインになるように変色した実を切り落とし、ぶどうを入れたコンテナを運んだりすることを通して、仕事に携わっているという感覚をもつことができた。また、農作物を育て収穫するという仕事であるからこそその苦労や努力、喜びや楽しさについて聞かせていただくことで、事前学習に取り組む中で生まれた疑問を解決することができた。



【ぶどう農家での作業体験】

＜生活・文化体験活動＞

1 ほうとう作り体験

2日目、西湖公民館で、山梨県の郷土食であるほうとう作りを体験した。「手でこねる」「足で踏む」「のし棒で伸ばす」「大きな包丁で切る」工程を通して、道具や地元の方々の方々の技に触れ、伝統的な食文化の一端を学ぶことができた。また、協力しながら自分たちで作ったという思いをもち、同じ材料を使っているのに食感や味わいに違いが生まれるという、手作りの面白さを実感することができた。



【ほうとう作り体験】

○児童の感想

- ・プレセカンドスクールで本当の富士山を見た。行く前は、上の方は白く下の方は青いと思っていた。でも、近くで見ると、ごつごつしていて、茶色だったのでびっくりした。
- ・東京にも、ほうとうのような郷土料理があるのか、それはどんなものかも調べてみたい。
- ・「外の仕事なので、季節の変わり目や、紅葉や天気などに気付けて楽しい。だから頑張れる。」と、ぶどう農家さんから聞いた。実際に体験してみると、そのとおりだと思った。鳥の鳴き声など、その日の自然を感じられて、気持ちよかった。
- ・協力の大切さを学んだ。並んで集まるときに声を掛けたり、次の日の準備を手伝ったり教え

たりした。ぼくが助けられたこともあった。今も、声掛けや手助けを続けるようにしている。

- ・一緒に寝たり、お風呂に入ったりして、いつも家族としていることを友達とできたことが楽しかった。一緒に生活すると、その人の性格がよく分かった。面白かったり、元気だったり、今までは知らなかったその人のよさを知った。

○セカンドスクールとの関連(生かし方)

- ・「友達と楽しい時間を分かち合えた」という思いが集団宿泊に対する自信を生み、「プレセカンドスクールで学んだことをセカンドスクールに生かしたい」という期待感や意欲の向上につながっている。
- ・初めての宿泊行事であるプレセカンドスクールにおいて、本校では、教員を含めた全員が一つの宿舎で生活する。その利点を生かし、個々の状況を担任が把握し支援しながら集団生活の基本的な力を育むことができた。セカンドスクールでは分宿となり、宿泊期間も1週間にわたる。学年・学級活動や行事等において、プレセカンドスクールでの経験を想起させながら、そこで培った「自主」「自立」「協働」の気運を高めていき、セカンドスクールでの集団生活・集団行動に生かしていく。
- ・先を見通した行動、他者への気配り、ルールやマナーの遵守、持ち物の準備や整頓等の生活スキルや対人スキルを高めていくことで、セカンドスクールの満足度をより高める。
- ・学習面においては、単元の活動のゴールを「3年生にプレセカンドスクールのよさを伝えよう」と設定することで児童の活動意欲を高め、持続させ、事前学習—現地学習—事後学習の3つの学習過程を発展的に展開することができた。セカンドスクールに向けて、収集した情報の整理分析や表現スキル等を高めていくことで、学びの充実が期待できる。また、「武蔵野市と富士山周辺との違い」を見付けるといった比較の視点をもって対象を捉える手法は、「ぶどう栽培と米栽培」、「ほうとうと笹団子」等、プレセカンドスクールの教材とセカンドスクールのそれを対比的に捉え、学びをつなげたり深めたりすることに生かしていく。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・バスレク計画実行等、実践的態度や協力して活動に取り組む姿勢に成長が見られ、児童相互のつながりが強くなった。
- ・明確な目的意識をもってタブレットを活用する学習機会を設けたことで、児童がタブレットの操作に慣れ親しむことができた。
- ・富士山科学研究所で受講するプログラムを2つにし、活動量を増やすことができた。内容的には、施設内の展示物を見学したり図書資料を閲覧したりすることで、富士山周辺の自然に関する調べ学習を深める時間を設けたい。
- ・河口湖畔での朝会后、朝食の準備がやや慌ただしかった。起床を6時に早め、河口湖畔の自然に触れる時間と朝食準備の時間の両方を確保したい。

井之頭小学校

東京都西多摩郡奥多摩町

10月10日～10月12日(2泊3日)

参加人数 男子51名 女子32名
計 83名

○プレセカンドスクールのねらい

- ・自然体験学習を通して、自然に親しみ、心と体を鍛えるとともに、自然環境を大切にする心を養う。
- ・体験活動や地域の方々との交流を通して、奥多摩町と武蔵野市との違いや共通点に気づき、課題を設定し探求させる。
- ・集団生活について学び、ルールを守り、互いに協力し合うことの大切さに気付かせる。

○日程表

10月10日(水)		10月11日(木)		10月12日(金)	
7:30	学校集合・出発式	6:00	起床・健康観察	6:00	起床・健康観察
8:00	バス乗車、出発	7:00	朝食	7:00	朝食
10:00	古里文化会館到着、開校式	9:10	ガイドウォーク・水生昆虫観察	8:35	宿の方とお別れの集い
10:40	学校交流 古里小学校、氷川小学校	11:30	昼食	9:30	小河内ダム見学 水と緑のふれあい館見学
12:30	給食交流	12:10	ガイドウォーク・水生昆虫観察	12:00	昼食・閉校式
14:00	日原鍾乳洞見学 ビジターセンター見学	15:15	各民宿着	13:00	奥多摩町出発
16:30	各民宿着	15:30	課題別学習・学習のまとめ 宿の方へのお手紙書き	15:00	到着式
17:30	夕食	17:30	夕食	15:30	解散
18:30	奥多摩民話	18:45	星空観察		
19:30	学習のまとめ、入浴	19:45	学習のまとめ、入浴		
21:00	就寝	21:00	就寝		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・総合的な学習の時間では、奥多摩町について調べ、地域の概要をとらえた。その後各自の興味や関心にに基づき学習課題を設定した。「民話」「歴史」「動植物」「郷土料理」「特産品」など一人一人が課題を選択し、本やインターネットを活用し調べ学習を進めた。出発前に各自の課題を確かめさせ、当日への活動意欲を高めた。
- ・学校交流のために武蔵野市の特徴を調べ、コンピュータを用いたプログラミング（スクラッチ）を使って町の名所を紹介する発表資料をまとめた。

- ・社会科「暮らしをささえる水」では、水源林について学習した。水源林の働きやダム役割について学び、小河内ダムの場所を地図帳で確認した。
- ・理科「星の明るさや色」の学習を行い、位置や名称などについて学習した。

2 事後の学習内容

- ・学習課題に沿って、現地で調べたことや考えたことをリーフレットや新聞にまとめた。また、学んだことをどのように学芸会で伝えるか、みんなで考え、発表を行った。学芸会では、全校児童や保護者に向けてプレセカンドスクールでの学びを伝えることができた。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 日原鍾乳洞見学

鍾乳洞では、通路に沿って辿りながら見学することができた。洞内の眺めは、数十万年以上の時が積み重なって生まれたものであり、歴史が刻み込まれていることに驚き、神秘的な風景に感動していた。また、奥多摩町の地層の特徴を知ることができた。



【日原鍾乳洞】

2 ガイドウォーク

自然の中をガイドの方と共に歩いた。森の中で発見したことをもとにしたビンゴゲームをしながら動物や植物を見つけた。また、土に水を流してみても染み込む様子も熱心に観察していた。奥多摩の森林の働きや生息する動植物について体験的に学んだ。



【ガイドウォーク】

3 水生昆虫観察

水生昆虫を採取して観察した。川の水温を体感しながら、石の下の生き物を採取した。その後、自分が気に入った河原の石を一つ選び、見つけた生き物を石にスケッチした。奥多摩に生息する水生生物やその生育環境を知ることができた。



【水生昆虫観察】

＜社会体験活動＞

1 奥多摩ビジターセンター見学

ビジターセンターの解説員の方に館内を案内していただき、見学した。奥多摩の動植物、季節の見所などを詳しく学ぶことができた。児童は、熊や鹿の剥製を見て声を出して驚いていた。見学を通して動植物の特徴や奥多摩の地域がどんな所なのか知ることができた。

2 小河内ダム見学

小河内ダムの展望塔から迫力あるダムの姿を見ることができた。展望塔の中には、流域図やダムの歴史を紹介した展示コーナーもあり小河内ダムについて学んだ。水と緑のふれあい館では、水源を守る森林の働きについて理解を深めることができた。

＜生活・文化体験活動＞

1 地元の小学校との交流

古里小学校と氷川小学校の児童と、学習発表・スポーツ交流・給食交流を行った。お互いが自分たちの住んでいる武蔵野市や奥多摩町の地域についての発表を行い、奥多摩町と武蔵野市の違いや共通点について理解し、それぞれの良さを知ることができた。また、スポーツ交流では、ドッジビーや鬼ごっこをした。さらに、給食も一緒に食べ交流を深めていた。



【学校交流】

2 奥多摩民話

福祉会館に集まり、民話を聞いた。語り部の方が「猿おどり」「熊をくすぐる」「西久保の天狗さま」の民話を語ってくださった。奥多摩は、古い歴史が眠っている町であることを知り、身を乗り出して聞いている児童の様子も見られ、地域の文化について触れることができた。



【奥多摩民話】

○児童の感想

- ・奥多摩町について、「ここが本当に東京なのかな」と思いました。私たちが住んでいる武蔵野市と違い、奥多摩町は、山に囲まれて、緑の自然がたくさんありました。
- ・私は、自立について学ぶことができました。家族と離れて2泊3日過ごしてみて、少しずつ自分のことは自分でできるようになりました。
- ・学校交流では、奥多摩の子どもは、ランドセルに熊よけの鈴をつけないといけないという発

表を聞いてびっくりしました。武蔵野市では、熊は出ないので奥多摩は自然豊かであると思いました。

- ・奥多摩の学校の子どもたちは、みんな運動が得意でした。多分、山を登ったり下ったりしているからだと思いました。学校交流では、武蔵野市にも奥多摩町にもいい所がありました。お互いの地域について発表し合い、違いに気付くことができました。
- ・奥多摩町に着いたら武蔵野市と違い、建物の代わりに自然がたくさんありました。見渡す限り山でした。山を歩いたり川で生き物を観察したり自然にたくさん触れることができました。
- ・私は、集団生活で協力し合うことを学びました。プレセカンドスクールでは、集団生活が多く、協力し合うことが大切であると思いました。食事やお風呂など様々な場面で協力することが必要でした。協力できる友達がいることも嬉しかったです。この経験を生かして、学校でもみんなと協力し合い、色々なことに挑戦していきたいです。

○セカンドスクールとの関連(生かし方)

- ・セカンドスクールのように民宿に分宿し、初めての宿泊を体験することで、自立の意識を高め、友達と協力して生活することの大切さを感じることができた。集団生活のルールを守りお互いに協力し合うことの大切さに気付く経験がセカンドスクールに向けての自信と意欲へ繋がる。
- ・学習面では、奥多摩町は、どんな所か事前に調べ、自ら課題をもち、現地で調べたことや体験したことをまとめ、分かったことや学んだことを伝えるという学習過程がセカンドスクールにも生かされると考えている。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・今年度から奥多摩町という新しい実施場所で初めて行う活動もあったが、奥多摩町で事前に実地踏査をしっかり行うとともに、教員と奥多摩町の方々が話し合いながら行程を決定し、実行したことでほぼ計画通り安全に進めることができた。
- ・奥多摩町の小学校と交流する活動では、児童同士が関わり、奥多摩町と武蔵野市のそれぞれの良さや違いを理解していた。
- ・体験活動では、児童を二つのグループに分けたことで人数も半分になりそれぞれの見学場所でじっくり見学を行うことができた。
- ・水生昆虫観察については、時間を決めて生き物を採取するために川に入った。入る場合の事前準備やその後の活動については検討が必要である。
- ・宿の規模に差があったため、児童を分けることが難しかった。今後は、児童数によって宿泊する宿の数を増やすことも検討する必要がある。
- ・予算については、活動内容や単価を確かめて見直す必要がある。

関前南小学校

東京都西多摩郡檜原村

9月12日～9月14日(2泊3日)

参加人数 男子25名 女子25名
計50名

○プレセカンドスクールのねらい

- ・ 檜原村の自然とのふれ合いを通して、自然のすばらしさを感じ、自然を大切にする気持ちをもつ。
- ・ 宿泊生活を通して、自立心や自律心などの集団生活に必要な態度について学ぶ。
- ・ 檜原村の豊かな自然、それを生かした産業など、檜原村での体験を基に、自ら情報収集し、意欲的に学習する。
- ・ 友達との集団生活や民宿の方々との交流を通して、協力することの大切さを学び、お世話になった人々に感謝の気持ちを表す姿勢を身に付ける。

○日程表

9月12日(水)		9月13日(木)		9月14日(金)	
7:30	出発式	6:30	起床・健康観察・清掃	6:30	起床・健康観察・清掃
7:45	出発	7:00	朝食	7:00	朝食
10:00	フォレストイングコテージ着 開校式	8:00	民宿出発	8:30	民宿出発
10:40	林業体験	8:30	都民の森着	9:00	井上食品見学
12:30	昼食	9:00	三頭山ハイキング	10:00	シクラメン栽培見学
13:15	水生昆虫観察	10:00	三頭大滝見学	10:30	井上食品発
15:15	製材作業見学	12:00	昼食	10:50	檜原小学校着
16:45	各民宿着・入浴	13:00	木工教室		交流会・学校案内
18:00	夕食	15:00	都民の森出発	12:15	昼食
19:00	宿の方との交流	15:15	数馬分校記念館見学	13:20	檜原小学校出発
20:00	学習の記録・明日の準備	16:15	各宿着・入浴		払沢の滝見学
21:00	消灯・就寝	18:00	夕食	14:30	払沢の滝出発
		19:00	学習の記録・明日の準備	16:45	学校着
		21:00	消灯・就寝	17:00	帰校式・解散

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・ 社会科の授業で、檜原村の自然や地形を生かして生活する人々のようすについて学習した。
- ・ 総合的な学習の時間に、自分が調べてきたい課題を見付け、グループをつくり、課題解決の見通しをもたせた。図書資料を使ったり、インターネットで調べたりして、現地で何を見た

り聞いたりしてくるのか、課題を明確にさせた。

- ・宿での係を決めたり、宿での過ごし方について話し合わせたりした。宿の方へ手紙と写真を送った。
- ・出発式や帰校式の役割分担をし、児童が主体的に進められるようにした。
- ・檜原小学校との交流に向けて、学校や武蔵野市を紹介するための準備をしたり、相手校の児童と楽しく交流できる活動計画を立てたりした。

2 事後の学習内容

- ・総合的な学習の時間において、「檜原村を伝えよう」をテーマに、事前に調べたことや体験したことをまとめ、グループごとに3年生児童と保護者を対象にした発表会を行った。それぞれ探究した課題ごとにグループで発表した内容は次のとおりである。

「林業体験」…林業の果たす役割や間伐の方法や実演紹介

「水生昆虫」…南秋川で観察した昆虫の種類や採取の方法を実演紹介

「三頭山ハイキング」…都民の森の施設や三頭山にいる動物や植物の紹介

「宿」…宿での生活や合掌造りの紹介

「滝」…檜原村にある滝のジオラマを作り、特徴を紹介

「数馬分校記念館」…模型を作り、展示してある資料や檜原村の小学校の歴史を紹介

「檜原小学校」…学校生活の様子や施設の特徴を紹介

「こんにやく」…こんにやく製造、工場で働く人々の工夫の紹介

「シクラメン栽培」…シクラメンの育て方や様々な種類の紹介

- ・社会科において、「わたしたちの東京都」の「山地の自然を生かした人々の暮らし」で山地の自然環境を生かしながら生活している人々の様子や産業の様子について学習した。プレセカンドスクールでの体験活動から、学習の理解が深まった。

- ・国語科において、「説明の仕方を工夫して、分かりやすく伝える文章を書こう」の学習では、檜原村で体験したことについて見出しや項目の立て方を工夫してリーフレットにまとめた。また、檜原村でお世話になった方々や檜原小学校の児童にお礼の手紙を書いた。



【ガイドの話を聞きながら三頭山ハイキング】

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 水生昆虫観察

南秋川で水生昆虫を採集して観察した。きれいな川の水に触れ、生き物を採集することにより自然と生物との関わりを考えることができた。また友達の採集した昆虫を見合う活動をし、様々な昆虫の種類を観察することができた。

2 三頭山ハイキング

三頭山ハイキングでは、三頭山の中腹にある三頭大滝を見学した。ハイキングで見つけた様々な動植物について、都民の森のガイドの方から詳細な説明を受けた。

<社会体験活動>

1 林業体験

林業体験では、地元の林業家から東京都、檜原村の林業について、森林の保全や管理、植林と間伐することの大切さについて学んだ。その後、林業に携わる講師の方々から間伐の仕方について指導を受けた。ロープを幹にかけ、木を倒す方向を定めてからのこぎりを用いて間伐体験を行った。児童6名あたり一人の講師で、きめ細かい指導を受けることができた。

2 檜原村の自然の学習

都民の森の森林館では、森林や動植物に関する展示を見学した。職員の方から檜原村の四季の変化により変わる様々な動植物の様子について説明を聞き理解を深めた。

3 数馬分校記念館見学

昔の檜原村の児童の様子の写真や掲示や、昔使っていた道具についての資料を見学した。記念館を管理されている廃校当時の先生から当時の学校の様子や民具について説明を聞くことができた。

4 地元の特産物についての見学

檜原村の産業であるこんにやく工場（井上食品）とシクラメン栽培農家を見学した。こんにやく工場では、特産のこんにやくのこだわりの製法について話を聞き、出来上がったこんにやくを実際に試食させてもらい、味を確かめた。シクラメン農家では、涼しい気候を生かして栽培している話を聞き、ビニールハウスの中に並べられた色とりどりのシクラメンを見学した。

<生活・文化体験活動>

1 地域の人々とのふれあい

檜原村の地域の人々との3日間のふれあいにより、地域のよさを感じることができた。1日目の夜に、宿舎の方と各宿で交流した。各宿で檜原村の特産物であるこんにやくやジャガイモスープ、ルバーブジャム作りをして交流した。宿の方との交流を深めるとともに、自分たちで協力してつくる作業は児童にとって貴重な経験であった。また、檜原村についての話を聞いたり、合掌造りの建物を見学させてもらったりした。

2 地元の小学校との交流

檜原小学校の児童と交流した。体育館でお互いの学校紹介をした後、グループに分かれ自己紹介やドッジボールをした。その後、校内を案内していただき、児童数や木材を生かした校舎の様子など、自校との違いを知ることができた。また、昼食を一緒に食べ交流を深めた。

○児童の感想

- ・ぼくは林業体験をしました。倒れた木を切って年輪を数えました。予想は20才でしたが、30才以上ありました。ぼくは予想より多くてびっくりしました。木を倒すことで、周りの木が細く弱くならないようにして山のためにいいことなんだと思いました。
- ・ぼくは、水生昆虫を見付けに川に入りました。水の中に入ったら冷たくてきれいな水で、普通の川とちがいました。オニヤンマを見付けました。友達に見せたら「すごい。」と言ってくれました。だれかが「サワガニがいた。」といったのでそこへ行って探したり泳ぐのが速いヒラタカゲロウを探したりしました。ぼくが調べて分かったことは、石を一個どかしてもいないし、すばしっこいので簡単には見付からないということです。
- ・わたしは、檜原小学校に行って一番おどろいたことは人数です。全校で43人しかいませんでした。でも、歌の音がきれいでした。うれしかったことは、私たちが帰る時に歌を歌ったり「さようなら！」とって手をたくさんふってくれたりしたことです。わたしもいつか他の学校の人たちが来たら相手をうれしい気持ちにしたいと思いました。
- ・こんにやく工場の井上食品ではバツタねりという機械を使って作っています。このバツタねりという機械は50年も前から受け継がれていることを聞き、すごいなと思いました。ほかのこんにやく工場と違って時間をかけていねいに作っていることがわかり感動しました。

○セカンドスクールとの関連(生かし方)

- ・初めての宿泊学習なので、体験活動の心構えや集団生活の指導に重点を置いた。自分の持ち物の準備や片づけ、整理整頓などができるよう意識付け、係活動を分担することで、集団として助け合って行動できるようにした。
- ・現地の方との交流を大切にし、気持ちのよい挨拶や、感謝の言葉を伝えられるよう指導した。
- ・課題をもって学習に取り組めるよう課題解決に向けての取り組み方からまとめ発表へ向けての学習の流れを指導した。



【水生昆虫採集後の観察会】

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・林業体験や都民の森のハイキングなど実際に自然の中での体験は児童の心に強く残った。ハイキングでは、都民の森の職員の方に同行してもらうことで、貴重なクマタカや、シカやクマの痕跡など山の現状を交えた話を聞くことができた。
- ・水生昆虫観察では、捕まえた昆虫を見せ合う活動、どんなものがどこでとれたかなど情報交換をすることができ、児童が活発に話し合っている姿が見られたのはよかった。
- ・2学期に入ってすぐの活動のため、事前準備が慌ただしかった。教師が進めてしまったが、もう少し時間があれば、児童からしてみたいことなど聞いて取り入れられた。

桜野小学校

山梨県南都留郡山中湖村

9月13日～9月15日(2泊3日)

参加人数 男子82名 女子73名
計155名

○プレセカンドスクールのねらい

- ・ 宿舎での集団生活や行動班での活動を通して、友達と協力し合いながら、自主的に生活する力を身に付ける。
- ・ 富士山や山中湖周辺の自然に触れ、自然を大切にしようとする気持ちを育てる。
- ・ 富士山や山中湖周辺での活動を通して文化、人々に触れ、私たちの生活を支えてくれる人や自然などに感謝する気持ちを育てる。
- ・ プレセカンドスクールの活動を通して、進んで調べたり行動したりし、自分で課題を解決する力を身に付ける。

○日程表

9月13日(木)		9月14日(金)		9月15日(土)	
7:35	校庭集合	6:30	起床	6:30	起床
7:45	出発式	7:00	朝の会	7:00	朝の会
8:00	学校出発	7:30	朝食	7:30	朝食
10:00	富士山世界遺産センター見学	9:00	宿舎発	8:15	大掃除
12:00	富士山5合目 昼食	9:30	コウモリ穴 樹海ハイク	9:00	閉校式
12:30	御中道トレッキング	12:00	きらら着、昼食	10:00	忍野村着
16:00	宿舎着、開校式		写真撮影、山中湖散策	10:30	ほうとう作り体験
16:30	入浴	13:40	富士湧水の里水族館	12:45	忍野八海散策
18:00	夕食	16:00	絵手紙書き	13:30	忍野八海発
19:15	絵手紙書き	18:00	夕食	16:00	学校着、帰校式
20:20	係活動	19:00	室内レク		
21:00	消灯	20:00	係活動		
		21:00	消灯		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・ 総合的な学習の時間の単元「プレセカンドスクールを成功させよう」で、山梨県に関する課題を設定し、それぞれが興味・関心をもった課題について、調べ学習を行った。

- ・主なテーマとして、富士山の形成の過程や歴史、富士山の自然、富士五湖、山中湖の自然、山梨県の食文化、忍野八海などについて調べた。
- ・インターネットや図書資料を活用し、調べたことをリーフレットにまとめ、友達と交流した。

2 事後の学習内容

- ・総合的な学習の時間の単元「プレセカンドスクールの体験をまとめよう」で、調べたことや分かったこと、体験したことなどを、各自、新聞にまとめた。
- ・「プレセカンドスクールで学んだことや考えたこと、楽しかったことなどを3年生に伝える」という目的意識をもち、まとめ方や発表の仕方を工夫しながら、発表を行った。

〇特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 御中道トレッキング

平坦な道ではあったが、初めてハイキングをする4年生にとっては、十分な運動量であった。自然解説員から、武蔵野市では見ることができない、樹木や植物について詳しく説明を受けた。その際児童が飽きることがないよう、イラストを示すなど、工夫があった。麓は天気が悪く、五合目からの眺めもすっきりしなかったが、山頂に近づくにつれ、富士山の山肌が赤く、きれいに見える様子に児童も驚きを見せていた。また、森林限界を実際に目で見て確認することもできた。



【富士山五合目からのハイキング】

2 コウモリ穴(溶岩洞窟) 樹海ハイキング

野鳥の森公園からコウモリ穴まで2時間ほどのハイキングを行った。溶岩が流れた後や苔が覆い茂るダイナミックな樹木などを見ながら、自然の力強さを肌で感じる事ができた。また、シカやリスなど、多くの動物が生息している跡も見ることができた。自然解説員の自然に対する幅広い知識と豊富な経験に基づく解説は、どの子もじっくりと聞き入る魅力的なものであり、終始、意欲的に自然観察をすることができていた。解説員は、20人程度の班に1名が付いた。解説員1人当たりの児童の人数が多いように感じたが、担任と指導員で児童の安全管理を行うことで、問題なくねらいとする活動が行えた。



【樹海ハイキングー苔の解説ー】

＜社会体験活動＞

1 富士山世界遺産センター

富士山御中道コースのトレッキングに向けて、事前に富士山の自然と歴史、文化などについて見学した。滞在時間が1時間という短い時間の中、解説員の解説を聞き、学習を行った。北館が富士山の自然を中心に構成されているのに対し、南館は富士山周辺の文化を中心に構成されている。富士山の文化という視点は児童にとって新たな発見となった。

2 富士湧水の里水族館

富士五湖や周辺の川に棲む魚を見たり、富士山周辺の自然や魚の生態について学んだりすることができた。富士山の湧水を使用した水槽は透明度が高く、遠くにいる魚まで観察できた。見るだけでなく、皮膚の角質を食べるドクターフィッシュと触れ合ったり、富士山の湧水に手を入れたりする体験的な学習もできた。展示方法が工夫されており、回遊水槽など自然に近い環境を整えていた。また、シアターホールでのハイビジョン映像では、山梨に棲む魚について4年生でも十分理解できる内容で上映されていた。



【真剣に観察する児童の様子】

＜生活・文化体験活動＞

1 ほうとう作り

学級ごとに、4つの民宿に分かれてほうとう作りを行った。宿の方に教えていただきながら、小麦粉と水を混ぜ、こねたり伸ばしたりして班員で協力しながら行った。粉から麺にする作業は、ほとんどの児童が初めて経験することもあり、慎重に取り組んでいた。昼食には学級のみinnで作ったほうとうを入れた「ほうとう汁」を食べた。自分たちで作ったほうとうは格別だったようで、普段の給食よりもたくさん食べる姿が見られた。



【力を入れてこねている様子】

2 忍野八海見学

ほうとう作りの後、クラスごとルートを変え、忍野八海を見学した。ガイドの方より池の名前の由来や歴史について、丁寧に説明していただき、興味深く見学をすることができていた。また、富士山の湧き水を触ることができ、想像以上に冷たいことに驚く様子が見られた。観光客が多くいることで、混雑が心配されたが、クラスごとに見学する池の順序を変えることで混乱することなく見学することができた。

○児童の感想

- ・山梨県のさまざまな見学先で多くのことを学びました。特に、樹海は300年たってもまだ、子どもの森だ、ということには大変驚きました。また、昔から伝わる富士山の話から、たくさんの人に、ずっと大切に守られてきたことも知りました。東京には緑が少ないため、もっと木を増やし、自然を大切にしたいと思いました。
- ・東京では見られないきれいな景色が見ることができました。雨や雪、風の影響で木が倒れてしまっていたけど、それでも頑張っている様子に自然の力強さを感じました。
- ・樹海ハイクでは、キノコが多く生えていました。森には木や土、自然の空気などのキノコが住みやすい環境が整っているのだと感じました。

○セカンドスクールとの関連(生かし方)

- ・プレセカンドスクールでは、全員が一つの宿で生活するのに対し、セカンドスクールでは分宿となるため、一人一人が自分の役割を自覚し、班の皆がよりよく生活するための工夫を考えることが大切である。そのために、プレセカンドスクールの事前学習において、係活動にも重点をおき、「みんなで協力して楽しいプレセカンドスクールにしよう」というスローガンのもと、教員主導ではなく、児童同士の話し合いによる課題解決の場面を多く取り入れ、準備を進めた。見学先や宿舎における会の司会・進行や挨拶、入浴や食事、部屋の整理整頓の声掛け等、自分たちで計画したことを実行する経験を積むことで、セカンドスクールで自主的に活動する児童につなげたいと考えた。
- ・プレセカンドスクールの活動を通して、自分から進んで調べたり行動したりし、課題を解決する力を身に付けることができた。セカンドスクールでは、更なる探究的な学習・活動ができるよう、事前—実践—事後学習において、「課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現」という探究の学習過程を設けた。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・世界遺産センターにおける活動は1時間ほどであった。南館は富士山周辺のことについて学ぶにはとても良い施設であるため、もう少し活動時間を捻出できるとよかった。しかし、北館の資料は1時間もあれば十分な内容であったため、北館利用時の学習方法を工夫することで、南館の活動時間の確保につなげていきたい。
- ・昨年度の反省から、今年度は各体験活動において、自然解説員を付けたり、現地の方との交流を多く設けたりした。それにより児童の知的好奇心が高まり、よりよい学びにつながった。
- ・御中道ハイクでは、五合目管理事務所で運営している自然解説員が設置されているが、児童数が多い学校は、実施不可となる。今年度は、NPO法人に依頼し、解説員を付けることができたが、次年度以降は、自然解説をしている他の機関も探す必要がある。
- ・生活指導員と教員で事前に共通理解を図り、充実した活動ができるようにする。
- ・宿との連携が円滑に行える、事前の打ち合わせを綿密に行う必要がある。(アレルギー対応)

平成31年3月発行

武蔵野市教育委員会

教育部指導課

〒 180-8777

東京都武蔵野市緑町2-2-28

TEL 0422-60-1897

FAX 0422-51-9264

平成三十年度

セカンドスクール・プレセカンドスクール実施報告書

平成三十一年三月

武蔵野市教育委員会